1節 放送番組の編成

国内放送番組編集の基本計画

「平成25年度（2013年度）国内放送番組編集の基本計画」は，放送総局内で議論を重ねたうえ，編成局で原案を作成した。この原案を理事会で決定し，12月，中央番組審議会に諮問，答申を得たうえ経営委員会で決定した。

以下はその原文である。年表示は西暦にし，記号などは本書の方式に合わせた。

Ⅰ．編集の基本方針

2013年度は「豊かで安心，たしかな未来へ」を掲げたNHK経営計画の２年目に入ります。

正確で安心できる情報を視聴者に届け，見ごたえある番組で人々の心を豊かにする，日本人のライフラインとしての公共放送への期待はこれまで以上に高まっています。未来へ向けて家族や地域の絆を結びなおし，希望と安らぎを感じられる放送が求められています。

こうした視聴者の期待の背景には，不透明な政治状況，厳しい国家財政，経済の長期低迷，少子高齢社会への突入，多極化・複雑化する国際関係など激動の中にある日本の状況があります。

13年度国内放送番組の編集にあたっては，国民の安全・安心を守るという公共放送の使命達成に引き続き全力で取り組みます。信頼できるニュースや番組を制作し，先を見通せない時代に対して公共放送として議論の場や選択肢を提供していきます。

また，東日本大震災から３年目を迎える被災地の復興を支援する番組を制作するとともに，全国で地域に密着した情報を伝えます。その上で，文化の創造に貢献する番組，世界に通用する質の高い番組，世代を越えて楽しめる番組など，NHKならではの役割を大切にしながら多彩なジャンルで編成します。

さらに，13年度には冬季ソチオリンピック，ソチパラリンピックも開催されます。オリンピックやパラリンピックの放送・サービスを通して，日本中に希望と元気をお届けします。

放送開始から60年を迎えるテレビ放送。スーパーハイビジョンやハイブリッドキャストをはじめとする次世代のデジタル技術に取り組みつつ，人にやさしい放送・サービスを拡充し，新しい時代の公共放送NHKを創り上げていきます。

Ⅱ．編集の重点事項

１．国民の生命と財産を守る正確で迅速な報道

国民の生命・財産を守るという公共放送NHKの重要な使命を果たすため，正確で迅速な報道に万全を期し，防災・減災につながる情報の提供にいっそう力を入れます。厳しい国家財政，長引く経済の低迷，少子高齢社会，近隣諸国との関係，そして世界各地で頻発する紛争など，日本や世界が直面する危機の背景に多角的に迫り，解決への処方箋を探ります。

想定される首都直下地震や，東海・東南海・南海地震などの大規模災害に備え，本部のバックアップ機能を大阪局などに整備するとともに，首都圏の取材・伝送拠点の分散配置を速やかに進めます。

第23回参議院議員通常選挙（任期満了日・13年７月28日）にあたっては，開票速報など関連放送の実施に万全を期し，有権者の関心に応えます。

２．NHKが持つ７つの波を生かし，多彩な番組を編成

NHKが持つ地上放送２波，衛星放送２波，音声放送３波を生かし，多彩な番組を編成します。総合テレビジョンでは，“生活に欠かせないチャンネル”として国内外の課題を伝えるニュースや番組を充実・強化するとともに，本格的なヒューマンドラマ，見ごたえのあるドキュメンタリー，そして家族で楽しみ，考える番組を編成します。教育テレビジョン（以下，Eテレ）では，「文化」「芸術」「教養」などの分野の番組を重点的に編成し，教育放送に求められる役割の強化に努めます。BS1は，新しいスポーツソフトを開拓するとともに，国際経済情報を強化します。BSプレミアムは，良質な知的エンターテインメント番組を充実します。ネットラジオの普及で聴取環境が大きく変わりつつある音声放送においても，生放送ゾーンを拡充し「安心ラジオ」としての機能強化を図る編成とします。

３．東日本大震災からの復興を支援し，課題を掘り下げる番組

東日本大震災から３年，今も，復興への課題は多く残されています。大震災や原子力発電所事故から復興に向けての課題を掘り下げる番組や，生活再建に歩み出した人々の姿を伝える番組など，被災地の現状を伝え続けます。さらに，被災地の方々の心を癒やし，励ます番組に取り組み，復興を支援します。

災害の映像や復興の記録のアーカイブス化にも引き続き取り組みます。

４．世界に通用する質の高い番組

信頼される質の高い放送を通じて，社会や文化の発展に尽力するとともに，国際社会におけるNHKコンテンツの国際競争力を強化します。NHKの高い技術で未知の世界の撮影に挑む大型の自然番組や，実写映像とCGを駆使して生命科学の最先端をたどる番組，未公開白黒映像を最新の色彩復元デジタル技術でカラー化し震災や戦争の被害から復興した東京の姿を描く番組など，良質でスケール感のある企画で存在感を示します。海外の放送機関と連携した国際共同制作を強化し，海外マーケットを意識した世界に通用する大型番組の開発・展開を進めます。

５．デジタル時代の新たなサービスの展開

国際規格となり放送の早期実現に向け大きく前進した「スーパーハイビジョン」（超高精細映像システム）での番組開発に取り組み，放送サービスの未来を創造していきます。また，放送と通信を連携させる「ハイブリッドキャスト」を視野に入れ，双方向性・情報性の高いコンテンツを展開するとともに，視聴者参加型コンテンツを強化していきます。

有料動画サービス「NHKオンデマンド」は，認知度をより高め，利用者の拡大を図ります。

６．地域の再生，地域活性化への貢献

全国の放送局は，地域の再生や活性化へ貢献するため，雇用，観光，教育，医療，福祉，農業などの領域で，地域社会が抱える問題と向き合います。それぞれの地域の特性や視聴者の関心に応じ，地域に密着した番組や連動したイベントを展開するとともに，全国に地域の情報を発信していきます。また，地域の豊かな自然，温かい人々のつながりや暮らしを舞台にした地域発ドラマを制作します。

７．冬季ソチオリンピックおよびパラリンピック放送の実施

2014ソチオリンピック（14年２月７日～２月23日）にあたっては，各放送波の特長を生かし，インターネットやデータ放送などのサービスとも連携しながら，注目の選手や競技の情報を多角的に伝え，視聴者の高い関心に応えます。あわせて，2014ソチパラリンピック（14年３月７日～16日）でも，関連番組を含めて競技の模様を伝えます。

また，東京は2020年オリンピックの開催・立候補都市に選ばれています。９月の開催地決定に向けて，関連情報を詳しく伝えます。

８．“人にやさしい”放送・サービスの拡充

字幕放送・解説放送・手話など“人にやさしい”放送・サービスの充実につとめます。字幕放送と解説放送は，長期計画に基づき拡充します。特に，ニュースなど生番組の字幕放送については，地域放送も含め積極的に取り組みます。

以上の重点項目の実施にあたっては，以下のような施策も勘案しながら，創造的で活力に満ちた取材・制作体制を構築します。

○放送サービスについて多角的な評価指標を用いた評価・管理を行います。
○限られた経営資源を効果的・効率的に活用し，ニュースや番組を充実させます。
○放送倫理やコンプライアンス意識の徹底，人材の育成に力を入れ，確かな情報と質の高い番組の提供に努めます。

Ⅲ．各波の編集方針

１．総合テレビジョン

“生活に欠かせないチャンネル”として，正確な情報を伝え，日本そして世界の課題を考えるニュースや番組を継続・強化します。また，創造的な文化，教養，娯楽番組など，心豊かに暮らせる番組をバランスよく編成します。

１．現代を深く掘り下げ，見ごたえのある番組を展開。
２．視聴習慣を大切にし，定時番組を充実。
３．家族の絆，地域の絆を見つめ直し，世代を越えて楽しむことのできる番組を編成。
４．専門的な情報の提供と解説を充実し，報道番

組を強化。
〔放送時間〕
○１日24時間放送を基本とします。
〔放送番組の部門別編成比率〕
○定時番組について，教養番組20％以上，教育番組10％以上，報道番組20％以上，娯楽番組20％以上を編成します。

２．Eテレ

青少年･子どもの健全な育成に資する番組，人々の知的関心に応える番組，文化・芸術の継承・発展に資する番組，福祉番組などを編成し，教育放送に求められる役割の強化に努めます。
１．「文化」「芸術」「教養」などの分野の番組を，存在感ある形で編成。
２．若い世代に向けた番組のさらなる定着をはかる。
３．社会の中核を担う視聴者に向けた，教養・実用情報番組を展開。
〔放送時間〕
○１日20時間を基本とします。
○定時でマルチ編成を実施します。
○ワンセグ放送では同じ内容を同時放送しつつ，週末などに独自サービスを行います。
〔放送番組の部門別編成比率〕
○定時番組について，教養番組15％以上，教育番組75％以上，報道番組若干を編成します。

３．BS1

「生にこだわったスポーツ」「世界の今を伝える国際情報」「報道の背景を掘り下げる番組」の３つの柱を軸に，新規視聴者層を開拓する番組編成を目指します。
１．幅広い世代に支持されるスポーツ中継ソフトを編成。
２．放送と通信の連携を積極的に進めるディベート型番組など，将来の視聴者層を開拓する新たな番組を開発。
３．国際共同制作を進め，独自の視点のドキュメンタリーを編成。
４．新たなスポーツ情報番組を制作，視聴者層を拡大。
〔放送時間〕
○１日24時間を基本とします。
〔放送番組の部門別編成比率〕
○定時番組について，教養番組20％以上，教育番組10％以上を編成します。

４．BSプレミアム

本物志向の教養・娯楽チャンネルとして，BSプレミアムならではの個性や魅力を追求し，競争力のあるコンテンツをこれまで以上に充実，幅広い層の視聴者の獲得を目指します。
１．本物志向の良質な番組と肩のこらない知的エンターテインメントを組み合わせた編成で，新たな視聴者を獲得。
２．圧倒的な訴求力と話題性をもった大型企画番組を拡充。
３．BSプレミアムならではの子ども番組を充実。
〔放送時間〕
○１日24時間を基本とします。
〔放送番組の部門別編成比率〕
○特に定めない。

５．ラジオ第１放送

“安心ラジオ”としての機能をいっそう強化します。ニュースを拡充するとともに，生放送の時間をさらに増やし，災害などの緊急時には，生命や暮らしを守る情報を迅速に伝えます。音声の基幹波として，幅広い世代から信頼と共感が得られるように，生活情報や教養，娯楽番組など多彩な番組を編成します。ネットラジオ「らじる★らじる」をリスナー確保のための重要なサービスと位置づけ，インターネット上のサービスと連携した番組開発を進めて，利用者の満足度を高めます。
〔放送時間〕
○１日24時間を基本とします。
〔放送番組の部門別編成比率〕
○定時番組について，教養・教育番組あわせて25％以上，報道番組35％以上，娯楽番組20％以上を編成します。

６．ラジオ第２放送

“生涯学習波”として，語学番組や学校放送番組，高校講座などの教育番組，幅広いテーマの教養番組などで，利用者の多様な知的欲求に応えるチャンネルとして質の向上を図ります。
あわせて，福祉番組や在日外国人向け番組などにも取り組みます。
〔放送時間〕
○１日19時間を基本とします。
〔放送番組の部門別編成比率〕
○定時番組について，教養番組15％以上，教育番組65％以上，報道番組10％以上を編成します。

７．FM放送

“総合音楽波”として，優れた音質を生かした多彩な音楽番組を取り揃え，音楽ファンの期待に応える個性的な特集を編成します。

災害など緊急時には，ラジオ第１放送と連携して機動的な編成を行い，地域情報波としてきめ細かなライフライン情報を提供します。

〔放送時間〕

○１日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について，教養・教育番組あわせて40％以上，報道番組10％以上，娯楽番組25％以上を編成します。

放送番組の改定

Ⅰ．４月の番組改定

１．総合テレビジョン

（１）現代を深く掘り下げ，見ごたえのある番組を展開

『NHKスペシャル』では，東日本大震災を検証し想定される南海トラフ巨大地震に備える「防災・減災」に役立つ大型シリーズを引き続き制作するとともに，“深海”や“人間の細胞”といったこれまで映像化が難しかった未知の世界を，NHKの持つ高い技術力を駆使して描く強力なシリーズ企画として積極的に展開した。

（２）視聴習慣を大切にし，定時番組を充実

平日午後８時台，10時台を中心に夜間帯の番組を引き続き強化した。新番組では，月曜深夜『地方発　ドキュメンタリー』，火曜は『LIFE！～人生に捧げるコント』と『応援ドキュメント　明日はどっちだ』のほか，木曜には『時代劇』を地上波としては５年ぶりに復活させた。さらに，地域を定点観測した『ドキュメント72時間』を金曜午後10時台に編成した。

（３）家族の絆，地域の絆を見つめ直し，世代を越えて楽しむことのできる番組を編成

土曜の夕方から夜間にかけて，大型のデジタルテレビを囲んで親子が楽しむことのできる新しい番組を開始した。

午後６時台は『マサカメTV』，７時台には『伝えてピカッチ』，８時台は『突撃　アッとホーム』を編成したほか，午後５時30分からは『クイズ100人力』も随時放送し，家族で楽しみ考える時間帯にふさわしい，魅力的な番組を編成した。

（４）専門的な情報の提供と解説を充実し，報道番組を強化

先行き不透明な時代，これからの日本社会を築くうえで中核を担う30～40代の視聴者に向けて平日夜間のニュース・報道番組を充実させた。さらに，深夜０時台には『クローズアップ現代』を再放送，夜間の情報番組ゾーンの強化を図った。

また，午後２時台の番組，および首都圏向けに放送している午前11時台の番組も刷新した。

２．Eテレ

（１）「文化」「芸術」「教養」の分野の番組を存在感ある形で編成

土曜午後10時台に時代の先端を走る人物へのインタビュー番組『SWITCHインタビュー　達人達（たち）』を新設し，『ETV特集』を午後11時に移設。日曜午後９時にはクラシック音楽をたっぷり伝える『クラシック音楽館』，月に１回歌舞伎や文楽など日本の古典芸能の舞台を紹介する『古典芸能への招待』を新設した。また，戦後日本の歩みを人々の証言から検証するシリーズ『戦後史証言プロジェクト　日本人は何をめざしてきたのか』（年８回）をスタートさせた。

（２）社会の中核を担う視聴者に向けた，教養・実用情報番組を展開

平日夜間11時台に職業選択のための情報を提供する『あしたをつかめ～しごともくらしも』，現代人が直面する課題の克服術を過去の歴史の中から探る『先人たちの底力　知恵泉（ちえいず）』，世界各国の大学で行われている個性あふれる刺激的な講義を紹介する『白熱教室海外版』を新設した。

（３）幅広い世代の多様なニーズに応える趣味・実用番組

毎週月・火曜に放送していた『趣味Do楽』を水曜にも増設し，より多彩な内容を取り上げる編成とした。また週末夜間の健康番組を刷新し，病気の予防や治療法のみならず，病気になった際に迫られるさまざまな人生の選択を考える番組『チョイス@病気になったとき』を新設した。

（４）学校放送番組・若い世代に向けた番組の充実

いじめの問題をテーマにした『いじめをノックアウト』や，防災についての正しい知識を身につける『学ぼう　BOSAI（防災）』，学習指導要領で新たに中学の必須科目となったダンスを楽しく学ぶ『Eダンスアカデミー』など，学校現場や家

庭のニーズに応える番組を新設し，ゾーンの充実を図った。いじめ問題が深刻化する中でいじめをなくすために何ができるかを考える特集番組『いじめをノックアウトスペシャル』も年２回放送した。

（５）幼児・子ども向け番組ゾーンの活性化

料理の楽しさや食に関する知識を育む『すすめ！キッチン戦隊クックルン』や，自由な発想で創作することの楽しさを伝える工作番組『ノージーのひらめき工房』，音楽の魅力を捉える感性を育む音楽教育番組『ムジカ・ピッコリーノ』を新設するとともに，ゾーン全体の魅力を高めるために編成の並びを見直した。

３．BS1

BS1は「生放送にこだわったスポーツ」「世界の今を伝える国際情報」「報道の背景を深く掘り下げる番組」を中心とした編成で，さらなる視聴者層の拡大を図った。特にスポーツソフトの充実に力を入れ，40～50代の視聴者層獲得を目指す新たなスポーツ情報番組を平日夜間に編成するほか，幅広い世代に支持されるスポーツ中継・番組の開発を進めた。また，国際的な展開を視野に入れたドキュメンタリーの開発，“放送と通信の連携”をさらに推し進めた番組，活字メディアとの連動を図る番組などを通じて，BS1の存在感を高めるよう努めた。

（１）新たなスポーツ情報番組を制作し，視聴者層を拡大

月～金曜午後11時台には，MLBなどのさまざまな海外スポーツの最新情報を伝える『ワールドスポーツMLB』を新設し，日曜午後11時台には海外サッカーの情報を多彩にお届けする『サッカープラネット』を新設した。土曜午後11時台の『BSベストスポーツ』と合わせて，海外スポーツの情報をたっぷりと放送した。

また，日曜午後８時台には，さまざまな一流スポーツの勝利に向けた極意に迫る『為末大が読み解く！勝利へのセオリー』を新設した。

（２）世界の今を伝える国際情報・経済情報

日曜夜間を大幅にリニューアルし，国際情報番組・経済情報番組を新設した。午後９時台には，いま話題の芸術や音楽，食，ファッションなど最新のライフスタイルを紹介し，新たな潮流や生き方を読み解く，大人に向けた高感度な情報番組『エルムンド』，午後10時台には，グローバルな視点から国内外の経済の最新の動きを伝える『Biz＋　サンデー』を新設した。

また，月～土曜朝の『ワールドWave　モーニング』を通年で50分サイズに刷新。ニュースの速報性に重点を置くだけでなく，より深くニュースを分析し，分かりやすいニュース解説を行った。

（３）放送と通信の連携を積極的に進めるディベート型番組など，将来の視聴者層を開拓する番組の充実

『COOL　JAPAN～発掘！かっこいいニッポン』や『グローバルディベートWISDOM』では，ソーシャルメディアやウェブサイトを積極的に活用して内容をさらに充実強化し，双方向性を高めた。また，『地球アゴラ』は，若者の番組参加を柱とするスタイルにブラッシュアップし，将来に向けた新規視聴者層の開拓を進めた。

（４）国際共同制作を進め，独自の視点のドキュメンタリーを編成

グローバルなテーマを取り上げるBS1ならではのドキュメンタリーを充実させた。『BS世界のドキュメンタリー』などで国際共同制作を積極的に進めるとともに，「BS1スペシャルゾーン」では多彩なドキュメンタリーを編成した。また，人気漫画と連動する新たなスタイルの番組『島耕作のアジア立志伝』を新設した。

４．BSプレミアム

（１）平日午後７～10時台を中心に，本物志向の良質な番組と肩のこらない知的エンターテインメントを組み合わせて編成

『ワイルドライフ』『コズミック　フロント～発見！驚異の大宇宙』『新日本風土記』などの継続番組は内容を充実させるとともに，新しい“ご当地グルメ”の開発に挑む人を応援し，地域の活性化を図る『めざせ！グルメスター』，本格的なコントをお届けする『プレミアムコント』などを新設し，多彩で良質な番組群を編成した。

（２）土曜夜間の訴求力と話題性のある大型企画番組を充実・強化

土曜夜間では，圧倒的な訴求力と話題性をもった超大型企画『ザ･プレミアム』を拡充するほか，話題性の高い映画も積極的に編成した。

今，気になるテーマをAからZまで26項目に分けて多面的かつ徹底的に掘り下げる『まるごと知りたい！A to Z』や秘境や大自然を旅する『地球アドベンチャー　冒険者たち』を新設した。

（３）BSプレミアムならではの子ども番組を充実

日曜午前８時台では，新キャラクターが登場して子どもとお父さんが一緒に楽しめる『おとうさ

んといっしょ』を新設した。このほか平日午後６時台の幼児・子ども向けゾーンも内容を充実させた。

５．ラジオ第１放送

（１）平日午後の生放送化で“安心ラジオ”の機能強化

平日の午後１～４時台を刷新し，生放送のワイド番組『午後のまりやーじゅ』を新設。日替わりの個性的なパーソナリティーの軽妙なトークにのせ，中高年層に関心が高い音楽や健康などのテーマを取り上げた。午後の生放送化に伴い，平日日中がすべて生放送となり，災害などの際には機動的な編成を行い，安心情報を迅速に伝えた。

また日曜夜に，災害に備えるための知識やノウハウを提供するミニ番組『なっとく防災広場』を新設し，“安心ラジオ”としての存在感を高めた。

（２）夜８・９時台に多彩で個性的な番組を新設

平日夜間に，中高年の旺盛な知的好奇心を刺激する番組を新設。歴史バラエティー『DJ日本史』，スポーツ名勝負を“語り”で再現する『語りの劇場　グッとライフ』，そのほか中高年層や女性に人気のタレントがパーソナリティーを務める番組やサブカルチャーをテーマにした番組を編成した。

（３）土日夜間の若者ゾーンの活性化

土日の夜８時台には，国内外の最新ヒット曲を紹介する『ミュージックパトロール　チェキラ！』を新設するとともに，若者の悩みに明るく答える『だめだめラジオ　天使のお言葉』『怒髪天　増子直純のロックな労働相談室』を移設し，土日夜間の若者ゾーンの強化を図った。

６．ラジオ第２放送

（１）語学講座の充実・刷新

日本人作家の英訳された作品について識者が解説し，英語学習と教養的要素を合わせもった番組『英語で読む村上春樹』を新設し，週末の編成を強化した。

７．FM放送

（１）平日深夜にパーソナリティーの個性が光る番組を新設

女性アーティストが子育てトークを交えながら音楽を紹介する『MINMIのレディオMAMA』，若者層に人気を誇るバンドをパーソナリティーに据えた『くるり電波』，還暦世代にエールを送る『THE　ALFEE　終わらない夢』などを新設，幅広い世代をターゲットに平日深夜帯の活性化を図った。

Ⅱ．年度途中の新設番組など

１．総合テレビジョン

（１）新設番組

後半期の改定では，土曜夜間に『妄想ニホン料理』（10月５日～）を新設したほか，木曜夜間に『地球イチバン』(10月３日～)，金曜夜間には『ファミリーヒストリー』（10月４日～）をそれぞれ半年ぶりに定時番組とした。

（２）ドラマの新シリーズ

『連続テレビ小説』は「ごちそうさん」（９月30日～），『大河ドラマ』では「軍師官兵衛」（１月５日～）を開始した。

毎週火曜夜10時からの『ドラマ10』は「真夜中のパン屋さん」（11月５日～），「紙の月」（１月７日～）などを放送した。

木曜夜８時の『木曜時代劇』では，「あさきゆめみし～八百屋お七異聞」（９月19日～),「鼠（ねずみ)、江戸を疾（はし）る」（１月９日～）を編成した。

このほか，土曜夜９時『土曜ドラマ』では，「実験刑事トトリ２」（10月12日～），「太陽の罠（わな)」（11月30日～）を放送した。

２．Eテレ

10月の改定では，ティーンズ向け番組として，『スクールライブショー』（10～３月）を放送したほか，語学番組の新シリーズとして『しごとの基礎英語』（９月30日～）を放送し，音楽教養番組として，『亀田音楽専門学校』（10～12月）や第４シリーズとなる『スコラ　坂本龍一　音楽の学校』（１～３月）を放送した。

アニメについては『アニメ　ログ・ホライズン』（10～３月），『アニメ　ファイ・ブレイン～神のパズル』の第３シリーズ（10～３月）を放送した。

３．BS1

プロ野球などのシーズン終了や欧米の冬時間等に伴い，11月４日以降，一部改定を実施した。午後11時台は，MLBのシーズン終了に伴い，内容と放送時間を一部見直し，番組タイトルも『ワールドスポーツ11』と変更した。月曜と火曜は，欧

州サッカーを中心に前期と同じ45分サイズで伝え，水曜と木曜は，ソチ五輪に向けて盛り上がるウインタースポーツを中心に20分サイズで伝えた。

金曜の午後11時からは，『古田敦也のプロ野球ベストゲーム』を新設した。また，月曜の午後５時からは，アジアを舞台に奮闘する日本人駐在員の日々を追う『エキサイト・アジア』を定時化した。

また，午後７時から９時までの時間帯は，「エキサイティングスポーツ」として，サッカーのプレミアリーグやセリエAなど欧米サッカーなどを中心に放送した。欧米の夏時間の終了に伴い，日曜の早朝の編成を一部変更し，『PGAゴルフツアー』は午前６～７時台に，『ワールドWave』は午前８時台の放送に変更した。深夜の編成については，月曜，火曜，木曜の深夜３時台を「ミッドナイトスポーツゾーン」とし，NFLなどを放送した。前期に土曜の深夜０時台に放送していた『アスリートの魂』は，金曜深夜０時台に移設した。

４．BSプレミアム

10月の改定では，水曜夜間に『ザ・プロファイラー』（10月２日～），『カリスmama』（10月16日～），土曜夜間にAKBグループのメンバーによるエンターテインメント『AKB48SHOW』（10月５日～），木曜夜間に海外ドラマの新シリーズ『ワンス・アポン・ア・タイム』（９月19日～）などを新設した。

親子で楽しめる新番組として，『アニメ　あらいぐまラスカル』（10月９日～），子どもに楽しい笑いを届ける『ワラッチャオ！』（10月６日～）を新設した。

５．ラジオ第１放送

プロ野球ナイトゲームの終了に伴い，木・金曜の午後８～９時台の編成を刷新した。木曜は，桐島かれんさんが多彩なゲストとライフスタイルを語る『かれんスタイル』を放送。金曜は，80年代から90年代に青春を過ごしたリスナー向けの音楽番組『僕らの青春 J－POP　平成　ミュージック・グラフィティ』を新設した。

国内放送番組審議会

放送番組審議会は，放送事業者に対して放送法で設置が義務付けられている法定の審議機関である。NHKは国内放送に関わる「中央放送番組審議会」と８つの「地方放送番組審議会」，国際放送に関わる「国際放送番組審議会」を設置している。

番組審議会は，放送番組の適正を図るための自律措置として設けられているものであることから，委員の人選にあたっては学識経験者などの中から，社会動向や属性など全体の調和を考え，視聴者の意向が的確に反映されるよう，幅広い観点から委嘱を行っている。委員数は，14年３月現在で中央審議会は15人，地方審議会は10～12人で組織している。会議は，毎月１回の定例開催日に議題を設けて実施している（８月は休会）。会長の諮問に応じて全国向けの「国内放送番組編集の基本計画」と各地域向けの「地域放送番組編集計画」について審議し，答申したほか，番組全般について意見交換を行った。

１．中央放送番組審議会

中央放送番組審議会は，13年度中に11回開催し，会長の諮問により，12月に「平成26年度国内放送番組編集の基本計画」について審議し答申したほか，広く国内放送番組全般について活発な意見交換を行い，放送番組への反映を図った。

また，５月に12年度下半期，11月に13年度上半期の国内放送番組の種別の実績および種別ごとの放送時間について報告した。

13年度中の主な議題は次のとおり。

４月　経営計画における「達成状況の評価・管理」（12年度第４四半期・１～３月）について

５月　国内放送番組の種別の実績および種別ごとの放送時間（12年10～13年３月），『総合診療医　ドクターG』について

６月　『紀の国スペシャル　私たちがふるさとを守る～釜石で過ごした３日間』について

７月　経営計画における「達成状況の評価・管理」（13年度第１四半期・４～６月）について

９月　13年度後半期の国内放送番組の編成，ハイブリッドキャストについて

10月　経営計画における「達成状況の評価・管理」（13年度第２四半期･７～９月），『ETV特集　トラウマからの解放』について

11月　国内放送番組の種別の実績および種別ごとの放送時間（13年４～９月），「平成26年度国内放送番組編集の基本計画」（案）について

12月　「平成26年度国内放送番組編集の基本計画」（案）－諮問－，『NHKスペシャル“認知症800万人”時代　“助けて”と言えない　孤立する認知症高齢者』について
１月　「平成26年度国内放送番組編成計画」，経営計画における「達成状況の評価・管理」（13年度第３四半期・10～12月）について
２月　『島耕作のアジア立志伝　“女性の正論”で壁を打ち破れ』について
３月　『NHKスペシャル　震災ビッグデータfile3　“首都パニック”を回避せよ』について

番組審議会の活動内容の公開については，各番組審議会の議事概要を毎月，放送やインターネットなどで公表しているほか，各放送局で議事概要の備え置きを実施するなど積極的に行っている。

２．地方放送番組審議会

全国８つの地域ごとに「地方放送番組審議会」が設けられ，各地域の放送番組の基本方針を審議している。

13年度中に各地域とも11回開催し，会長の諮問に応じて「平成26年度各地方向け地域放送番組編集計画」について審議し答申したほか，番組全般について意見交換し，その適正化を図った。

２節 放送番組の制作

報道・スポーツ番組

Ⅰ．取材・制作・放送システム

緊急ニュース中でもニュース字幕放送を継続して可能にする設備を13年８月に導入した。これにより，緊急・減災報道における人にやさしい放送サービスの実現を可能にした。

老朽化したロボットカメラモニタリングシステムについて，14年２月に新システムへの切り替えを実施した。新システムでは，地震発生時の一報映像の送出機能強化に加え，ロボットカメラ映像の高画質化を図っている。なお，新システムは首都圏直下地震に備え，大阪局に本部と同一構成のシステムを稼働させるなど放送機能の強化にも対応している。

１．ニュース取材・制作設備

映像の収録，編集，送出，アーカイブを報道情報システムと連携して取り扱うことができる大規模なハイビジョンビデオサーバーシステムは，13年度上期までにニュースセンター全体（地上放送，衛星放送のニュース）での運用を開始した。サーバーシステムは緊急・減災報道をはじめ，６月の東京都議会議員選挙，７月の参議員選挙，２月の東京都知事選挙の開票速報番組でも使用するなどニュースセンターの制作・送出設備として定着している。

海外総支局の設備整備について，13年度は，老朽化が進んだヨーロッパ総局のスタジオ設備，ソウル支局の伝送設備およびスタジオ設備，イスラマバード支局の伝送設備，アメリカ国連オフィスの顔出し設備，各総支局のハイビジョンモニターの更新を行い，信頼性に加え運用性の向上を図った。また，中国総局の取材機能強化に向けて小型望遠レンズを新規に整備した。さらに，ウィンタースポーツの伝送対応として，ヨーロッパ総局に動き補償機能付き方式変換器を導入した。

これらの対応により，海外総支局における機材・設備の安定運用と国際情報の発信力強化を図った。

２．緊急報道設備

13年８月30日に気象庁は特別警報の運用を開始

した。特別警報とは，警報の発表基準をはるかに超える数十年に一度の大災害が起こると予想される場合に発表し，対象地域の住民に対して最大限の警戒を呼びかけるものである。気象については６種類（大雨，暴風，高潮，波浪，暴風雪，大雪）あり，「大雨特別警報」といった表現で発表される。津波，火山噴火，地震については，従来からある「大津波警報」,「噴火警報」,「緊急地震速報」（震度６弱以上を予想したもの）を特別警報に位置づけている。気象に関する特別警報を的確かつ分かりやすく視聴者に伝えるため，気象情報処理用のシステム，気象情報画面を作成する作画装置，速報スーパーを自動生成する装置などの改修を行った。また，気象庁の発表データによりアナウンサーが読む原稿を自動的に表示する原稿支援システムも改修し，特別警報発表を即時に伝えられるようにした。

これに合わせて，本部の速報スーパー設備の改修を行い，気象情報専用チャイム音の送出を可能とした。現在，関東ローカル放送で実施している竜巻注意情報の速報スーパー時に使用している。

３．報道情報システム

報道情報システムは，ニュース原稿の作成から制作，送出までを担うNHKの報道を支える基幹システムである。多くのホストコンピューターとサーバー群を中核とした大規模なネットワークシステムである。

本部ニュースセンターのハイビジョンビデオサーバーシステムの地上放送（総合・Eテレ）でのニュース制作・送出の開始に合わせて，多数の報道情報端末にサーバー映像の試写とテロップの電子発注ができるアプリケーションを導入し，迅速かつ効率的なニュース制作が行える環境を整えている。

Ⅱ．緊急報道

13年度は，東日本大震災の余震とみられる地震は減ったものの，西日本の淡路島付近や伊予灘で強い地震が発生した。記録的な大雨や大雪，竜巻などによる災害も相次いだ。気象災害が激甚化する中で，気象庁は13年８月に，新たな防災情報として「特別警報」を導入した。NHKは公共放送として国民の生命・財産を守る立場から被害の軽減や復旧に役立つ放送に組織を挙げて取り組み，「正確」「迅速」「分かりやすさ」を基本に緊急報道を展開した。

１．自然災害

（１）地震・津波

13年４月から14年３月末までに震度５弱以上を観測した地震は９回あった。このうち東日本大震災の余震とみられる地震は５回だった。

10月26日の福島県沖を震源とする地震（マグニチュード7.1）では，岩手県，宮城県，福島県，茨城県，千葉県の九十九里・外房に津波注意報が発表され，宮城県石巻で高さ36センチの津波を観測した。この時，気象庁が13年３月から導入した新しい津波予報が初めて運用された。それに伴ってNHKが見直した表現や画面，スーパーも初めて放送で使用された。

４月13日には兵庫県の淡路島付近を震源とする地震（マグニチュード6.3）があり，兵庫県淡路市で震度６弱を観測した。兵庫県で震度６弱以上の揺れを観測したのは95年の阪神・淡路大震災（マグニチュード7.3）以来。この地震で，35人がけがをし，建物８棟が全壊，101棟が半壊，一部損壊は8,000棟以上にのぼった。ラジオセンターは，地震発生直前の午前５時に新しいスタジオへの切り替えを終えたばかりだったが，初動から順調に放送を出すことができた。

14年３月14日の伊予灘を震源とする地震（マグニチュード6.2）では，愛媛県西予市で震度５強を観測した。この地震で，岡山，広島，山口，愛媛，高知，大分の６県で合わせて21人がけがをした。

（２）山口県・島根県で記録的な大雨

７月28日，山口県と島根県で局地的に雨雲が発達し記録的な大雨となった。１時間降水量は山口県萩市須佐で138.5ミリ，24時間降水量は島根県津和野町で381ミリと，いずれも観測史上１位となった。山口県萩市で２人が死亡し，山口県と島根県で合わせて２人が行方不明となった。気象庁は，28日，「山口県と島根県ではこれまでに経験したことのないような大雨になっているところがある」という情報を発表した。

NHKは，気象庁の情報を速報スーパーで伝え，中国地方の大雨について，特設ニュースなどで放送した。

（３）秋田県で土石流

８月９日，日本海から湿った空気が流れ込んで，大気の状態が不安定となり，秋田県と岩手県では記録的な大雨となった。１時間降水量は，秋田県鹿角市で108.5ミリ，岩手県雫石町で78ミリとなった。秋田県と岩手県では，半日で平年の８月１

か月分の雨量を上回る大雨となった。秋田県仙北市で，土石流が発生し６人が死亡した。また，岩手県で２人が死亡した。気象庁は，「これまでに経験したことのない大雨となっている」という情報を発表し，最大級の警戒を呼びかけた。

NHKは，気象庁の情報を速報スーパーで伝え，北日本の大雨について，特設ニュースを放送した。

（４）高知県で国内最高気温41℃

13年の夏は，東日本と西日本で高気圧に覆われて晴れの日が多くなり，全国的に気温の高い日が多かった。連日，最高気温が35℃を超える猛暑日となり，８月12日には，高知県四万十市西土佐で41℃を観測した。これは07年８月16日に，埼玉県熊谷市と岐阜県多治見市で観測された40.9℃を上回り，国内で最も高い気温の記録を更新した。

（５）埼玉県と千葉県で竜巻

９月２日午後２時ごろ，埼玉県と千葉県などで竜巻が発生した。埼玉県のさいたま市や越谷市，千葉県野田市などでけが人や住宅への被害が出た。被害の範囲は，長さ19キロ幅300メートルにわたった。総務省消防庁によると，埼玉県と千葉県で合わせて64人がけがをし，住宅の全半壊が49棟，一部損壊が1,359棟にのぼった。

NHKは，竜巻注意情報を速報スーパーしたあと，ニュース時間を拡大して，竜巻の被害について詳しく放送した。

（６）初の特別警報発表

９月16日午前５時すぎ，気象庁は，滋賀県，京都府，福井県に，大雨の特別警報を発表した。台風18号の影響で，この地域では数十年に一度しかないような記録的な大雨となったためで，８月30日から運用を始めた特別警報が初めて発表された。台風18号は，16日午前８時前に愛知県豊橋市付近に上陸し，東海・関東甲信・東北を北東に進んだ。四国から北海道の広い範囲で大雨となり，九州から北海道の各地で暴風が吹き，竜巻などの突風も発生した。総務省消防庁によると，全国で合わせて６人が死亡し，１人が行方不明となった。

NHKは，特別警報の発表を速報スーパーで伝えた。ニュースでも繰り返し伝え，最大級の警戒を呼びかけた。また台風18号について，特設ニュースやニュース時間を拡大して伝えた。

（７）伊豆大島で土砂災害36人死亡

台風26号による湿った空気の影響で，10月16日，東京の伊豆大島では記録的な大雨となった。16日未明から１時間に100ミリを超える猛烈な雨が数時間降り続き，10月14日から16日までの総降水量は，伊豆大島の大島町で824ミリに達した。伊豆大島では大規模な土砂災害が発生し，36人が死亡，３人が行方不明となった。伊豆大島で大きな被害の出た記録的な大雨について，気象庁は，「地域的な広がりがない」として，大雨の特別警報を発表しなかった。

NHKは，台風26号と伊豆大島の土砂災害について特設ニュースやニュース時間を拡大して伝えた。

（８）関東甲信で記録的な大雪

14年２月14日から15日にかけて，低気圧が発達しながら本州の南岸を進んだ影響で，太平洋側を中心に大雪となった。特に，関東甲信で記録的な大雪となった。各地の積雪は，甲府市で１メートル14センチとこれまでの記録の２倍以上になった。このほか，前橋市で73センチ，埼玉県熊谷市で62センチ，東京の都心で27センチとなった。総務省消防庁によると，大雪で倒壊した建物の下敷きになるなどして全国で26人が死亡した。大雪で道路が通行できなくなって車が立往生したり，集落が孤立したりした。このほか，停電や断水が起き，農作物に大きな被害がでた。

NHKは，記録的な大雪について，特設ニュースなどで放送した。

２．映像取材体制

（１）航空取材の基地・機体の体制

13年度は，札幌・仙台（花巻空港で運用）・東京・新潟・静岡・名古屋・大阪・高松・広島・福岡・鹿児島・沖縄の12基地で，中型機と小型機を合わせた14機のヘリコプターを運用し，全国の事件・事故や災害などの緊急報道に対応した。３月末に新たに中型機が就航し，全国12基地15機へと航空取材体制が強化された。また，長距離の洋上飛行が可能な飛行機の優先契約を継続するとともに，沖縄に航続距離の長い中型機を配置したため，中国公船による尖閣諸島周辺の領海侵入を警戒する沖縄県下地島常駐は３月で終了した。

（２）東日本大震災への対応

震災３年目となる13年度も，東北３県への全国応援を継続した。原発事故の福島を含めた被災地へのカメラマン応援は１年間におよそ2,700人日となり，３年間で延べ１万7,600人日にのぼった。

（３）首都直下地震等大災害に備える

東日本大震災を教訓に，本部の首都直下地震対応資料を13年度も改訂版として策定した。震度６弱を想定し，放送センター・放送技術研究所・千代田放送会館をはじめ，さいたま局の報道別館など，取材拠点への動員計画のほか，安否確認・映

像伝送ツール・連絡手段などについて記載し，災害時に役立つマニュアルとした。

Ⅲ．選挙システム

選挙システムは，ホストコンピューターと全国のサーバー・端末などをネットワークで結んで出口調査や最新の開票データなどを集計し，当選確実の判定や，放送・インターネットなどの開票速報画面の作成などを行うものである。

７月の第23回参議院議員選挙では，候補者情報を一元管理する候補者データベースで全国の立候補状況を管理し，公示日の候補者紹介等に活用した。投開票日の総合テレビでは，20時前より開票速報特別番組を編成し，与党圧勝のもようを選挙システムと連動したバーチャルCGや大型タッチスクリーンでのキャスターゼスチャーによる動きのあるCG演出を用いて，リアルタイムかつ分かりやすく伝えた。BS1・R1・データ放送・インターネット・携帯コンテンツ等も選挙システムと結んで開票速報を実施。今回より解禁となったネット選挙では，ソーシャルメディア上での政党や立候補者のツイッター発信などの選挙運動状況やネットユーザーの反応などのビッグデータを分析し，解説に用いた。また，インターネットでは，全国各選挙区の詳細な開票状況を掲載し，テレビでは紹介しきれないきめ細かい情報提供に努めた。

Ⅳ．国際回線による映像伝送

海外からの中継や映像の伝送は，通信衛星や光ケーブルなどを使って行われている。

NHKでは，世界各地の紛争・災害，国際情勢，国際スポーツ大会，国際大型イベントなどを伝えるため，24時間体制で世界中から映像を受信している。

１．随時伝送と定時伝送

海外からの映像伝送は，ニュースや国際的なイベントなどでそのつど回線をつなぐ「随時伝送」と，海外の放送局が制作したニュース番組を決まった日時に受信する「定時伝送」とに大別される。

NHK海外総支局の取材体制強化やスポーツ映像の増加などを背景に，伝送量は年々増加，13年度は「随時伝送」と「定時伝送」を合わせた総件数は３万6,703件。12年度に比べて約２％の増加となった。総伝送時間は，３万9,570時間で，12年度に比べ４％増えた。

このうち「随時伝送」は，12年度と比べて約４％増加し，17万413時間であった。増加の理由としては，ソチ五輪，シリア・ウクライナ情勢，ロイヤルベビー誕生，アメリカ大統領選挙，尖閣諸島・竹島問題，ボストンマラソン爆発事件，スノーデン関連などが挙げられる。

「定時伝送」では，アメリカのABCやCNN，イギリスのBBC，フランスのF2などが制作した欧米のニュース番組をはじめ，中国やフィリピン，ベトナムなど，アジア各国のニュース番組も受信している。特に重要な海外番組の受信としては，北朝鮮の国営放送・朝鮮中央テレビをはじめ，イラク問題など，中東情勢を伝える上で欠かせない情報源として，カタールの放送局「アルジャジーラ」の24時間受信を行っている。

NHKでは世界22の国と地域，29の放送機関から定量的に映像を受信している。

このうち定期的に映像を受信する「定時伝送」は，２万2,157時間で，総伝送時間の56%を占めており，１日当たりの平均受信時間は60.7時間となっている。

２．緊急報道

「随時伝送」の中でも最も重要なのが，緊急報道への対応である。

NHKの海外特派員や報道局の取材・中継チームは，世界各地で起きる紛争や事件・災害の現場に展開する。こうした緊急報道では，周辺の放送機関や映像通信社に協力を求めて衛星の伝送施設を借用したり，複数の衛星を組み合わせるなど，地域の通信事情を考慮しながら，東京までの伝送路を確保しなければならない。映像信号・圧縮形式／機材の違いなど回線接続が一筋縄では行かないことが日常的にある。このため専門チームが，24時間体制で，回線対応をし，現場の記者やカメラマンを支援している。

通信インフラがぜい弱な現場については「フライ・アウェー」と呼ばれる小型の衛星通信地球局を持ち込んだり，「SNG（SATELLITE NEWS GATHERING）トラック」と呼ばれる車載型地球局を周辺国・地域から現地へ走らせることもある。11年のニュージーランド地震では，「フライ・アウェー」を現地へ持ち込んで，迅速に回線を接続し，被災地の状況を鮮明な映像で世界に伝えた。

３．国際専用ハイビジョン回線

NHKは，膨大な量の映像伝送を円滑かつ確実に行うため，地球を一周するハイビジョン専用回線を有している。

アメリカと日本を結ぶ光ファイバーの「米日専用回線」はハイビジョンの映像を５本同時に伝送できるもので，ニューヨークのアメリカ総局，ワシントン支局，ロサンゼルス支局から，どの回線にも接続できる。

回線構成は，米国内，太平洋の海底区間とも異なる経路で二重化されており，片側の回線が何らかの理由で切断されても，もう一方の回線に，瞬時に切り替わる機能が備わっている。アメリカ総局には，全米・中南米からの映像を24時間体制で中継している「回線センター」がある。

「欧日専用回線」は，インド洋上の衛星を介し，パリのヨーロッパ総局と放送センターが接続されており，同時にハイビジョン３回線までの伝送が可能となっている。

また，パリとアメリカを結ぶ「欧米専用回線」が１回線あり，ロサンゼルスで「米日専用回線」のどの回線にも接続できるようになっている。

さらに，ロンドン，モスクワ，ベルリン，エルサレムの各支局は，パリと専用回線で接続されているほか，パリのヨーロッパ総局は，衛星の電波を受信するアンテナ10基を備えた「テレポート」を有している。欧州・中東・アフリカ・中央アジアからの映像を上記専用回線で東京の放送センターと結ぶ分岐点，いわゆる「ハブ」の役割を果たしている。

アジア地域では，北京の中国総局，上海支局，バンコクのアジア総局，ソウル支局，マニラ支局，台北支局，ニューデリー支局，イスラマバード支局，シンガポール支局，シドニー支局などからもハイビジョン伝送が可能になっている。

４．海外からのIP伝送（DNG／Digital News Gathering）

日進月歩のデジタル技術により，インターネット等回線を利用して，デジタルファイルや，リアルタイムのストリーミングで映像を送るIP伝送が急増している。すでに海外からの素材伝送全体の30%近くがこのIP伝送となっている。ソチ五輪や，シリア・ウクライナ情勢などでも活躍の場が広がっている。またソチパラリンピックなどでも光ファイバーなどの既存回線の補完的な役割ではありながら，頻繁に利用されるようになってきた。

５．国際間の映像素材交換

NHKは，国際回線を使って内外のニュース映像を海外の放送機関にも提供している。

このうち「アジアビジョン」は，ABU（アジア太平洋放送連合）傘下の27の国と地域，28の放送機関（14年４月現在）が参加していて，毎日１回の衛星を使った送受信や，インターネット経由で素材を相互に交換している。

13年度に交換したニュースは9,012項目。このうちNHKは1,069項目のニュース映像を提供した。

その貢献度の高さで13年に「アジアビジョン年間賞１位」に選出された。また，10月の伊豆大島の台風被害，14年２月の首都圏の記録的な大雪の素材提供が評価されていずれも月間賞を受賞した。

アジアビジョンに提供された映像は，ジュネーブのEBU（欧州放送連合）本部へも，衛星伝送とインターネットを経由したファイルで送られ，欧州域内の放送機関に配信されている。

Ⅴ．ニュース

政治においては，７月に，ネット選挙が解禁されて初めてとなる参議院選挙が行われ，激しい選挙戦が展開されたが，自民・公明両党が過半数を獲得し，衆参両院でのねじれが解消される結果となった。

10月には，消費税率を翌年４月から８パーセントに引き上げることが閣議決定された。

２月には猪瀬都知事の辞任に伴う都知事選挙が行われ，舛添氏が当選した。

日本経済は，安倍内閣の経済政策「アベノミクス」の影響もあり，円安株高傾向が続いた。一方で経常収支は大幅に減り，１月には単月で過去最大の赤字となった。

海外では，シリアで内戦が収まらず，欧米による軍事介入の瀬戸際まで緊迫したほか，イランでは，核開発制限をめぐって欧米との協議が進展した。ロシアで一方的なクリミア編入をめぐって欧米と対立が深まったほか，北朝鮮では，キム・ジョンウン第１書記の後見人チャン・ソンテク氏が粛清されるなどの動きがあった。

東日本大震災については，被災地で災害公営住宅の建設や高台移転といったまちづくり計画の策定，それに避難区域解除の決定など，復興に向けた動きが徐々に出始めた。このため，震災関連報道も，復興に向けた被災地が抱える課題や事態が

長期化する中での被災者の苦悩などを中心に伝えた。

災害では，４月の淡路島の地震で震度６弱，７～８月に中国地方と東北地方などで相次いだ記録的大雨，９月の台風18号の上陸，10月の伊豆大島の土砂災害，２月の関東甲信地方での記録的大雪など，大きな災害が目立った。

スポーツでは，９月に20年の東京五輪パラリンピック開催が決まった。また，11月には楽天イーグルスが初の日本一に輝き被災地を勇気づけた。２月のソチ五輪では，日本選手が羽生結弦選手の金メダルをはじめとする８個のメダルを獲得するなど活躍した。

１．主なニュース番組

（１）総合テレビ

毎正時のニュースのほかに早朝から深夜まで，視聴者の生活サイクルを踏まえ，それぞれの時間帯に即したニュース番組を放送した。

朝一番の『NHKニュース　おはよう日本』や午前中の動きをまとめた『正午ニュース』，午後は４月にスタートした『情報まるごと』，国内外のニュースを深く，多角的に掘り下げて伝える夜のメインニュース『NHKニュース７』や，『ニュースウオッチ９』，そして深夜には，ニュースとインターネットを連動させた『NEWS WEB』を放送した。

さらに１週間のニュースをまとめて伝える『週刊　ニュース深読み』，地上波唯一の専門的な国際ニュース番組『海外ネットワーク』，これらの番組で幅広い視聴者層の関心に応えた。

大きな事件・事故，災害などの際は，放送枠の拡大や特設ニュースによって緊急報道・減災報道に取り組んだ。気象庁が初の大雨特別警報を発表し各地に被害をもたらした台風18号関連のニュースをはじめ，13年度の放送枠の拡大回数は133回・約33時間，特設ニュースは260回・約42時間に達した。また，視聴者にいち早く情報を知らせるため画面に文字で第一報を伝えるニュース速報は全国向けだけで592回に及び，主要なニュースのほか地震情報や交通情報など安心・安全に直結する情報を伝えた。

（２）Eテレ

手話ニュースは，毎日伝える『NHK手話ニュース』と平日夜の『NHK手話ニュース845』，土曜の『週間手話ニュース』，日曜の『こども手話ウイークリー』の４番組を放送した。特に災害報道に力を入れ，台風については深夜や早朝の時間帯に定時枠とは別に特設ニュースを放送した。

（３）BS1

『BSニュース』は，毎日毎時50分から10分間を基本に24時間，国内外のニュースや各地の話題をコンパクトにまとめて伝えた。

『BS列島ニュース』は，平日の午後１時から１時49分までの49分間で，全国各地のNHKの放送局がその日の昼に伝えたニュースや地域放送で伝えたリポートをまとめて全国に発信した。

（４）R1・FM

ラジオニュースは，東日本大震災の災害報道を教訓に，災害時やそのおそれがある時に正確な情報を迅速に伝えて“減災”に役立てる「安心ラジオ」の機能を高めるため，ソフト・ハード両面で緊急ニュース対応力の強化を図った。

９月からは，NHK放送センターが使用不能に陥った場合に備えて新たに整備された「さいたま局報道別館」を使った全中ラジオニュースの放送も定期的に始めた。

８月４日正午すぎに宮城県で震度５強，９月20日未明に福島県で震度５強，11月10日朝に茨城県で震度５弱，12月31日午前に茨城県で震度５弱，３月14日未明に愛媛県で震度５強等，大きな地震が発生した際は，いずれも緊急地震速報の自動音声終了後，直ちにR1独自（未明時間帯はFMも同時）で警戒呼びかけの緊急ニュースに入り，数十秒後にQF開始でR1-FM-R2で数十分から１時間程度，関連情報を放送した。10月26日，東北・関東の太平洋沿岸に津波注意報が発令された際は，午前２時すぎから２時間10分余りにわたって注意の呼びかけ等を続けたほか，４月３日にチリ北部沿岸の地震で北海道から千葉県にかけての太平洋沿岸などに津波注意報が出された際は，午前０時から午後６時すぎまで，断続的に特設ニュース等（最長で１時間15分の特設）で注意の呼びかけを続けた。

また，９月15～16日の台風18号，10月15～16日の台風24号の襲来の際には，50～60回程度の特設ニュースや定時ニュース枠拡大などで対応した。さらに，９月２日と４日，関東地方の広い範囲で相次いだ突風・竜巻被害では，ローカル特設ニュース等で被害状況を伝える中で，ニュース原稿を読むアナウンサーとは別のアナウンサーをスタジオに入れ，テレビのヘリコプター中継の映像を見ながら被害状況の描写を行い，被害状況を分かりやすく伝えた。この竜巻被害では，ラジオカーをラジオ独自で現場に出動させ，中継リポートも行った。

２月８日と２月14～15日，関東甲信地方が記録的な大雪に見舞われ，大きな被害が出た際には，数十回のローカル特設ニュースや定時の全国ニュース枠の拡大で，被害状況や交通情報，停電情報などをラジオ独自の中継リポートを交え，きめ細かく伝えた。

６月23日投開票の東京都議会議員選挙では，国政選挙並みの対応をとり，４時間余りにわたって開票速報を放送した。続く７月21日投開票の参議院議員選挙では，午後７時55分から翌22日午前４時まで約８時間にわたり，開票速報を伝えた。

ソチ五輪については，１月13日午前に１時間40分の直前特番を放送して多彩なゲストを招いて見どころ等を伝えたほか，五輪開催中は毎日午前７時台に12～３分程度の特別枠を設け，日本人選手の活躍を中心に興奮と感動を伝えた。

13年度番組改訂では平日午前７時の全国ニュース枠を従来の15分から20分に拡大。キャスターを女性との２人制にしてメインニュースとしての位置づけを明確にし，音声の積極的な活用などで内容の充実も図った。

FMは朝７時，正午，夜７時，深夜１～４時の全国ニュースをR1と同時放送した。

２．ニュースサイト「NHK NEWS WEB」

データ放送と連動し，政治，経済からスポーツまで各分野のニュースをインターネットで原則，１週間公開している。大きな事件や事故，災害などの情報は「JUST IN」ニュースとして速報しているほか，注目ニュースは取材記者が深く掘り下げた署名記事「WEB特集」として掲載している。

（１）データ放送ニュースの充実

「データ放送　全国のニュース」をすっきりとして見やすい流行のフラットデザインに変更した。併せてニュース項目数を７項目から30項目へ大幅に増加した。

（２）災害情報の充実

災害情報強化のため，「NEWS WEB」トップページに大きな静止画やタイトル文字で注意を呼びかける災害情報掲載機能を追加。また，気象庁が発表する特別警報や，土砂災害警戒情報，竜巻注意情報を掲載するサイトを整備した。

（３）NHKスクープBOX

視聴者が事件や事故，災害などの映像をNHKに簡単に送ることができる「NHKスクープBOX」は運用を開始して１年が経過した。９月に埼玉県と千葉県を襲った竜巻や２月に関東甲信地方に降った大雪では，視聴者から多くの映像が寄せられた。全国のNHKで利用できるように１月には大阪放送局に端末を整備した。

（４）ハイブリッドキャストスクロールニュース

ハイブリッドキャスト対応テレビ用のアプリ，スクロールニュースを９月に公開した。

３．報道室

NHKの全国取材網には各地の放送局のほかに報道室がある。事件・事故・災害・選挙報道はもちろん，地域の暮らしに密着した取材の最前線として活動している。

〔北海道〕

北海道では，広大なエリアをカバーして，地域に密着した取材を続ける報道室の役割が特に重要である。

札幌局・千歳報道室は，新千歳空港が観光客を呼び込むための本格的な24時間運用を目指すにあたっての深夜早朝の発着枠拡大の効果や課題・行政と住民との協議について伝えたほか，12月の国の防衛大綱の見直しに合わせて道内の自衛隊の役割の変化や地域への影響について発信した。

札幌局・小樽報道室は，古平町で２月に複数の水産加工会社が経営に行き詰まったことを受けて地域の経済に与える深刻な影響を伝えたほか，後志地域で急増する外国人観光客の実態を発信した。

札幌局・岩見沢報道室は，全国唯一の財政再生団体の夕張市で９月末に人口が１万人を下回ったのに合わせて歯止めがかからない人口流失の実態を伝えたほか，特産の夕張メロンを海外に売り込もうという新たな動きなど現状と課題を発信した。

北見局・網走報道室は，美しい紅葉で知られる世界自然遺産の知床で，夏の小雨の影響とみられる，ダケカンバの葉が紅葉しないまま，次々と枯れていく異常気象の実態を明らかにした。また，暴風雪によって，車が立往生した場合，排気ガスがどのように車内に入ってくるのかを検証するなど減災報道にも力を入れた。

釧路局・根室報道室では，北方領土問題について，日ロ政府間で再開した交渉に対する元島民の思い，元島民の高齢化と返還運動の継承，未補償の漁業権をめぐる課題などを伝えた。

旭川局・稚内報道室は，ロシア・サハリン沖で起きた大韓航空機撃墜事件から30年の節目に合わせて遺族や関係者の動きを伝えたほか，原子力政策の最大の懸案である高レベル放射性廃棄物の地下埋設処分の研究や，風力発電の全国有数の適地

とされる北海道北部で始まった送電網整備の現状や課題を伝えた。

室蘭局・苫小牧報道室は，地元特産のししゃもの稚魚の大量飼育に初めて成功したことで，漁獲量回復へ期待が集まっているニュースを伝えたほか，ソチ五輪出場を果たしたアイスホッケー女子の活躍や，地元の盛り上がりを紹介した。

〔東北〕

東北管内の報道室は，東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの復旧復興や，13年に相次いだ大雨や大雪の被害，TPP交渉を背景にした農業の動きなどを伝えた。

仙台局・石巻報道室は，長期化する避難生活の厳しい現状を全国に発信し，震災３年の節目には『クローズアップ現代』で仮設住宅のアンケート調査の結果も踏まえながら詳しく伝えた。

仙台局・気仙沼報道室は，南三陸町や気仙沼市の震災遺構の解体や保存の動きを取材。揺れ動く遺族や被災者の本音に迫り，11月放送の『NHKスペシャル』などで震災遺構の在り方を全国に問いかけた。

盛岡局・大船渡，陸前高田報道室は，津波で壊滅的な被害を受けた陸前高田市の市街地を最大11メートルかさ上げし新たな街をつくるため，巨大なベルトコンベヤーを３月から稼働させるなど，本格化する復興事業の動きと市民の期待を伝えた。

盛岡局・宮古報道室は，宮古市田老地区の浸水域で津波に流されず残った「たろう観光ホテル」を震災の教訓を後世に伝える“震災遺構”として保存するため市が買い取り，全国で初めて国が初期費用を補助するまでの動きや今後の課題を全国に発信した。

福島局・郡山支局は，国の除染が終わり最も早く避難指示が解除されることになった田村市都路地区の住民の揺れる思いを取材し，３月放送の『NHKスペシャル～避難者13万人の選択』などで全国に発信した。

福島局・会津若松報道室は，役場機能が会津若松市に移転している大熊町の取材を担当し，除染廃棄物の「中間貯蔵施設」建設をめぐる町・住民の葛藤に密着し，１月の『クローズアップ現代』や『ニュース７』などで報じた。

福島局・いわき支局と南相馬報道室は，福島県沖の漁の再開をめぐる動きを継続して取材し，放射性物質が検出されなくなってきている状況とともに，相次ぐ汚染水漏れなどで風評被害に苦しむ漁業者の思いを丁寧にくみ取り，９月の『クローズアップ現代』や『ニュースウオッチ９』などで伝えた。

山形局・鶴岡支局は，東日本大震災を教訓に日本海沿岸の地区や教育現場で進む防災への取り組みと残された課題を継続的に取材し放送した。

山形局・酒田報道室は，震災で一時機能がマヒした太平洋側の港湾機能を補完するインフラとして注目された酒田港の物流の動きを取材し，韓国航路の増便の動きなどを伝えた。

山形局・米沢報道室は，原発事故の避難者が暮らす借り上げ住宅が１年更新のため，不安を抱える家族に密着したリポートを制作し，震災３年の節目に伝えた。

青森局・八戸支局は，青森県が計画していた防潮堤の建設計画が地域住民などの意見集約が進まず抜本的に見直されることになったことを報じた。また，津波から船を守る漁業者の「沖出し」について，ルール作りに向けた動きや課題を発信した。

青森局・弘前支局は，TPP交渉への参加に対するリンゴ農家の懸念とブランド力を高め対抗しようとする動きを伝えた。

青森局・三沢報道室は，原子力施設を対象とした国の新たな規制基準の施行に合わせ，六ヶ所村の核燃料サイクル基地を取材し，防災上の課題を提示した。

青森局・むつ報道室は，東北電力東通原子力発電所の敷地内の断層が活断層かどうか判定する調査を詳しく報じた。また，全国的に知られる大間のマグロの初競りに対する地元の反応を伝えた。

秋田局・大館報道室は，「経験のない大雨」として気象庁が厳重な警戒を呼びかけた８月９日の豪雨で被災地の様子をいち早く伝え，その後も継続的に取材して被害の深刻さを伝えた。

秋田局・横手報道室は，１月から３月にかけての秋田県南部の大雪被害を継続的に取材し，特産のブドウの木が雪の重みで折れ，農家が対応に奮闘する姿などを伝えた。

〔関東甲信越〕

関東甲信越はこの１年，大きな災害や事件，事故が相次ぎ，各報道室は取材の最前線として緊急報道に当たった。

２月，関東甲信地方は，記録的な大雪の影響で，農作物や住宅が大きな被害を受け，このうち埼玉県では，秩父市で96センチ，熊谷市で62センチと，気象台が統計を取り始めて以来最も多い積雪を観測した。

さいたま局・秩父報道室，熊谷報道室は，大雪

で孤立した集落の救出活動や農業被害など被害の実態を詳しく伝えた。

大雪の影響で山梨県は，周辺につながるほとんどの道路が通行できず一時，県全域が孤立した状態になり，甲府局・富士吉田報道室は，住民生活や物流への影響を全国に伝えた。

長野局・小諸報道室は，大雪のため長野県軽井沢町の国道で，車500台が４日間にわたって立往生した状況や，避難所に身を寄せたドライバーなどの様子を継続的に取材し，全国に伝えた。

千葉局・成田報道室は，大雪の影響で，成田空港周辺の交通機関が止まり，6,000人を超える旅行客が空港に足止めされた混乱を伝えた。

９月，埼玉県越谷市や熊谷市，千葉県野田市などで相次いで竜巻が発生し，さいたま局の春日部報道室，熊谷報道室，それに千葉局・東葛報道室は，竜巻が発生した際の映像を入手するなどして，被害の状況を詳細に伝えた。

前橋局・両毛広域報道室は，群馬県大泉町にある，食品大手「マルハニチロホールディングス」の子会社「アクリフーズ」の群馬工場で12月に発覚した冷凍食品農薬混入事件について，工場関係者の取材を進め，工場内の製造過程や管理体制などの詳細な情報を入手し，検品の合間にも混入される可能性があったことなどを全国ニュースで伝えた。

横浜局・横須賀報道室は12月，神奈川県三浦市の埋め立て地に，在日アメリカ海軍のヘリコプターが不時着・横転した事故や，３月に三浦市沖合の浦賀水道で外国の貨物船どうしが衝突し，１隻が沈没した事故の詳しい状況を中継も交えて伝えた。沈没事故では，貨物船の重油が周辺の海に流出し，千葉局・房総報道室は，千葉県内の漁協が漁を一時中止するなど漁業にも影響が出たことを全国ニュースで報じた。

新潟局・長岡報道室は，管内にある柏崎刈羽原発をめぐる動きについて，９月から始まった国の安全審査や，11月に長岡市が全国で初めて風向きを考慮しながら実施した避難訓練をリポートで全国に伝えた。

千葉局・成田報道室は９月，成田空港が，過去の建設反対運動の影響で，開港以来，全国の空港で唯一続けてきた空港入り口での検問を，15年３月までに廃止することになったことを報道した。

前橋局・沼田報道室は，一時建設か中止かで揺れた八ッ場ダムについて，５月，国の予算成立で４年ぶりに工事が再開されることになったことを受け，地元住民の一日も早い生活再建を望む声など反応を丁寧に取材した。

首都圏センター・多摩報道室は９，10月に，東京都内で54年ぶりに開催された国体において，主会場となった調布市における歓迎の取り組みや，20年の東京五輪でも活躍が見込める若手有望選手をシリーズで取り上げ報じた。

水戸局・つくば報道室は，５月に茨城県つくば市で発生した国内最大級の竜巻から１年がたつのに合わせ，研究グループが行った竜巻の前兆現象の調査結果をリポートしたほか，被害が大きかった現場から復興の現状と課題を中継した。

〔中部〕

東京電力・福島第一原子力発電所の事故の教訓を受けた新たな規制基準が，７月，施行された。全国の原発のおよそ30％が集中する福井県では，関西電力が大飯原発と高浜原発のそれぞれ３・４号機について，原子力規制委員会に次の再稼働の前提となる安全審査の申請を行った。その一方で，福島の事故後，国内で唯一再稼働していた大飯原発３・４号機が，定期検査のため９月に運転を停止し，再び国内で稼働する原発はゼロとなった。

福井局・嶺南報道室は，福井局の指揮のもと，大飯原発３・４号機が停止するまでの作業や地元の反応などを取材し，全国の視聴者に伝えた。また，大飯・高浜原発の安全審査をめぐる現地調査なども全国発信した。このほかにも，規制委員会から原子炉の真下を走る断層が活断層と判断され廃炉の可能性がある敦賀原発や，点検漏れなどが相次いで発覚している高速増殖炉「もんじゅ」をめぐる核燃料サイクル政策の行方についても，地元への影響を中心に取材を継続した。

４月，石川県加賀市に，国民栄誉賞を受賞した女優の森光子さんの舞台衣装などを集めた記念館「森光子一座」がオープンした。金沢局・小松報道室は，12年に亡くなった森さんが，生前に遺品の管理を一任する文書を地元の元町長に残していた秘話について独自取材して全国ニュースで詳しく紹介した。

５月，石川県七尾市で「世界農業遺産」を認定する国連食糧農業機関の国際会議が開かれた。金沢局・能登報道室は，金沢局と協力して，この国際会議に合わせてすでに農業遺産に認定されていた「能登の里山里海」について「里海」に親しんでもらう地元の取り組みなどをシリーズ企画として発信し続けた。

６月，静岡局・沼津報道室は，記者が富士山の世界文化遺産登録決定の際，会議が開かれているカンボジアに出張し，決定の瞬間を伝えたほか，

登録をきっかけに改めてその意義が見直された富士山信仰に迫る取材を重ね，番組・リポート等を発信した。

７月29日，石川県小松市では，24時間に降った雨の量が観測史上最大となる199.5ミリの豪雨を観測し，小松市や隣の能美市では２万人近くに避難指示や避難勧告が出された。金沢局・小松報道室は，避難所から中継を行ったり，避難してきた人を取材したりして注意喚起と減災報道に努めた。

８月，愛知県岡崎市で会社役員の男性が殺害され現金が奪われる事件が発生した。名古屋局・岡崎報道室は，初動だけでなく長期的な取材を進め，捜査が難航する中，男性の元部下をインタビューし，同僚などに慕われていた被害者の人物像を伝えた。

８月から９月にかけて愛知県東部の水がめとなっている宇連ダムが渇水し，周辺自治体での節水が長期にわたって続いた。名古屋局・豊橋支局は，自治体や住民の動きや対策を取材し，日々のニュースとともにリポートとして放送で展開した。

９月，27年をめどに開通予定のリニア中央新幹線の中間駅の位置や具体的なルートが明らかになった。岐阜局・多治見報道室は，沿線となる東濃地域で早くも盛り上がる新たな地域振興の動きや，沿線にある史跡を守っていこうという動きなど，地域の動きを継続的に取材，報道した。

９月，金沢局・能登報道室は，人工繁殖で増えて自然に放たれた国の特別天然記念物・トキが，５月から本州で最後に生息していた石川県羽咋市に43年ぶりに住みついたことをいち早くつかみ，地元で見守る人の思いとともに企画として全国に伝えた。

10月，伊勢神宮で，20年に１度，社殿を建て替える「式年遷宮」が行われた。津局は，伊勢報道室を中心に１年間にわたって地域や人の営みを企画などで発信した。全国の関心が高まる中，入念な準備で儀式の様子を終日ニュースで伝えた。

11月，B級グルメの全国の祭典，B－１グランプリが愛知県豊橋市で開かれ，名古屋局・豊橋支局は全ブースの料理を取材し，放送につなげた。

11月，愛知県稲沢市の市議会議員が中国で覚醒剤を所持していたとして拘束され後日逮捕された。名古屋局・小牧報道室は，地元や市議会の動きなどを長期にわたって取材し放送した。

11月，オウム真理教の幹部による坂本弁護士一家殺害事件から24年となった。富山局・魚津報道室は，妻の都子さんの遺体が見つかった魚津市で続けられてきた追悼のコンサートが最後になることを知り，関係者の思いを全国放送で伝えた。

12月，愛知県豊橋市で双子の乳児の１人を虐待し死亡させたとして父親が逮捕された事件が発生し，名古屋局の豊橋支局と岡崎報道室は，周辺の聞き込みなどを行って，事件の詳細や背景を取材した。

１月，名古屋局・岡崎報道室は，愛知県で農業用トラクターの盗難が相次ぐ中，地域の被害農家を独自に取材し，犯行の手口や対策などを取りまとめ全国に発信した。

１月，愛知県東海市の大手製鉄所で停電により２回にわたって大量の黒煙を周辺に排出するトラブルが発生した。名古屋局・中部空港報道室は，発生直後から緊急報道の態勢で取材にあたり，その後も行政や製鉄所の動きや課題を放送した。

１月，静岡県浜松市内の複数の公立小学校で集団食中毒が起きた。静岡局・浜松報道室は，給食のパンが原因であることをいち早く全国に伝えたほか，給食の再開に向けた学校の取り組みを取材したリポートを全国に発信した。

３月，愛知県豊田市に小型飛行機が墜落し２人が死亡する事故が発生した。名古屋局・岡崎報道室が情報取材を進めるとともに，県営名古屋空港を所管する小牧報道室は小型機の元パイロットから当日の天候の危険性についてインタビューし，多角的な放送を行った。

３月，富山県小矢部市の北陸自動車道の小矢部川サービスエリアで，宮城県の夜行バスがトラックに追突する事故が起きた。富山局・高岡報道室は，直ちに現場に向かい，応援や中継車が到着するまでの間，映像取材を続け，全国放送につなげた。

〔近畿〕

近畿地方ではこの１年，大きな災害や事故が相次ぎ，各報道室は最前線で取材にあたった。

４月13日，兵庫県の淡路島で最大震度６弱を観測する地震が発生。総務省消防庁のまとめでは35人が重軽傷を負い，8,000棟以上の建物に被害が出た。近畿地方で震度６弱を観測したのは，阪神・淡路大震災以来18年ぶりのことだった。

神戸局は，発生直後から洲本市にある淡路報道室を拠点に，住宅の損壊や土地の液状化が激しかった地区などに記者・カメラマンを派遣。発生１週間や１か月といった節目ごとに，復興への動きや被災者支援をめぐる課題などをニュースで伝えた。

８月15日夜，京都府福知山市の花火大会会場で

爆発事故が起き，３人が死亡，約50人が重軽傷を負った。京都局・福知山地域報道室の民間通報員がいち早く事故の一報を入手。京都局や近畿各局の記者も取材に入り，事故の原因や被害者と遺族の事故後の苦しみなどをニュース･番組で伝えた。

９月16日，台風18号による大雨で近畿の各地は深刻な被害を受け，京都府と滋賀県には全国初の大雨特別警報が発表された。京都局は丹後舞鶴報道室・福知山地域報道室に取材班を送り，南部の学研都市報道室も含め，被害や避難の状況，被災者の復興の動きまで長期間取材した。台風の接近に伴い，和歌山県串本町では竜巻と見られる突風で住宅など合わせて253棟が被害を受けたが，串本在住の民間通報員が現場に駆けつけて被害の様子を撮影。和歌山局の南紀新宮，南紀田辺の両報道室の記者も竜巻の進路や被害の状況を詳しく伝えた。

紀伊半島を襲った豪雨災害から２年となる同じ９月，和歌山局の両報道室と奈良局・やまと路報道室は，それぞれ，復興が進む被災地の現状や自宅に戻れない被災者などについて詳しく伝えた。和歌山県橋本市在住の民間通報員は，６月にJR和歌山線の電車が倒木と接触して不通になった際，いち早く現場の様子を撮影し的確な情報を伝えた。

１月，NHKの『大河ドラマ～軍師官兵衛』の放送が始まった。黒田官兵衛ゆかりの地・兵庫県姫路市にある姫路報道室は，地元の盛り上がりを伝えようと，12月から「官兵衛参上」と題したコーナーを県域のニュース番組内に創設。官兵衛をPRする地元アイドルグループの密着リポートなど，ドラマを通して地域を元気にしようとする取り組みを毎週木曜に紹介した。大津局・彦根報道室は，特に“観光・地域振興”の観点から地域の動きに注目。「ご当地キャラ博」（彦根市）や「軍師官兵衛」に合わせた博覧会（長浜市）などを厚く取り上げた。また福井県での原子力災害を想定した自治体の対策や課題を継続取材し，有事の取材拠点として装備の充実も進めた。

２月25日，兵庫県新温泉町沖の日本海でダイオウイカが泳いでいるのが見つかり，地元の漁業者が生け捕りにした。一報を受けた神戸局・豊岡報道室の記者が駆けつけ，引き上げられたばかりの長さ４メートル余り，重さ200キロほどの巨大なイカを撮影し，全国ニュースで紹介した。

大阪局・関空報道室は，国が進める空港の経営改革の動きや課題を取材。関西空港は14年度中に空港の運営権を民間に売却して債務の返済を進める計画だが，空港会社の経営効率化の現状と課題をリポート。関西空港など各地の空港に相次いで乗り入れる格安航空会社間の激化する参入競争の実態も伝えた。

〔中国〕

11月，フィリピン中部レイテ島の主要都市タクロバンを襲った台風について，広島局・福山支局は，国内で唯一姉妹都市の提携を結んでいる福山市や民間の交流団体が行った支援などを伝えた。

２月，東京の公立図書館などで『アンネの日記』の本が破られた被害では，スイスにある「アンネ・フランク財団」から，財団と親交のある福山市内の展示施設に寄せられたメッセージを紹介した。

広島局・呉報道室は，夏の異常気象によって瀬戸内海で盛んな養殖カキの成育が遅れ，秋になっても養殖用の稚貝が十分に確保できていないことや，水揚げ作業に遅れが出ている現状を伝えた。

１月，広島県沖の瀬戸内海で海上自衛隊の輸送艦「おおすみ」と釣り船が衝突し，釣り船に乗っていた男性２人が死亡した事故では，発生後速やかに事故の情報を伝え，その後も詳しく報じ続けた。

公職選挙法が改正され，国政選挙は７月の参議院選挙から「成年後見制度」によって後見人がいる人も投票ができるようになった。岡山局・倉敷報道室は，事故による後遺症で後見人がつき，投票権を失っていた男性が久々の投票を済ませるまで密着し，全国に伝えた。

島根県西部では７月，津和野町で記録的短時間大雨情報が出たほか，８月には江津市で３時間に180ミリを超える大雨になるなど，およそ１か月の間に２度の記録的豪雨に見舞われた。松江局・浜田報道室は素早く取材を開始し，中継や特設ニュースで繰り返し警戒を呼びかけ，減災報道にあたった。

鳥取局・米子支局は１月，焼け跡から１人が遺体で見つかった住宅火災が殺人事件と分かり，連日事件の詳細を伝えた。

３月，中国地方の最高峰・大山で３人が遭難した事故では，全員の遺体が収容されるまで３日間にわたり取材，教訓も含めて伝えた。

日米間で合意された沖縄の基地負担の軽減策として，政府はアメリカ軍の空中給油機を沖縄県の普天間基地から山口県の岩国基地に移転させる方向で調整を進めていた。山口局・岩国報道室は，これまで「容認できない」との考えを示していた岩国市長が，11月，一転して受け入れる方針を固めたことを素早く全国に伝えた。

１月から12月にかけて山口県下関市で，救急車

の到着の遅れが３件発生し，このうち２件では患者が死亡した。山口局・下関支局は，消防局が導入した，通報者の居場所を速やかに割り出すシステムが適切に運用されなかった問題点や再発防止に向けた対策を検証し，全国に伝えた。

〔四国〕

四国管内の各報道室は，この１年，原発の安全対策や南海トラフの巨大地震への備えなど地域の将来を見据えた課題や地域活性化の取り組みを中心に取材にあたった。

四国電力伊方原子力発電所について，四国電力が施した新しい安全対策や国の安全審査が注目される中，原発が立地する伊方町を担当する松山局・八幡浜報道室では，自治体や地元住民の動きを中心に取材。原発事故を想定した愛媛県の防災拠点「オフサイトセンター」の建設などの動きも取材し，管中番組などに展開した。

造船関連のメーカーが集積する愛媛県今治市を担当する松山局・今治報道室は，韓国や中国のメーカーとの競争が激しさを増す造船業界の取材を強化した。このうち，国内最大手の「今治造船」が広島県に本社を置く常石造船の工場を買収するという情報を入手し，背景なども含めて詳しくニュースとして伝えた。また，今治市の造船大手「新来島どっく」が，燃費のよい船の建造を進めようと，炭素繊維を用いた船の部品を開発したという情報を独自につかみ，全国ニュースで放送した。

愛媛県新居浜市のシンボルで近代日本の礎となった「別子銅山」。松山局・新居浜報道室では，閉山した今も数多く残る産業遺産を大切に守る人々の活動を取材し，産業開発の歴史を伝えながら地域の活性化も図れないか模索する地元の取り組みを伝えた。

８月に高知県四万十市西土佐で，国内の観測史上，最も高い41度を観測した。高知局・くろしお報道室は，記録的な猛暑の反応や農業や漁業への影響，それに貴重なトンボの生息池の渇水などを連日にわたって取材，ニュースやリポートを数多く全中に発信した。

徳島局・阿南報道室は，南海トラフの巨大地震の発生から12分で津波が到達すると想定されている徳島県南部で，必要な日用品などを地域であらかじめ安全な場所に保管しておき，いざという時は身一つで素早く避難できるようにする活動を全国放送でリポートするなど，過疎化・高齢化が進む地域の防災対策を継続的に発信した。

11月にアイソンすい星が太陽に接近し，長い尾を伸ばす姿の天体ショーが全国的な注目を集めた際，高松局・丸亀報道室ではいち早くその撮影に成功した地元の男性から写真を入手し，独自のインタビューとともに伝えた。

〔九州・沖縄〕

４月16日，水俣病の認定をめぐって，最高裁判所は，国の基準に基づいて行われた審査で認定申請が棄却された女性を水俣病と認める判決を言い渡した。10月には，水俣病の原因となった水銀を規制する条約に関する国際会議が，熊本市と水俣市で開催された。熊本局・水俣報道室は，水俣病の被害者の声をそのつど取材し，水銀規制の条約会議の際には，会議でスピーチを行う水俣病患者の思いをリポートにまとめ，全国ニュースで放送した。

福岡県では，改正暴力団対策法の施行で，長年抗争を繰り返してきた久留米市に本部を置く「道仁会」と大牟田市に本部を置く「九州誠道会（現在は浪川睦会）」が，「特定抗争指定暴力団」に指定され，指定地域で事務所は使用禁止，５人以上集まっただけでも逮捕される状況が続いた。施行半年後の６月には，抗争終結を宣言する事態となり，福岡局・久留米報道室では，事前情報をもとにその動きを詳細に伝え，指定から１年の12月には，組員が一般の会社員を装って水面下で活動する現状を，当事者の証言も交え詳しく伝えた。

７月，原子力発電所の新たな規制基準が施行されたことを受けて，九州電力は鹿児島県の川内原子力発電所１・２号機と，佐賀県の玄海原子力発電所３・４号機の運転再開に向けて，国に安全審査を申請した。こうした中，佐賀局・唐津報道室では，地元の動きを細かく伝えたほか，鹿児島局・薩摩川内報道室では，川内原発で進められた安全対策をきめ細かく取材し，避難計画の在り方や安全性の課題を伝えた。

９月には鹿児島県肝付町の内之浦宇宙空間観測所から新型の国産ロケット・イプシロンが打ち上げられ，鹿児島局・鹿屋報道室は，観光や地域振興に強い期待を寄せる地元の動きを放送した。

同じ９月，大手医療法人・徳洲会グループによる組織的な選挙違反事件が発覚，徳洲会は奄美群島が出発点の組織で，その後，奄美が選挙区の徳田毅衆議院議員が辞職する事態となった。鹿児島局・奄美報道室は，連日，事件や影響などの取材にあたった。

３月には，大島高校野球部が21世紀枠で県内の離島からは初となる甲子園出場を果たし，夢を諦めなかった地域の熱い思いを多角的に伝えた。

宮崎県日向市では，８月28日から９月８日にか

けて住宅地でサルに人が襲われる被害が相次いで，18人がけがをした。宮崎局･延岡報道室では，大規模な捕獲作戦に先立つパトロールから取材し，駆け回るサルの姿や捕獲された際の様子などを伝えた。

北九州局･行橋報道室が担当する行橋市は，『大河ドラマ～軍師　官兵衛』の主人公，黒田官兵衛の九州最初の拠点，馬ケ岳城があり，地元の豪族，宇都宮氏が官兵衛に滅ぼされるなどゆかりがあった。このため，地元自治体やグループが取り組む街づくりの動きを取材し，ニュースや企画で放送した。

また，大分県中津市も，黒田官兵衛が治めた場所とあってPR活動を進め，大分局･中津報道室は，市の関連事業だけでなく，官兵衛かかしや，官兵衛メニューの給食など，官兵衛で地域活性化を目指す取り組みをさまざまな視点から伝えた。

12月，沖縄県の仲井眞知事が，米軍普天間基地の移設先とされる名護市辺野古沿岸部の埋め立てを承認した。この３週間後，１月の名護市長選挙では，移設計画に反対する稲嶺市長が再選を果たした。沖縄本島中北部を担当する沖縄局・沖縄報道室は，名護報道室とともに，知事の埋め立て承認に対する住民の思い，そして名護市長選挙の選挙戦を継続的に取材し，ニュースや『NHKスペシャル』，九州・沖縄管内の番組で発信した。

４．海外総支局

14年３月31日現在，４つの総局と24の支局に計80人の特派員がいる。

各総局がカバーする主な地域は，アジア総局が，アジア・オセアニア。中国総局が，中国・台湾・モンゴル。ヨーロッパ総局が，欧州・ロシア・中東・アフリカ。アメリカ総局が，南北アメリカ。

アジア総局管内では，南シナ海の島々の領有権をめぐる中国と東南アジアの一部の国々との対立を継続的に取材。また，タイではインラック首相の退陣を求める反政府デモが激化し，日本人社会や経済への影響も含め，現地の情勢を幅広く伝えた。13年11月には記録的な勢力となった台風30号がフィリピン中部を直撃し，死者行方不明者は8,000人にのぼり，マニラ支局をはじめアジア総局管内の特派員に加えて，東京からも緊急展開チームを派遣し，迅速かつ手厚く取材した。

北朝鮮では，13年12月にキム・ジョンウン第１書記が叔父であるチャン・ソンテク氏を粛清して世界に衝撃を与え，その背景には資金をめぐる内部の争いがあったことを独自の証言を得て裏付け，番組などで詳しく紹介した。13年春には，中距離弾道ミサイルを発射する構えを見せるなど威嚇を繰り返して緊張を高めたことをニュースで詳しく伝えた。

韓国では，パク・クネ大統領が安倍政権の歴史認識に対する批判を繰り返し，日韓関係は政治面で冷え込みが続いている。しかし，14年３月にオバマ大統領の仲介で日米韓首脳会談が実現し，日韓の関係改善に向けた一歩が踏み出されたことを多角的に伝えた。

中国総局管内では，日中関係，中国社会・経済の現状と課題を重点的に取材した。先鋭化する少数民族問題，市民運動の弾圧，反腐敗キャンペーン，シャドーバンキングの処理，ネット・ショッピング人気，海洋強国の推進など，多面的な中国のいまをリポートしてきた。日中関係は，13年11月の防空識別圏の設定や，12月の安倍総理大臣の靖国神社参拝などで，対立が深まっており，中国側の狙いと本音をつかむべく精力的に情報取材を続けた。

ヨーロッパ総局管内では，中東地域での民主化運動「アラブの春」後の混乱ぶりを現地から伝えた。エジプトでは，13年７月，軍による事実上のクーデターでモルシ大統領が解任されて混乱が拡大。シリアでは，アサド政権が化学兵器の全廃を約束したが，内戦終結のめどは立っていない。一方，イランでは，13年８月にロウハニ大統領が就任し，核開発問題をめぐる協議で欧米側と一部合意に達した。アフリカ地域では，南アフリカのマンデラ元大統領が，13年12月に死去し，その功績を現地から伝えた。

さらに，ウクライナ情勢を，総力を挙げて取材した。ウクライナでは，14年２月，反政府デモによってロシア寄りの政権が崩壊。ロシアが軍事的な圧力を強め，南部のクリミア半島を一方的に編入する事態となった。現地に取材班を展開して，最新情勢を伝えるとともに，強硬姿勢を崩さないプーチン政権の動向や，これに反発して制裁措置を強める欧米の動きなど，多角的に伝えた。

アメリカ総局管内では，13年春にボストンで爆弾テロ，オクラホマ州で巨大な竜巻が発生したほか，12月に南米エクアドルで日本人夫婦が襲われる事件が起きた。いずれも現地から中継で事件の背景や被災地の状況などを伝えた。また，シリアやウクライナの情勢，存在感を増す中国に対して問われるオバマ政権の外交を幅広く取材。最新のIT事情や仮想通貨ビットコインの問題などネット社会の光と影にも迫り，ニュースや番組で放送

した。

海外総支局では，また，国際放送の拡充に合わせて，現地のニュースをきめ細かく出稿するなど，NHKの海外発信力の強化に貢献している。

このように海外総支局では，幅広いNHKのネットワークを生かして，グローバル化が進む世界の最新情勢や，日本の参考となるような海外の事例などを，正確かつ速やかに視聴者に伝えようと努めている。

NHKの海外総支局（14年３月31日現在）

■アジア総局（バンコク）：マニラ，ジャカルタ，ハノイ，ニューデリー，イスラマバード，シンガポール，シドニー，ソウル

■中国総局（北京）：上海，広州，台北

■ヨーロッパ総局（パリ）：ロンドン，ブリュッセル，ベルリン，ウィーン，カイロ，ドバイ，エルサレム，テヘラン，モスクワ，ウラジオストク

■アメリカ総局（ニューヨーク）：ワシントン，ロサンゼルス，サンパウロ

以上の28総支局に，記者，制作記者，ディレクター，カメラマン，技術担当，経理担当，計80人の特派員がいる。

Ⅵ．気象情報

13年度の総合テレビの気象情報は，平日で１日およそ１時間20分放送した。気象予報士の資格を持った13人の気象キャスターが，番組ごとに気象情報の解説を行った。13年度は，局地的な大雨，竜巻，台風，関東甲信の記録的な大雪などがあった。こうした災害の特設ニュースなどでは，気象予報士による気象解説を行った。気象解説では，被害が起きる前に防災上の注意点などを伝える「減災報道」に引き続き取り組んだ。

Ⅶ．スポーツ

１．ソチオリンピック・パラリンピック

14年２月７日から２月23日（現地時間）までの17日間にわたってソチオリンピックが開催された。冬の大会としては史上最多の88の国と地域が参加し，98種目で熱戦が繰り広げられた。

ソチ大会で日本が獲得したメダルは８個（金１個，銀４個，銅３個）。これは長野大会の10個に次ぐ成績である。

フィギュアスケート男子シングルで金メダルを，ジャンプ男子ラージヒルで銀メダルをを獲得する一方，注目のフィギュアスケート女子シングルやジャンプ女子などではメダルなしに終わった。

時差は５時間で，日本選手の活躍が期待される種目は，日本時間の深夜から未明に集中した。NHKは「全力応援！」というキャッチコピーのもと，総合・Eテレ・BS1・ラジオ第１の各放送波で注目の競技を伝えるとともに，データ放送やインターネットできめ細かくオリンピック情報を伝えた。テレビ，ラジオ合わせたオリンピックの総放送時間（ニュース情報番組を含む）は557時間15分。このうち地上波（総合，一部Eテレ含む）の201時間４分は，バンクーバー大会（166時間59分）を上回り，これまでで最長となった。

総合テレビは，日本選手の活躍を生中継し，注目競技が重なる場合はEテレでも編成した。さらに，深夜の生中継を見逃した視聴者に配慮し，午前中には“見逃し”ゾーンとして録画放送を行った。また，ロンドンオリンピック同様に，中継番組のキャスターを現地に派遣し，総合テレビの競技中継の前後に会場周辺の様子や最新情報をライブで伝えるなど，現地の臨場感をたっぷりと届けた。

大会期間中の視聴率は，開会式の録画放送が22.3％となり，NHK，民放合わせたソチオリンピック世帯視聴率のトップであった。このほか，フィギュアスケート男子フリーの録画放送が21.9％，フィギュアスケート女子フリーの生中継が深夜にもかかわらず17.2％を記録した。

オリンピックに続き，ソチパラリンピックが３月７日から３月16日までの10日間にわたり，冬の大会としては史上最多の45の国と地域が参加して行われた。日本は，アルペンスキー男子の活躍などでメダル６個（金３個，銀１個，銅２個）を獲得した。

NHKは，冬の大会としては初めて，総合で開会式をすべて生中継したほか，期間中は毎日，総合テレビとEテレでダイジェスト番組を放送した。ニュースや関連番組を含めたテレビの放送時間は合計30時間38分で，冬の大会としては過去最長となった。

２．Jリーグ

Jリーグは93年の開幕から数えて20年が経過した。５月11日のJ1「浦和－鹿島」は「J20周年記念試合」として開催され，チームの歴史を彩ったポンテ・アルシンド両氏がスタジアムに登場し，

ファンにメッセージを送った。

J1は序盤，大宮アルディージャが記録的な快進撃を見せた。前線の強力外国人コンビを中心に，12年度終盤から21戦連続負けなしのJリーグ新記録を達成。後半は優勝争いから脱落したものの，大宮が前半戦の話題の中心となった。夏以降は，MF中村俊輔を擁する横浜F・マリノスと，前年王者のサンフレッチェ広島がデッドヒートを繰り広げ，最終節で広島が連覇を決めた。

一方，過去３回の年間優勝を誇る名門ジュビロ磐田が初の降格。湘南・大分と共に来シーズンはJ2で戦うことになった。

J2はガンバ大阪が抜群の攻撃力で早々に首位に立つと，後半もその勢いは衰えず，優勝とJ1昇格を手に入れた。２位はヴィッセル神戸。12年度から始まった昇格プレーオフの結果，昇格３チーム目は徳島ヴォルティスに決まった。ガイナーレ鳥取はJFL上位のカマタマーレ讃岐との入れ替え戦に臨み，讃岐が勝利してJ2参入を決めた。鳥取は14年に新設されるJ3リーグに加わる。

３．野球

プロ野球は３月29日にセ・パ同時に開幕した。セ・リーグは巨人が２位阪神に12.5ゲーム差をつけ，２年連続35回目のリーグ制覇。３位には広島が入り初のクライマックスシリーズ進出を決めた。４位以下は中日，DeNA，ヤクルト。

パ・リーグは楽天が球団創設９年目で悲願の初優勝を果たした。星野仙一監督は通算４度目の日本シリーズで初の日本一となった。楽天のエース田中将大投手は開幕からの24連勝，史上初の偉業に輝いた。終盤に怒涛（どとう）の８連勝を飾った西武がロッテをかわし２位に滑り込んだ。４位以下はソフトバンク，オリックス，日本ハム。

田中の24連勝のほかにも，ヤクルトのバレンティンがシーズン最多記録となる60本塁打を放つなど，新記録に沸いたシーズンとなった。

クライマックスシリーズのファーストステージ，セ・リーグは広島が阪神を２連勝で下し，ファイナルステージで巨人に挑んだ。しかし巨人が僅差の試合を制し４連勝（アドバンテージの１勝含む）で日本シリーズ進出を決めた。

パ・リーグのファーストステージは，３位のロッテが２位の西武を２勝１敗で下してファイナルステージへ。しかしエース・田中を擁する楽天は通算４勝１敗（アドバンテージの１勝を含む）でロッテを退け，初の日本シリーズ進出を決めた。

日本シリーズはともにレギュラーシーズン１位チーム同士の対決となった。第７戦までもつれこむ熱戦を制した楽天が初の日本一となった。

高校野球は浦和学院（埼玉）がセンバツ決勝で済美（愛媛）と対戦して初優勝した。夏の甲子園では前橋育英（群馬）が初出場初優勝，宮崎県勢初の決勝進出を果たした延岡学園はわずかに及ばず涙をのんだ。

全日本大学選手権は，上武大学が亜細亜大学と対戦し，初の大学日本一となった。

社会人野球の都市対抗は，JX-ENEOSがJR東日本を下し51年ぶりの大会２連覇，史上最多11回目の王座についた。秋の日本選手権は有力チームが敗れ混戦もようとなったが，新日鐵住金かずさマジックが富士重工業を下し初優勝した。

４．大リーグ

ボストン・レッドソックスが2013シーズンのワールドシリーズを制覇した。前年の地区最下位だったチームの躍進を支えたのは，上原浩治と田澤純一の両投手だった。

上原はシーズン当初は中継ぎとして起用されていたが，６月にクローザーに定着。球団記録となる37打者連続凡退を記録するなど，守護神としての地位を確立した。登板を終えた時に見せるハイタッチや，勝利のマウンドでオルティーズに抱きかかえられるパフォーマンスはレッドソックスの“象徴”にもなった。田澤は150キロを超える速球を生かし，セットアッパーに定着した。ワールドシリーズ進出をかけたリーグ優勝決定シリーズでは，タイガースの強打者カブレラとの一騎打ちを制し，チームのワールドシリーズ進出に大きく貢献した。

テキサス・レンジャーズではダルビッシュ有が大リーグ挑戦２年目を迎えた。初登板試合で９回途中まで完全試合を続けると，その後も好調を維持，オールスターゲームにも選出された。シーズン終盤には腰の痛みなどから調子を落としたものの，13勝を挙げた。また，ダルビッシュはキレのある変化球でアメリカンリーグ最多の277個の三振を奪い，日本選手としては野茂英雄さん以来12年ぶりとなる最多奪三振のタイトルを獲得した。

イチローは，ヤンキースでライトのレギュラーとしてシーズンをスタートした。８月21日のトロント・ブルージェイズ戦では，日米通算4,000本安打（日本1,278本，米2,722本）を達成した。しかし，打率がメジャー13年で最低を記録するなど打撃面で精彩を欠き，シーズン終盤には控えに回る場面も見られた。

黒田博樹はヤンキースの先発陣を支えた。持ち味のツーシームを駆使したピッチングで右のエースの座を不動のものとした。８月以降は１勝７敗と負けが込んだため11勝にとどまったが，ドジャース時代から４年連続となる２ケタ勝利を記録した。

マリナーズの岩隈久志はMLBで２年目を迎え，先発投手として定着を果たした。年間を通して安定したピッチングで14勝を挙げ，低迷するチームを支えた。

ブルワーズの青木宣親は１番ライトに定着，安定したバッティングに加え，持ち味の俊足を生かし，チームに欠かせない存在となった。

松坂大輔は８月にインディアンズを自由契約となりメッツに移籍，７試合に先発し３勝を挙げた。

2013シーズンは，選手の禁止薬物の使用が大きな問題となった。ヤンキースのアレックス・ロドリゲスなどのスター選手を含む14人がドーピング違反で大リーグ機構から出場停止処分を受けた。しかし，アレックス・ロドリゲスは処分を不服として異議申し立てを行い，試合出場を続けた。

５．大相撲

不祥事からの立ち直りを目指している日本相撲協会は，初場所後の１月30日，それまでの財団法人から公益財団法人に移行し，新たなスタートを切った。また若い力士が台頭し，広く人気を集めた。13年は信頼，人気の回復に相撲界全体が取り組んだ１年であった。

５月の夏場所は白鵬が10回目の全勝優勝を果たし，圧倒的な強さを見せた。幕下ではエジプト出身の大砂嵐が優勝，新十両を決めた。アフリカ初の関取誕生，明るいキャラクターも相まって，話題となった。

名古屋場所では，優勝すれば横綱昇進と言われた稀勢の里が前半で３敗を喫し，脱落した。13日目に早々と白鵬が優勝を決めた。また，八百長問題で解雇された蒼国来が東京地裁の解雇無効判決を受けて復帰した。

秋場所では，初土俵からわずか３場所で新入幕を果たした遠藤が登場し，甘いマスクと基礎ができた相撲で玄人から女性ファンまで幅広い層の人気を得た。

初場所，それまで目立たなかった大関鶴竜が最後まで優勝を争い，白鵬との優勝決定戦まで進んだ。鶴竜は春場所で初優勝を果たし，横綱昇進を決めた。４代続けてのモンゴル出身力士の横綱となった。

６．ゴルフ

国内男子ツアーでは，松山英樹，石川遼の２大スターが本格的にアメリカPGAに参戦したため，日本でのプレー機会が激減した。

78回目を数える日本オープンは茨城県の茨城ゴルフクラブ東コースで開催された。懸念どおり石川，松山がいない日本オープンであったが，中堅になってきた小田孔明が積極的なプレーでリードした。しかし４日目は台風のため順延，予備日を使用しての最終日は強風の中で粘り強いゴルフを見せた小林正則が初のメジャータイトルを逆転で手にした。

女子ツアーでは，若手のツアー４勝の森田理香子と横峯さくらが最後まで賞金女王争いを繰り広げたが，森田が自身初の賞金女王を獲得した。

相模原ゴルフクラブで開催された日本女子オープンにはアメリカで活躍中の宮里藍や宮里美香が出場し，注目度の高い大会となった。最終日，菊池絵理香が一時首位に立ったが，最終ホールで宮里美香がバーディーを奪い１打差で優勝を果たした。

シニアでは，村田淳が賞金王を獲得した。福岡県の麻生飯塚ゴルフクラブで行われた日本シニアオープンでも実力を発揮し，水巻善典や東聡らと優勝争いをしたが，最後は単独で抜けて優勝した。

アメリカPGAは10月から翌年９月までを１シーズンとする新たなシーズン制を導入することになり，13年には１月から９月までの「2013シーズン」と，10月から翌年９月までで争われる「2013-14シーズン」が開催された。

石川遼は，2013シーズンからPGAツアーに本格参戦を果たしたが，シーズン序盤はショットが安定せず，その後もパットに苦しんだ。シーズン終了後の入れ替え戦で，ようやく2013-14シーズンのシード権を獲得した。10月に開幕した新シーズン，石川は２戦目となるシュライナーズホスピタル・フォー・チルドレンオープンで２位タイに入るなどの好成績も残し，復調に向けて前進した。

松山英樹は2013シーズン７試合に参戦し，全英オープンで６位タイを記録するなど好成績を収め，わずか６試合で2013-14シーズンのシード権を獲得した。本格参戦となった2013-14シーズンに入っても，松山は初戦のフライズドットコムオープンで３位タイに入るなど好調を維持した。３戦目となるHSBCチャンピオンズでは左手首の痛みを訴えて棄権するなどのアクシデントもあったが，その後も着実に結果を残し続けた。

番組制作の委託

１．関連団体等への番組制作委託

NHKは，質の高い放送番組の安定的確保を図るとともに，外部の専門的能力を効果的に活用することで，番組の一層の多様化を推進する視点から，関連団体へ番組制作委託を行っている。

2013年度も，NHKエンタープライズ・NHKエデュケーショナル・NHKグローバルメディアサービスに，大型企画をはじめ各分野の番組制作を委託，NHKサービスセンターに広報番組の制作を委託，NHKプラネットに全国および地方番組を日本国際放送に国際番組の制作業務を委託した。

また，NHKでは，多様な番組を送り続けるために，関連団体を通じて番組制作会社への放送番組制作委託も行っており，外部のさまざまな制作パワーを効率的に活用している。

13年度の主な番組制作会社への制作委託

○地上波

総合では，『タイムスクープハンター』『キッチンが走る！』，Eテレでは『ETV特集』『Eテレ0655・2355』などを制作・放送した。

○衛星波

BS1では，『ドキュメンタリーWAVE』，BSプレミアムでは，『旅のチカラ』『晴れ，ときどきファーム！』などを制作・放送した。

２．番組制作会社への直接委託（外部制作委託・本体）

番組制作会社が，関連団体を経由することなく，直接編成部門に提案する窓口として，06年６月に編成局内にソフト開発センターが設立され，12年６月からは組織改正に伴いコンテンツ開発センターがその窓口になった。特集番組や新番組の提案について，NHK，NHKの関連団体，それに番組制作会社の３者が，番組の企画提案や制作・演出手法を競い合うことで，より高品質，効率的，多様な放送番組を創造することを目的としている。

13年度は，「企画競争」として１年間で13回の募集を行った。テーマや期間を決めず通年募集している企画競争を含めると，参加した番組制作会社は延べ552社で，1,306件の企画が寄せられた。企画競争から生まれた番組としては，『総合診療医　ドクターG』（総合：金，22:00），『タイムスクープハンター』（総合：土，23:30），『ドラマ10』「激流～私を憶えていますか？」（総合：火，22:00），『プレミアムドラマ』「花咲くあした」（BSP:日，22:00），『プレミアムよるドラマ』「お父さんは二度死ぬ」「ダブルトーン」「POWER GAME」（BSP：前期土，後期火，23:15）などを番組制作会社制作の定時番組として放送した。

番組制作会社との委託契約などにあたっては，下請法に準拠した手続きをとっている。また，「番組制作会社との取引基準」に基づき，公共性・透明性を高めるとともに，「NHK放送ガイドライン」を周知し，公共放送としての質の確保に努めている。

情報番組

Ⅰ．経済・社会情報番組

経済・社会情報番組部は，13年度も，時代と人に向き合う番組を放送し続けてきた。

13年度は『クローズアップ現代』『サキどり↑』『週刊　ニュース深読み』『プロフェッショナル仕事の流儀』『ドキュメント72時間』（以上，他部局との共管番組含む）の５番組を定時番組として担当した。

また，『NHKスペシャル』をはじめとする特集番組も多数制作した。

（１）定時番組

『クローズアップ現代』は21年目，「“いま”を切り取り“時代”を見つめる」の基本方針を堅持してさまざまな話題に切り込んだ。特に高齢化と人口減の構造的課題を主要な柱として，地域の取り組みなどを継続的に企画化した。生活保護脱却を目指す中間就労の取り組み，介護遠隔化時代の地域リソース活用，地方都市のコンパクト化，埋もれた引きこもりへのアプローチ，高齢者に増え続ける栄養不足，高齢者をターゲットにした新手の投資詐欺，地域パワーとしての団塊世代活用術，健康データを活用した企業・自治体の取り組みなど，相互に関連していることを強く意識した問題提起を行った。もう１つの柱は働き方の多様化，女性の活躍推進を巡るテーマ。５時まで管理職，米IT企業最高幹部インタビュー，介護離職問題，マタニティハラスメント，ブラック企業検証など。さらに緊急対応にも積極的に注力し，伊豆大島水害，フィリピン巨大台風，年明けの大雪などに関わった。

『プロフェッショナル　仕事の流儀』は，あらゆる分野で活躍する一流の“プロ”の仕事を徹底

的に掘り下げるドキュメンタリー番組。13年度はレストランでサービスを行うメートル・ド・テル，脳神経外科医，クリーニング師，うなぎ職人など，さまざまなプロフェッショナルを通して，仕事の奥深さと哲学を伝えた。また，プロサッカー選手・本田圭佑，映画監督・宮崎駿引退スペシャル，藤子・F・不二雄などの特別番組も放送した。

『サキどり↑』は，日本経済の再生を応援し，新しいライフスタイルを提案する経済情報番組。「養殖魚」や「IT農業」など第一次産業の新たな取り組みと可能性，「シニア起業」や「プチ移住」のトレンドやその背景，そして「休む力」をはじめとした働き方改革の動向など，生活者の目線で新しい価値観やビジネスの新潮流を伝えた。

『ドキュメント72時間』は，さまざまな場所や人物に３日間だけ密着し，そこで起きる知られざるドラマを記録する新趣向のドキュメンタリー番組。新宿の24時間営業の花屋や，大阪･西成の労働者向け貸しロッカー前，さらには日本最北の宗谷岬バス停など，全国各地にカメラを据えリアルな庶民の暮らしを切り取った。

（２）特集番組

経済・社会情報番組部では，ジャーナリスティックな切り口で，多彩な特集番組を制作してきた。

13年度は『NHKスペシャル』４本のほか，特集『がんばっぺラジオ2013旅立ち』，『サキどり↑DX』などを制作。『NHKスペシャル』「密着エネルギー争奪戦～日本の逆襲」では，福島原発事故以来，天然ガスの輸入で経済的負担が増大する日本の現状と，アメリカで始まったエネルギー大変革の動きを追跡。エネルギー獲得を巡る国家レベルの熾烈（しれつ）な戦いの舞台裏を描き，日本のエネルギー戦略の在り方を探った。また，『NHKスペシャル』「“認知症800万人”時代～母と息子　3000日の介護記録」では，元NHKディレクターの相田洋さんが認知症の母親を介護した映像記録をもとに，在宅介護の実態と課題を伝えた。番組は，第51回ギャラクシー賞を受賞。

定時番組からの特集展開は，『クローズアップ現代』からの展開で，『NHKスペシャル』「みんなの夢まもるため～やなせたかし“アンパンマン人生”」を制作。やなせさんの知られざる創作の軌跡をたどりながら後世に遺（のこ）したメッセージをひもとき，大きな反響を呼んだ。

Ⅱ．生活・食料番組

生活・食料番組部は，現代社会のさまざまなテーマを「生活者の視点」から見つめ，視聴者の関心や疑問に答える情報番組やドキュメンタリーを制作した。

13年度は，月～金曜朝の『あさイチ』，月～水昼の『ひるブラ』，月曜夜の『サラメシ』，日曜朝の『うまいッ！』，新番組として土曜夕方の『マサカメTV』を定時番組として放送した。

（１）定時番組

『あさイチ』は，視聴者が“一番欲しい”“もっと知りたい”と考える情報がたっぷり詰まった，“市場”のような活気ある番組。４年目を迎えた。主なターゲットは家庭を守る主婦。長引く不況やセーフティネットの綻びによるかつてない不安な時代を賢く生きていくための「信頼できる情報」を，いち早く家庭に届けてきた。社会問題，政治の話題から，エンタメ，生活実用情報までを，ニュースとはひと味違う「生活者の視点」から，掘り下げて伝えた。また，視聴者からの質問や意見をファックスやメールで受け付け，生放送の中で積極的に紹介。番組は視聴者の身近な存在となり，確実な支持が得られている。

中継番組『ひるブラ』は，「行ってみたい！」「見てみたい！」「食べてみたい！」四季折々の姿を見せる全国各地の“旬”な場所を訪ね，その地域の魅力を生中継でダイレクトに届けた。東京のスタジオ出演者が画面の小窓で常に登場し，率直な質問や反応を投げかける新しい演出スタイルが定着した。

『サラメシ』は「働く人のランチ」が番組の主役となっている番組。サラリーマンの昼食（サラメシ）から，多彩な職業の人々のさまざまなランチまでをつぶさに観察し，ランチを通じて仕事へのこだわりや感動のエピソードなどを紹介。働く人の今を楽しく鋭く見つめた。

土曜夕方の『マサカメTV』は，新番組として放送した情報番組。一流の達人には，アッと驚く“まさか”の「目の付けどころ！」があり，そんな“マサカメ”をクイズ形式で紹介しながら「物事の意外な着眼点」を楽しむ新感覚番組として制作した。どんなマサカメなのか，親子で気軽に視聴できる番組を目指した。

『うまいッ！』は“うまいッ！”と思わず叫びたくなる日本各地の絶品食材をテーマに，おいしいものを届けたいと奮闘する生産者に密着。味を極める技や工夫をひもとくとともに，健康効果や歴史文化などのうんちく，とっておきの調理法を紹介。多角的に食材の魅力を描き，食を支える人々と産地を応援する番組として定着し，好評を得て

いる。

（２）特集番組

『あさイチ』での取材を継続・発展させる形で『NHKスペシャル』を制作。「あなたは未来をどこまで知りたいですか～運命の遺伝子」（7.7）では，新しい治療法として注目を集める「遺伝子治療」の最前線に密着。アメリカ，中国など海外の研究も交え，「遺伝子治療」の効果と課題を検証した。「シリーズ“ジャパン ブランド”第２回“日本式”生活インフラを輸出せよ」（1.12）は，給食や水道システムなど，これまでの製造品（自動車・電化製品など）とは違った“システム”を輸出することで，生き残りを図ろうとする取り組みを取材。日本が持つ潜在能力に迫った。

『うまいッ！』は視聴者層の拡大を目指し，お正月に『あ～幸せ♪うまいッ！ものだらけの新春スペシャル』（1.4）を放送。クエや細工麩などおめでたい席に欠かせない食材を取り上げるとともに，かつお節製造の海外進出など，日本の食材が海外で注目を集めている現状をリポートした。

『マサカメTV』も番組の認知度を高め，通常とは違う年齢層の視聴者を取り込もうと，「年末年始４日間限定スペシャル」（12.30）を放送した。

Ⅲ．科学・環境番組

科学・環境番組部は，総合テレビ・Eテレ・BSプレミアムで13本の定時番組と数多くの特集番組を制作。「科学報道」「科学ロマン」「生活科学」を３本柱として，先端技術，医学，宇宙，自然，健康，食品などの最新情報を科学的な視点で分かりやすく伝えた。特に，東日本大震災関連では，地震，津波や原発事故に隠された事実について，科学番組でしかなしえない手法でメカニズムを解き明かし，リスクに強い社会の構築に貢献した。また，ダイオウイカの姿をスクープするなどした深海シリーズの番組が，「放送文化基金賞」「新聞協会賞」「菊池寛賞」など数々の受賞を果たし，NHKの高い制作力と技術力が社会的に高い評価を受けた。

（１）定時番組

『ためしてガッテン』は放送開始19年目，視聴者の役に立つ生活科学番組として揺らぎは無い。『ダーウィンが来た！生きもの新伝説』と『コズミック フロント』は，圧倒的なスケールと美しい映像をさらにブラッシュアップ。Eテレの『サイエンスZERO』は，ロケットから細胞まで科学テーマを分かりやすくかつ深く掘り下げて伝えた。

①総合テレビ

『ためしてガッテン』では，「30代で骨粗しょう症」「ホクロ」「二重あご&ボタン」「女性の薄毛」など，女性が気になるテーマを紹介。「新型認知症の見分け方と対策」「胃がん予防の切り札」「痛風予備軍」など，最新の医学情報も分かりやすく伝えた。「炭酸パワー都市伝説の解明」「世界の健康ワザ直輸入」といった新しい企画にも挑戦した。

『ダーウィンが来た！生きもの新伝説』では，広く世界の動物を追い求め，「モンゴルの野生馬」「オーストラリアのキノボリカンガルー」「ライオンVSバッファロー」など，自然のドラマを粘り強く追跡して映像化した。「イルカ」「ペンギン」「ホタルイカ」など名前はよく知っている生きものの意外な素顔に迫った回が特に人気を博した。

また，科学的な視点から『クローズアップ現代』12本を制作した。福島原発のいまだに続く悲惨な現状を，あふれ出した汚染水などの問題を通して検証した。また「緊急報告・台風26号」や「巨大竜巻の脅威」といった緊急報道も積極的に行った。

②Eテレ

日本唯一のウイークリー本格科学番組『サイエンスZERO』では，騒動の渦中に「STAP細胞」論文の意味を科学的切り口に絞り込んで探ったほか，「3Dプリンター」「人工知能」「新型ロケットイプシロン」など医学・工学から宇宙まで話題性の高い科学ニュースを，専門家も納得し，かつ科学の道を志す若者にも分かりやすく届けるべく工夫に努めた。

③BSプレミアム

『コズミック フロント』では，世界最先端の宇宙の研究をダイナミックなCGを織り交ぜて映像化。「太陽の兄弟星を探せ！」「オリオン大星雲へ」など本格宇宙番組としての神髄を発揮したほか，「天文将軍 徳川吉宗」「世界最古の天文盤！？」ではドラマシーンも取り入れて，新機軸の番組とした。

（２）特集番組

13年度の特集番組では，『NHKスペシャル』を18番組制作したほか，BSPの『ザ・プレミアム』にも取り組んだ。また，各国・各地の映像祭で科学特集番組の受賞が続いた。

『NHKスペシャル』では，社会現象となったダイオウイカを中心に深海に住む巨大なサメの知られざる生態を追い，「深海の巨大生物」シリー

ズを制作した。番組はアメリカ・イギリス・フランス・ドイツなどで放送，驚きをもって世界に受け止められた。このほかにも，宇宙や自然に関する科学ロマンを映像美とともに追求する番組として，路傍に咲く植物の驚くべき生存戦略を描いた「足元の小宇宙」，道半ばで砕け散ったアイソンすい星が知らしめた神秘に世界初・宇宙からの４Kカメラ生中継で取り組んだ「宇宙生中継　彗星（すいせい）爆発　太陽系の謎」などを放送した。さらに，東日本大震災以来制作を続けている，地震や原発事故を検証するシリーズも新作を送り出した。「MEGAQUAKE」は第３シリーズとなり，遠く大阪のビルまで揺れた長周期地震動の現象をつまびらかにするとともに，関東大震災の埋もれていた映像を掘り出し，いつ発生しても不思議ではない首都直下地震への警告を発した。「メルトダウン」はFile.4となり，放射能大量放出の真相に迫った。このほかにも，「汚染水」「“災害ヘリ”映像は語る」と題した災害関連のNHKスペシャルを制作，科学ジャーナリズムとしての真骨頂を発揮し，災害に強い社会を作る公共放送の使命を果たした。

ロボットコンテスト関連では，８月にベトナム・ダナンで開催されたABUアジア・太平洋ロボコンを９月に放送した。また，26回目を迎えた高専ロボコンは11月に両国・国技館で全国大会が開催され，12月に放送した。12年度から取り組んでいる，番組進行と連動して，PCやスマホに情報を自動配信していくセカンドスクリーンのサービスも，さらにブラッシュアップし，来たるべきハイブリットキャスト時代に備えた。

また，BSPの特集『ザ・プレミアム』では，12年度の「フローズンプラネット」に続き，ナビゲーターに俳優の大沢たかおを起用した「神秘の北極圏」を制作したほか，オーストラリアの海で月の引力がもたらす生命の大イベントを追った「月の魔法が命をよぶ　グレートバリアリーフ大産卵」，また，幽霊や超能力といった謎の現象に，科学の視点から迫った「超常現象」も世に問うた。

教育番組

Ⅰ．青少年・教育番組

青少年・教育番組部は，幼児から青少年までの若い世代に向けて，楽しみながら豊かな情操を育むことのできる教育番組や学校放送番組，ファミリー向け番組を制作した。

いずれのジャンルでもテレビ・パソコン・モバイルを連動させた番組開発に積極的に取り組み，本格的な多メディア時代にふさわしいサービスを提供している。

（１）幼児向け番組

13年度は，Eテレの『ノージーのひらめき工房』『すすめ！キッチン戦隊クックルン』，BSPの『おとうさんといっしょ』『ワラッチャオ！』が新番組としてスタート。幼児向け番組の一層の充実と新たな視聴層の獲得に努めた。特に『ノージーのひらめき工房』は子どもの発想を生かす新しい幼児向け工作番組として，幼稚園・保育所や保護者から好評を得ている。

（２）こども番組

小学生を対象とした番組『ビットワールド』『大！天才てれびくん』では，12年度に続きデータ放送やPCを利用した視聴者参加型のゲーム企画を積極的に展開し，新しい双方向スタイルの番組を提示した。『ビットワールド』ではマルチ編成を取り入れ，出演者と視聴者が手分けをして謎の解明に挑む企画を放送。参加者は10万人を突破した。また，『大！天才てれびくん』でも毎回７～８万人の視聴者が番組に参加した。ハイブリッドキャストへの展開も視野に入れ，現代の子どもたちのメディア環境にマッチしたエンターテインメントを提供している。

（３）若者番組

13年度は，高校生とその親世代を主な対象とする番組『Rの法則』のさらなる浸透・定着を目指した。動画サイトやファッションイベントなどとのコラボ企画や，女子高校生を活用した新たなマーケティング手法の開発などの取り組みを行い，番組会員数は６万人を突破した。また，『あしたをつかめ～しごともくらしも』を新たにスタート。若い社会人たちの“仕事”に加えてプライベートライフを紹介し，彼らの生き方の選択を伝えた。

（４）ファミリー向け番組

家族に向けたニュース解説番組『週刊　ニュース深読み』は番組開始から４年目を迎えて定着。世の中の旬の関心事を分かりやすく深く読み解いている。

（５）特集番組

８月には，家族で楽しめる番組として，子どもの疑問に分かりやすく答え，子どもに評価してもらう番組『ギャクテン教室』を総合テレビで放送し，素朴な疑問に潜む意外な事実や発見を伝えた。

８月と大みそかには，『しあわせニュース2013』を総合テレビで生放送し，全国各局から寄せられた心温まる話題をお茶の間に届けた。

12月には企業の訓練を実況形式で伝える新しいバラエティー『くんれん～あなたの知らない危機管理の世界』を放送，その道のプロたちの地道な取り組みを楽しく伝えた。

このほかにも，『大！天才てれびくん』『Rの法則』『グレーテルのかまど』などが放送時間を拡大するなどして特集番組を制作，定時番組をさらにパワーアップし番組ファンに届けた。

Ⅱ．学校教育番組

13年度は，学校へのデジタルテレビや電子黒板の導入，校内LANの整備がさらに進んだ。急速に進む教室のICT化に対応するため，NHKデジタル教材をさらに充実させた。学校教育番組の中からは40番組を，またクリップは理科や社会分野を中心に約4,000本をインターネット経由で提供している。また，電子黒板に対応した新たなウェブ教材の開発も行った。

（１）定時番組

学校教育番組として41番組（小学校向けテレビ32，中学校･高等学校向けテレビ９）を放送した。

新番組としては，小学校１～２年生向けの道徳番組『銀河銭湯パンタくん』，小学校３～６年生向けの国語・総合的な学習の時間に対応した『お伝（つた）と伝（でん）じろう』，小学校４～６年生向けの算数番組『さんすう刑事ゼロ』，小学生・中学生・高校生に向けた理科番組『考えるカラス～科学の考え方』，小学校や中学校の総合的な学習の時間や特別活動に対応した『いじめをノックアウト』や『学ぼうBOSAI（防災）』，特別支援教育向けの『ストレッチマンＶ（ファイブ）』を放送した。

また，過去の学校放送番組をアンコール放送する『学校放送ライブラリー』を継続した。

さらに幼保・小学校低学年向け国語番組『おはなしのくに』を独立型ハイブリッドキャストコンテンツとして展開した。

（２）特集番組

NHK全国学校音楽コンクール関連として，『発表！Nコン2013課題曲』『Nコンマガジン～スーパー合唱教室』『いっしょに歌おう～嵐の“オトダマくん”みんなのふるさとへ』『友～旅立ちの時～ゆずから中学生へのメッセージ』等を放送し，10月に行われる全国大会に向けて多面的な展開を図った。また，「NHK杯全国放送コンテスト」関連として，『ティーンズビデオ』『ティーンズラジオ』で優秀な作品を紹介した。さらに，14年度に向けて小学校低学年向けの国語・算数番組，教育現場から要望の多かった図工・体育番組の開発にも取り組んだ。

また，『いじめをノックアウト』を核にNHK全体でいじめの問題を考えるキャンペーンを展開。『NHKスペシャル　僕はなぜ止められなかったのか？～いじめ自殺・元同級生の告白』などの関連番組を放送したほか，９月と12月に『いじめをノックアウトスペシャル』を放送。視聴者から「行動宣言」を募集し，３月までに16万7,000件が寄せられた。

さらに，公開収録の『学ぼうBOSAIスペシャル～親子でチャレンジ！地震から命を守ろう』『銀河銭湯パンタくんスペシャル～がんこちゃんとタイムトラベル！？』『なわとびかっとび王選手権2013』など，多数の特集番組を放送した。

（３）教育イベント関連

①「第64回放送教育研究会全国大会」（10月25～26日）は，北海道旭川市で開かれた。ネット社会におけるヒューマンコミュニケーションの在り方などをテーマに，学校現場でどう番組を視聴・活用していくかについて，活発な議論が展開された。

②「第80回NHK全国学校音楽コンクール」には，小・中・高合わせて2,611校が参加。19年ぶりに2,600校を超え，約10万人が参加した。NHKホールで行われた「全国コンクール」（10月12～14日）では，小学校，中学校，高校の部を生放送した。

③「第60回NHK杯全国高校放送コンテスト」には地方予選を含め，全部門合わせて1,662校が参加した。

④「第30回NHK杯全国中学校放送コンテスト」には地方予選を含め，全部門合わせて649校が参加した。

⑤「先生のためのデジタルテレビ・ICT活用講座」は全国10か所で実施し，学校放送と，それに連動したデジタル教材の具体的な活用方法を学ぶ体験型の研究交流講座が開催された。その他，専門の担当者が学校現場などで，デジタル教材の活用法を紹介する「NHK for School リエゾン」という活動を開始，およそ30か所で研修等を行った。

（４）学校教育関連委員会

①教育放送企画検討会議

（年２回／６月，12月）

各ブロックからの意見を集約し，具体的な番組

計画を立案した上で，学識経験者，全国放送教育研究会連盟役員，教員，教育行政関係者と，13年度の学校放送の制作方針および学校放送の将来の在り方について検討を行った。

②学校放送番組委員会

各番組の企画・制作にあたって，学識経験者，教員，教育行政関係者などと意見交換を行い，利用現場の意向や要望を反映させた。

Ⅲ．趣味・実用番組

（１）定時番組

定番ジャンルである料理については，長年多くのファンからの支持を受けている『きょうの料理』，主に初心者に向けて料理の基本を分かりやすく伝える『きょうの料理ビギナーズ』を月～木曜の午後９時台に放送した。

同じく固定ファンに支えられている園芸については，野菜作りの楽しさを伝える『趣味の園芸やさいの時間』，園芸初心者向けのミニ番組『趣味の園芸ビギナーズ』，本格的な園芸ファンのニーズにも応える『趣味の園芸』の３番組を，日曜朝８時台に放送した。

主に女性をターゲットにした番組としては，手芸など手作りの楽しさを伝える『すてきにハンドメイド』を木曜夜９時台に放送。

趣味のジャンルを扱う『趣味Do楽』は月～水曜夜９時台に放送，今年はエンターテインメント番組部が「野菜」をテーマに新機軸の演出を打ち出したシリーズが大きな反響を呼び，ファン層を広げた。

月～木曜の夜間には，暮らしに役立つさまざまなノウハウをコンパクトに伝える５分ミニ番組『まる得マガジン』を放送した。

若者に身近な事象を経済学でわかりやすく読み解いていく『オイコノミア』は，２年目を迎え，存在感のある番組として定着した。

同じく２年目を迎えた『団塊スタイル』は，テーマの幅を広げ，団塊世代の視聴者からの支持を集めている。

（２）特集番組

実用番組では，毎年恒例となっている『きょうの料理クッキングコンテスト2013』を11月に放送。また，人気を呼んだ料理研究家の栗原はるみのお弁当シリーズを一本化して特集番組を制作したほか，多くの根強いファンがいる小林カツ代さんが亡くなった際には，豊富なアーカイブ映像を活用して追悼番組を放送した。

また，小中学生向けにかわいいアクセサリーや雑貨を簡単に手作りする楽しさを伝える『ガールズクラフト』を開発，14年度からの定時化につなげた。

Ⅳ．外国語講座番組

（１）定時番組

Eテレでは16番組，ラジオ第２放送では27番組の合計43の定時番組を制作・放送した。

①Eテレ

11年度から実施してきた“英語グランドデザイン”が３年目を迎え，CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）に基づくレベル分けのA0～C1までの各レベルで番組を配置し，初級～中上級，および学び直しをしたい層の需要にも応えるラインナップとなった。12年に好評を博した大人向け初級講座『おとなの基礎英語』の手法をビジネス英語にも展開し，後期制作で『しごとの基礎英語』を放送。英語に苦手意識がありながら仕事で使わざるを得ないビジネスパーソンから好評を博した。『リトル・チャロ』はシリーズ４作目を新作。ニューヨークを舞台に子犬のチャロが活躍する感動的な物語で，５分アニメとアニメを教材とした講座番組を制作した。アメリカのTEDカンファレンスを題材とした『スーパープレゼンテーション』は好評につき，13年度から通年制作となった。また，インターネットのビデオ会議システムを使ってスピーカーと視聴者が討論するイベントも月１回ペースで行い，新たなファン層を開拓した。

他言語では独・仏・中・西・伊・ハングル・露・アラビアの８言語と在日外国人向けの日本語講座の番組を放送。３年半ぶりの新作となった『テレビでロシア語』は観光地としても人気の高いサンクトペテルブルクにてロケを行い，エルミタージュ美術館など貴重な映像を教材として提供した。欧州４言語は13年度も「EURO24」と題し，４か国で同じテーマのインタビューをするなど言葉とともにヨーロッパ文化を楽しむ作りに仕立てた。

②ラジオ第２

ラジオ講座は英語と上記８言語にポルトガル語を加えた10言語の講座番組を制作。新番組『英語で読む村上春樹』は世界中の言葉に翻訳され愛読されている村上作品を原文と英語で読み比べ，新たな魅力を発見するという新たな講座スタイルを生み出した。ラジオ講座の大半は，放送日の翌週１週間，ホームページでストリーミングサービスを行ってきたが，13年度よりホームページに認証

サービスを導入。会員登録・ログインした状態でストリーミングを利用すると，個人ページに視聴履歴が残せる「マイ語学」サービスを開始。20万人にのぼる会員数を集めた。マイ語学ではテレビ番組の視聴履歴も記録することができる。出席簿を励みに継続視聴をしてもらえるよう，サイトデザインの工夫やメールマガジンなどで視聴誘導を図った。

（２）特集番組

ラジオの新番組『英語で読む村上春樹』からのスピンアウトとして，Eテレ『世界が読む村上春樹～境界を越える文学』を制作。フランスや台湾での人気の広がりを取材し，スタジオではラジオ講座講師，沼野充義東京大学教授がナビゲーターを務めた。２年目を迎えた『スーパープレゼンテーション』では２本の特集を制作。TED愛好家の音楽家・坂本龍一とナビゲーター伊藤穰一のトークスペシャル，またTEDに登場した日本人スピーカーのプレゼンと日常の活躍ぶりを取材する特別番組を制作した。後期新作の『しごとの基礎英語』では，さまざまな業種で実際に英語と格闘するビジネスパーソンをスタジオに招く特別編で，定時番組への誘導を図った。年末年始にはラジオで多様な特集番組を放送。2020年の東京五輪決定など，スポーツの話題で沸いた１年を振り返り，『スポーツニュースで英会話』を制作。海外で活躍する現役のスポーツ選手，川島永嗣，川崎宗則らへの英語インタビューなども盛り込んだ。また，14年の冬季オリンピックに向けて『もうすぐソチ五輪～ロシアの冬を1000倍楽しむラジオ』を放送。ロシアのサッカー事情から文化まで，簡単なロシア語ガイダンスも交えて構成し，語学学習への関心を喚起した。

定時番組･特集番組を通じて，学びのきっかけ，学習継続のモチベーションを視聴者に感じてもらえるよう，多様な語学番組を放送した。

Ⅴ．文化・福祉番組

文化・福祉番組部では，教養・生涯学習への多様な要望に応える文化番組，子ども・障害者・高齢者の課題に取り組む福祉番組など，多彩で高品質な番組を制作してきた。

13年度は，従来通りの教養および知的エンターテインメント番組に加えて，発災から３年目に入った東日本大震災に関連した番組をもうひとつの重要な柱として番組の制作に当たった。福祉番組や宗教番組，『ETV特集』などで，東日本大震災や原発事故の深刻な影響や，今も翻弄され苦しむ人々の姿を取材し，放射能被ばくの実態や，その後も続く避難の状況，復興に向けての試行錯誤について，文化・福祉番組部ならではの蓄積や経験を生かした番組を放送した。

一方の知的エンターテインメントは，総合テレビの定時枠で『探検バクモン』『地球イチバン』『仕事ハッケン伝』の３本を，またEテレでは，夜10時台に『SWITCHインタビュー　達人達（たち)』，夜11時台に『先人たちの底力　知恵泉（ちえいず)』『100分de名著』などを放送した。

（１）定時番組

総合テレビでは，『探検バクモン』がリニューアル２年目を迎え，爆笑問題とゲストが，視聴者に代わって，普段は入ることができない現場を探検するスタイルを踏襲。４月の京都・太秦の「映画村」「東映京都撮影所」をスタートに，国立公文書館，万博記念公園，高島平団地，国立天文台などさまざまなジャンルの「ディープ」な場所を訪ね，その裏側に切り込んだ。また「多様な“性”のありよう」や「多文化の共生」もテーマに選び，社会の「今」を切り取った。

３年目を迎えた『地球イチバン』は，情報エンターテインメントからロケ映像のみの紀行ドキュメンタリーとして大幅にリニューアル。人生を豊かにする地球でイチバンの旅をコンセプトに，世界最北の猟師や，世界一走り続ける民，世界で最も乾いた大地など，究極の環境で生きる人々を訪ね，食べることの本質，仕事や家族の在り方といった人間の根源的なテーマを掘り下げた。また，世界一大きなお金を使う島や，第３の性が輝く街など，現代人の価値観を揺さぶるテーマにも挑戦。さらに世界一新しい国・南スーダンでは，紛争を乗り越え，国づくりの難題に挑む若き女性の姿を描くなど，全19本の放送回で世界の今を生々しく伝え，多様なメッセージを届けた。

同じく３年目となった『仕事ハッケン伝』は，有名タレントが就いてみたかった仕事の現場で真剣に働く姿をドキュメントするスタイルを継承。１週間程度ではあるが，お客様扱いなしの厳しい条件下での職業体験を通じて，働くことの意味やチームワークの大切さ，そしてそれぞれの企業の社会とのつながりを掘り下げることを目指した。「バスツアー企画」を再開第１回に，「ウエディングプランナー」「イルカトレーナー」「市役所職員」「文具開発」「京都老舗料亭」など，さまざまな職種を取り上げた。反響は，就職活動を控えた学生や，社会に出て間もない20代からのものが目

立ち，視聴者層拡大の期待に応える形となった。

Eテレの『ETV特集』では，日本社会の課題を弱者の立場から凝視するとともに，歴史的・文化的な視点をベースにしたバラエティー豊かな番組編成を目指した。前者では，視聴者から高い評価を得た「ネットワークでつくる放射能汚染地図」の「福島原発事故から３年」を制作して報告，さらに「“原発のリスク”を問い直す～米・原子力規制元トップ　福島への旅」などを放送した。また，忘れてはならない重い課題を掘り起こした「毒と命～カネミ油症　母と子の記録」「三池を抱きしめる女たち～戦後最大の炭鉱事故から50年」などを制作。戦争の傷痕を見つめた「戦傷病者の長い戦後」「戦時徴用船～知られざる民間商船の悲劇」，さらに文化教養の視点から「左手のピアニスト～もうひとつのピアノ・レッスン」「よみがえる色彩～激動の20世紀 アーカイブ映像の可能性」など，多彩な番組を放送した。

82年から続く『こころの時代』でも，東日本大震災をきっかけに問い直される人生の意味や，人々が直面する困難を乗り越える術を，宗教関係者だけでなく多様な分野で活躍されている人々との長時間インタビューを通して掘り下げた。また，13年度の半期シリーズとして，「道をひらく～内村鑑三のことば」を放送した。

また，新番組として夜10時台の『SWITCHインタビュー　達人達（たち）』，夜11時台の『先人たちの底力　知恵泉（ちえいず）』をスタート。同じく夜11時台の『100分de名著』は３年目を迎えた。

新番組『SWITCHインタビュー　達人達(たち)』では，各界の第一線で活躍する“達人”どうしが互いの現場を訪ね合い，仕事の極意や人生哲学を発見し合うトーク・ドキュメントを展開。「カルロス・ゴーン×宇宙飛行士・山崎直子」「瀬戸内寂聴×EXILE ATSUSHI」「野村萬斎×市川猿之助」等々，異色の顔合わせを実現させていった。

同じく新番組『先人たちの底力　知恵泉（ちえいず)』は，歴史上の人物の知恵を，現代の第一線で活躍するプロフェッショナル＝「仕事人」が読み解いていくという異色の歴史番組として開発された。先人たちが課題や困難を克服するときに発揮した知恵は，現代社会でも通用するのではないかという視点のもと，歴史と現代の知恵の融合や共通項の抽出を試みた。40～60代を主な視聴者層と位置づけ，歴史番組にビジネス的な視点を取り入れることで，これまでの歴史ファンとは違う新たな視聴者層を開拓した。

３年目の『100分de名著』では，読みたいと思いながらも踏み出せなかったり，途中で挫折してしまった古今東西の名著を分かりやすく解説することをコンセプトに，夏目漱石の『こころ』やドストエフスキーの『罪と罰』などの文学作品を読み解く一方，『風姿花伝』『孫子』などさまざまな分野の名著にも光を当てた。

福祉のジャンルでは，２年目に入った『ハートネットTV』をリニューアルし，さまざまなシリーズを組み合わせて，福祉の課題や当事者の思いを多角的に伝えるように努力した。月ごとに，特集テーマを掲げ，発達障害，虐待，性的マイノリティー，認知症，がん，介護，被災地など多様なテーマを３回シリーズで深掘りし，月末に視聴者の声を元に反響編を制作。ウェブ連動の新たなスタイルを確立することを目標に，ウェブに寄せられた声をもとに取材するスタイルに挑んだ。

『ハートをつなごう』を継承するシリーズ「Our Voices」では，生きづらさを抱えた当事者にとことん語り合ってもらうことを目指し，「LGBT」や「被災地からの手紙」「心の病」などについて，当事者や経験者の視点から掘り下げた。

“社会を変える”ことを目標に活動しているNPOや社会企業家の取り組みを紹介するシリーズ「未来へのアクション」では，大学のキャンパス内で収録を行い，会場の若者たちとの活発なやり取りを目標のひとつに掲げた。理想と情熱にあふれる先駆者たちの取り組みや考え方が，これから社会に出る若者たちに大きな刺激を与えた。

そしてシリーズ「福マガ」では，その月の福祉関連のニュースをまとめるとともに，話題のテーマを分かりやすく切り込むスタイルを目指した。

また，継続して，「ハート展」や「介護百人一首」「リハビリ・介護を生きる」「公開すこやか長寿」の放送も行い，フリー枠では個性的なドキュメンタリーの制作も続けた。

一方，これまで継続的に行ってきているホームページ「NHK福祉ポータルサイト　ハートネット」も大幅なリニューアルを行い，掲示板やツイッターを通じての視聴者どうしの議論がこれまで以上に活発に行われた。

『オトナへのトビラTV』では，若者のさまざまな悩みにスポットを当て，就職やアルバイトなど社会との向き合い方から，恋愛に関する悩みまでを，カジュアルなスタジオ演出を織り交ぜて伝え，大きな反響を生み出した。

ほかに，『みんなの手話』『ろうを生きる　難聴を生きる』『楽ラクワンポイント介護』『ワンポイ

ント手話』，また，ラジオでは『聞いて聞かせて』『社会福祉セミナー』などの番組で，さまざまな障害のある人に対しての情報提供を行った。

さらに，美術のジャンルでは『日曜美術館』『美の壺』，歴史ジャンルでは『BS歴史館』，紀行ジャンルでは『世界ふれあい街歩き』を放送。それぞれファン層を広げ，高い評価を得た。

（２）特集番組

特集番組では，『NHKスペシャル』で，「知られざる脱出劇～北朝鮮･引き揚げの真実」（８月），「東日本大震災　逆境からの再出発～高齢者を支える医師たちの挑戦」（10月），「至高のバイオリン　ストラディヴァリウスの謎」（11月），「日米開戦への道　知られざる国際情報戦」（12月），「避難者13万人の選択～福島 原発事故から３年」（３月）を制作。

東日本大震災の被災地を応援する『明日へ～支えあおう」では，「放射能汚染からの農業再生～福島・南相馬市」（９月）を制作。

その他，総合テレビで『好きだモノ。。。』『モノゴコロ』『おやすみ日本　眠いいね！』『大航海ごはん』，Eテレで『テクネ　映像の教室』『びじゅチューン！』，BSプレミアムで『ザ・プレミアム～よみがえる江戸城』『京都迎賓館～極める！京都の技とおもてなし』『京都･南禅寺界隈（わい）別荘群』などの斬新な特集番組を制作し，テレビの新たな可能性を模索した。

また，１月には毎年恒例の『歌会始』の中継も行った。

芸能番組

Ⅰ．ドラマ番組

13年度のドラマ番組は，テレビ放送60年を迎え，より多様なテレビドラマの制作に取り組んだ。連続ドラマ，単発・シリーズドラマそれぞれにターゲットを明確にし，おのおのの特長を生かしてクオリティーの高いドラマ番組の制作を目指した。連続ドラマでは『大河ドラマ』「八重の桜」，『連続テレビ小説』「あまちゃん」「ごちそうさん」がいずれも好評を博したほか，『ドラマ10』は女性層を中心に話題を呼び，『土曜ドラマ』や『BS時代劇』『プレミアムドラマ』『プレミアムよるドラマ』など，視聴者層の拡大に尽力した。

（１）連続ドラマ

①『大河ドラマ』

63年「花の生涯」から始まった『大河ドラマ』も，13年の「八重の桜」で第52作目となり，日曜夜８時の時代劇として視聴者に定着している。

「八重の桜」は，作・山本むつみ，主演・綾瀬はるか。“幕末のジャンヌ・ダルク”と呼ばれ，会津・鶴ヶ城から銃を手に新政府軍に奮戦した山本八重。維新後はアメリカ帰りの新島襄の妻となり，「ならぬことはならぬ」という会津武士道で，自分の可能性に挑み続けた愛と希望の物語（全50回）。

②『連続テレビ小説』

「朝ドラ」として定着し，13年度前期の「あまちゃん」で88作目。作・宮藤官九郎，主演・能年玲奈。東北・北三陸にやって来たヒロインは北限の海女さんを目指す。挫折・奮闘ののち地元アイドルとして東京に出て芸能界で活躍するが，東北の復興のため再び北三陸へ。小さな町の愉快な人々の悲喜こもごもを描いた（全156回）。

後期･89作目は大阪局制作「ごちそうさん」。作･森下佳子，主演・杏。どんな困難にぶち当たってもごはんを食べていれば何とかなる！　大正時代に東京から大阪へ嫁いだヒロインのたくましい生き方を数々の料理を通じて描いた（全150回）。

③『木曜時代劇』

木曜午後８時，前期はBS時代劇の再放送，後期からは新作を放送した。“八百屋お七”の悲恋を新解釈でドラマ化した「あさきゆめみし」（10回），21世紀版鼠小僧の「鼠（ねずみ）、江戸を疾（はし）る」（９回）を放送し，若年層の時代劇視聴の誘導を目指した。

（２）単発・シリーズドラマ・オーディオドラマ

『土曜ドラマ』は，「ご縁ハンター」（３回），「島の先生」（６回），「七つの会議」（４回），「夫婦善哉」（４回），「実験刑事トトリ２」（６回），「太陽の罠（わな）」（４回），「足尾から来た女」（２回）など社会派ドラマを放送し，男性層を中心とした視聴者から好評を得た。

また，火曜午後10時の『ドラマ10』では，「第二楽章」（９回），「激流～私を憶えていますか？」（８回），「ガラスの家」（９回），「紙の月」（５回）を放送，30～50代女性に向けた枠として定着した。

BSプレミアムの日曜午後10時『プレミアムドラマ』では，「小暮写眞館」（４回），「真夜中のパン屋さん」（８回），「かすていら」（５回），「ハードナッツ！」（８回），「花咲くあした」（８回），「その日のまえに」（２回）を放送した。『プレミアムよるドラマ』は前期は土曜午後11時15分から，「ラスト･ディナー」（８回，うち４回は12年度），「天使はモップを持って」（４回），「お父さんは二度

死ぬ」（４回），「ダブルトーン」（６回），「POWER GAME」（８回），後期は火曜午後11時15分に移行し，「黒猫，ときどき花屋」（８回），「おふこうさん」（８回），「今夜は心だけ抱いて」（８回，うち４回は14年度）を放送した。

金曜午後８時の『BS時代劇』では，「妻は、くノ一」（８回），「酔いどれ小籐次」（13回），名作時代劇をリメイクした「雲霧仁左衛門」（６回）を放送し，時代劇ファンの期待に応えた。

特集ドラマでは，音コン80周年記念ドラマ『はじまりの歌』，『天使とジャンプ』（２回），初の４K制作の正月時代劇『桜ほうさら』，『かつお』，創作テレビドラマ大賞の大賞受賞作『希望の花』，震災を描いた『生きたい　たすけたい』，『東京が戦場になった日』，『あなたに似た誰か』（３回），『下町ボブスレー』（３回），『死刑台の72時間』（２回），スペシャル時代劇『大岡越前』（９回）などの意欲的なドラマを制作。

オーディオドラマは定時番組『FMシアター』『青春アドベンチャー』『新日曜名作座』のほか，『特集オーディオドラマ』を放送した。また，良質の舞台演劇を中継する番組『プレミアムステージ』では演劇ファンの要望に応えた。

Ⅱ．エンターテインメント番組

エンターテインメント番組部では，幅広い層の視聴者に親しんでいただける質の高い娯楽番組を制作した。13年度は，定時番組のブラッシュアップを図るとともに，14年度以降を見据えた新番組開発にも積極的に取り組んだ。

（１）公開・派遣番組

視聴者とNHKを結びつける役割を担う公開・派遣番組の制作は，当部の業務の中核をなしている。

13年度は，『NHKのど自慢』（年間46回），『NHK歌謡コンサート』（２回を地方派遣），『ごきげん歌謡笑劇団』（12回），『オンバト+』（８回），『BS日本のうた』（34回），『ザ少年倶楽部』（２回を大阪派遣），『真打ち競演』（14回），『キャンパス寄席』（５回）のほか，チャリティーイベント『歌謡チャリティーコンサート』（２回）などを制作。さらには，新規の公開派遣番組として２組の出演者の音楽コラボレーションをステージに再現する『オンガクジェネレーション』，若年層に向けてライブハウスで公開収録した音楽番組『NiPPoN RockS』，派遣歌謡番組『出張！ふるさとソングショー』を制作するなど，数多くの公開・派遣番組を制作した。

（２）定時番組

13年度は，新たに『LIEF！』『双方向クイズ天下統一』『伝えてピカッチ』『亀田音楽専門学校』『Eダンスアカデミー』『THE ALFEE　終わらない夢』『MINMIのレディオMAMA』などの番組を立ち上げた。従来からの定時番組も合わせ，音楽，バラエティー，演芸，知的エンターテインメント，ラジオ番組など，多様な番組を提供した。

音楽番組はNHKホールから生放送でお送りする『NHK歌謡コンサート』をはじめ，『NHKのど自慢』『SONGS』『MUSIC JAPAN』『BS日本のうた』『ザ少年倶楽部』など，幅広い世代の視聴者に合わせて制作。バラエティー番組は，コント番組『LIFE！』を新たに立ち上げ，『ごきげん歌謡笑劇団』はラジオとの連動，『鶴瓶の家族に乾杯』ではより多様で“旬”なゲスト出演者を心がけ視聴者層のさらなる拡大を図った。演芸番組は『○○○○の演芸図鑑』『オンバト+』『日本の話芸』『真打ち競演』『キャンパス寄席』など，多彩なラインナップで，ベテラン演芸ファンから若年層まで幅広い層のニーズに応えた。また，知的エンターテインメント番組として，Eテレで『ミュージック・ポートレイト』『スコラ　坂本龍一音楽の学校』『亀田音楽専門学校』『Eダンスアカデミー』を制作，視聴者の知的好奇心を刺激するエンターテインメントを提供した。ラジオ番組はアイドル，J-POP，洋楽，演歌・歌謡曲といった幅広いジャンルの音楽番組，『日曜喫茶室』『トーキング　ウィズ　松尾堂』や演芸番組などラジオの特性を生かした音楽以外のジャンルの番組などを制作し，多様なラジオリスナーのニーズに応えるとともにNHKへの接触者率の向上を図り，ラジオの存在感を示した。

（３）特集番組

13年度は，定番の大型歌謡イベントや定時番組を発展させた特集番組，視聴者層の拡大を狙った特集番組など，年間でおよそ150本を制作した。

『第64回NHK紅白歌合戦』は，“歌がここにある”というテーマのもと，明るく楽しいという原点に返った内容を目指し，歌を通して明るい希望を抱ける番組とした。出演歌手の圧倒的なパフォーマンス，国内外からの中継，充実した企画コーナーなどに対し，視聴者から大きな反響が寄せられ，ここ10年で最高の視聴率を記録した。このほか，大型歌謡イベントとしては，『第45回思い出のメロディー』などを制作した。

衛星放送では，『震災から３年“明日へ”コン

サート』などの大型イベントや，『昭和の歌人たち』『洋楽倶楽部』といったシリーズ番組，AKB48，ももいろクローバーZ，Perfume，薬師丸ひろ子，JUJU，いきものがかり，中島みゆきといった話題のアーティストの特集番組，『クイズ面白ゼミナール　R（リターンズ）』『番組バカリズム』といったバラエティー番組など，衛星放送ならではの多彩なコンテンツを数多く制作した。

また，開発番組として『お笑い頂上決戦　１・３・５！』といったお笑い番組や音楽番組『オトナノウタ』，深夜のバラエティー番組『なりきりバンド選手権！』などを制作・放送，14年度以降のエンターテインメントのジャンルで番組化を目指していく。

Ⅲ．音楽・伝統芸能番組

音楽･伝統芸能番組部では，クラシック音楽，日本の伝統芸能，民謡，ポップスなど幅広いジャンルで，視聴者の期待に応える良質な番組コンテンツを制作し，公共放送として日本の放送文化における重要な役割を担った。

（１）テレビ定時番組

『にっぽんの芸能』は，これまでの初心者向けと愛好家向けの２階建て構成を一本化。さらに演目以外にコーナーを２つ新設し，より多くの視聴者に見てもらえる内容とした。

また，不定期放送だった『古典芸能への招待』を定時化し，年間10本放送。能狂言・文楽・歌舞伎を２時間じっくり楽しめる内容で視聴者の期待に応えた。

新番組『クラシック音楽館』は，NHK交響楽団の定期演奏会を中心に，一流のクラシックコンサートをノーカットで紹介する本格派の音楽・芸術鑑賞番組としてスタート。クラシック音楽の魅力を存分に伝えた。

新番組『ムジカ・ピッコリーノ』は，「子どもの音楽的感性を刺激する」小学校低学年向け音楽教育番組。毎回クラシック，ポップス，民族音楽などあらゆるジャンルの名曲を取り上げ親子で楽しめるシリーズを展開した。

『ららら♪クラシック』は，初心者向けに大幅に刷新。「どこかで聴いたことのあるクラシックをあなたのものに！」をキャッチフレーズに，多彩な切り口で名曲を掘り下げた。

このほか，『クラシック倶楽部』で，第一線で活躍するアーティストによる室内楽の演奏を放送。『プレミアムシアター』では，世界のクラシック音楽公演を，国際共同制作・独自収録・番組購入など，バラエティー豊かなラインナップで放送した。

（２）公開派遣番組

『民謡魂 ふるさとの唄』を全国９か所で公開収録し，民謡や郷土芸能に，その地域ならではの「ふるさとの魅力」を交えて放送した。

『スクールライブショー』を全国７か所で公開録画。バンド，吹奏楽，ストリートダンスを中心に，一流プロが審査する中高生の真剣バトルをお送りした。

ラジオでは，『民謡をたずねて』13か所，『ベストオブクラシック』４か所，『吹奏楽のひびき』２か所，『リサイタル・ノヴァ』２か所，『ブラボー！オーケストラ』１か所で公開収録を実施した。

（３）ミニ番組

『名曲アルバム』では，世界の名曲を，その曲ゆかりの地の文化や歴史，風土などの映像とともに紹介した。また，東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」のミニ番組として，N響編と吹奏楽編を制作・放送した。

（４）テレビ特集番組

『NHKスペシャル』は，４月に新開場した歌舞伎座にまつわる人々に焦点を当てた「新生　歌舞伎座～檜（ひのき）舞台にかける男たち」（5.5）と，「至高のバイオリン　ストラディヴァリウスの謎」（11.3）の２本を制作。

『ETV特集』は，世阿弥生誕650年の節目に合わせて「スーパー能～650年目の革新」（6.15）を制作した。

元日恒例の『ウィーン・フィル・ニューイヤーコンサート2014』では，ハイビジョン5.1サラウンドの高画質・高音質で，オーストリア・ウィーンからの生中継を行った。

正月２日に恒例となった『こいつぁ春から～初芝居生中継』は，新開場した歌舞伎座で初の大規模生中継となった。

正月３日恒例の『NHKニューイヤーオペラコンサート』は，第57回を迎えた。「花が誘う歌物語」と題し，日本を代表するオペラ歌手たちの歌唱をNHKホールから２時間生放送した。

『第40回NHK古典芸能鑑賞会』は，NHKならではの豪華な顔合わせと，類を見ないバリエーション豊かな演目が見どころ。一夜でさまざまなジャンルの芸能の至芸を紹介した。

そのほか，『冨田勲のイーハトーヴ交響曲』

（5.4），『音楽ドキュメント～涙の書』（6.28）『N響　イン　ザルツブルク』（9.23），『小澤征爾復帰の夏』（9.30），『国宝能舞台で一期一会の舞』（12.22），『クラシック・ハイライト　2013』（12.31）などを制作し，13年の古典芸能・クラシック界の重要なトピックを取り上げて放送した。

（５）FM特集番組

『今日は一日“○○”三昧』は，テーマをひとつのジャンルに絞って１日中たっぷり放送する超長時間特集番組。13年度は，大作曲家ヴェルディの生誕200年に当たることから「ヴェルディ三昧」を放送したほか，「ラ･フォル･ジュルネ」「劇団四季」をテーマに放送した。

毎年秋の恒例となった『NHK音楽祭』は11回目を迎え，“輝くオペラの巨星たち”をテーマに開催された。NHKホールで行われた４つのコンサートを生放送した。

ほかに，『夏！民謡トーク＆ライブ』『ヨーロッパ夏の音楽祭2013』『恋する♪クラシック』『バイロイト音楽祭2013』『第12回東京JAZZ』『年越しラジオマンジャック』などを放送し，クラシックファン，ポップスファンの期待に応えた。

（６）国際共同制作の推進

世界各地の音楽祭やオペラハウスでの公演を，各国の放送局・プロダクションとの共同制作により水準の高いソフトを低コストで効率的に収録し放送した。13年度はミラノ・スカラ座やマリインスキー劇場など世界の一流歌劇場でのオペラ公演，バイロイト音楽祭やバーデンバーデン復活祭音楽祭，グラインドボーン音楽祭などのフェスティバルほか，海外の放送局やプロダクションが制作主体となったプロジェクトのみならず，NHK交響楽団のザルツブルク音楽祭初参加公演やミラノ・スカラ座東京公演のスーパーハイビジョン収録など，NHKが主体となって制作したものも含め，合計12本の国際共同制作を行った。また，海外からの番組購入も積極的に行い，マルチユースすることで大型のクラシックソフトを安価で安定的に入手し，効果的に編成・放送した。

購入番組

１．総合

定時ドラマでは韓国ドラマ『トンイ』（12年度より継続　日，23:00），『シークレット･ガーデン』（12年度より継続，７月まで　水，0:40）を放送した。

特集編成として，『glee（グリー）３』（7.24～1.15　水，0:40）を音楽解説番組『洋楽倶楽部@glee』とセットで放送。

２．Eテレ

定時ドラマでは，『ビクトリアス』（12年度より継続　水，19:25），『アイ・カーリー』（12年度より継続，12月まで　土，18:25）の米国ドラマを放送した。

ドキュメンタリーでは，定時番組『地球ドラマチック』（土，19:00）の中で，「イヌ　その秘められた力」「解明！ネコの不思議」「古代ローマ　コロッセオの秘密」「ビーバー大活躍！よみがえる水辺」などを放送，好評を得た。

アニメでは，シリーズアニメとして『おさるのジョージ』（土，8:35），『ひつじのショーン』（土，9:00），『ミニスキュル』（金，19:48）を放送した。また，特集として『チャンピオン　シープス』（不定期），『劇場版　くまのがっこう～ジャッキーとケイティ』（7.21）を放送。

３．BS1

『BS世界のドキュメンタリー』は海外のプロダクションが制作したドキュメンタリーを放送。毎週１つのテーマを設定している。「いじめ」（６月），「混迷の中東民主化」（７月），「金融破綻その後」（９月），「ケネディの悲劇から50年」（11月），「原子力発電の今」（12月），「オリバー・ストーンが語る　もうひとつのアメリカ史」（４～６月）など。いじめ，ケネディ暗殺，オリバー・ストーンのアメリカ史等に，多くの反響が寄せられた。番組ウェブサイト上で視聴者に投票を呼びかけて「もう一度見たい番組」として，放送をラインナップする取り組みも継続した。

４．BSプレミアム

『プレミアムシネマ』月曜夜９時の映画枠は洋画を編成，「裏窓」（4.15），「ボーン・アイデンティティー」（6.10），「NEXT－ネクスト－」（9.16），「チャーリーズ・エンジェル」（11.4），「ローマの休日」（12.2），「あなたは私の婿になる」（1.27）などを放送した。火曜夜９時は邦画を中心に編成，「奈緒子」（4.23），「うさぎドロップ」（6.4），「男はつらいよ　寅次郎忘れな草」（6.11），「男はつらいよ　噂の寅次郎」（8.20），「どら平太」（9.27），「しあわせのパン」（11.5），「歩いても　歩いても」（12.17），「木更津キャッツアイ　日本シリー

ズ」(12.24),「雨あがる」(2.4) などを放送した。また，３月には「アカデミー受賞作品特集」として「クレイマー、クレイマー」(3.4),「ライフ・イズ･ビューティフル」(3.11),「スラムドッグ＄ミリオネア」(3.17),「英国王のスピーチ」(3.18) などを放送した。

土曜夜間には,「チーム･バチスタの栄光」(4.6),「必死剣　鳥刺し」(5.4),「涙そうそう」(6.1),「明日の記憶」(6.8),「ラスト　サムライ」(9.14),「ナショナル・トレジャー　リンカーン暗殺者の日記」(12.21),「NANA」(2.1),「レオン」(2.22),「トランスポーター」(3.1) などを放送した。このほか，金曜夜間に「最後の忠臣蔵」(12.27) などを放送した。大みそかは「年越し映画マラソン」として「南極物語」,「バック・トゥ・ザ・フューチャー」３部作,「八甲田山」などを集中編成した。

金曜深夜には,「パブリック･エネミーズ」(5.3),「死ぬまでにしたい10のこと」(5.31),「キャスト･アウェイ」(6.14),「ザ・シューター　極大射程」(9.13),「フライド・グリーン・トマト」(10.4),「カティンの森」(12.6) などを放送した。また,「アカデミー受賞作品特集」として「アポロ13」(3.7),「ハート・ロッカー」(3.14),「第86回アカデミー賞授賞式のすべて」(3.21) を編成した。

平日午後の『プレミアムシネマ』(月～金，午後１時) は，曜日別編成を実施した。月曜・邦画枠は「僕らのワンダフルデイズ」(5.6),「居酒屋兆治」(7.15),「東京オリンピック」(12.30),「天のしずく　辰巳芳子“いのちのスープ”」(1.13) など，火曜・西部劇枠は「OK牧場の決斗」(4.2),「ワイアット・アープ」(7.23),「大いなる西部」(11.5),「ワイルドバンチ」(2.11) など，水曜・アクション，サスペンス＆ミステリー枠では「めまい」(4.3),「大脱走」(8.7),「ジョーズ」(11.6),「犬神家の一族」(2.19) などを放送した。木曜・時代劇枠では「集団奉行所破り」(4.11),「宮本武蔵」(6.6),「十三人の刺客」(10.3),「新吾十番勝負　第一部・第二部」(11.14) など，金曜・その他のジャンル枠では「ラルジャン」(4.19),「冬のライオン」(8.2),「シャイン」(9.27),「モリエール　恋こそ喜劇」(2.21) などを放送した。このほか,「ロッキー」シリーズ全６作連続放送 (4.28～5.3)，12月には「オードリー・ヘプバーン特集」として「戦争と平和」(12.2),「昼下りの情事」(12.4),「尼僧物語」(12.5) などを編成した。

また，亡くなった作家・山崎豊子さんをしのび「白い巨塔」(10.7) を放送した。

海外ドラマでは，定時番組として米国ドラマ『デスパレートな妻たち８』(年度前期　木，23:15),『ワンス･アポン･ア･タイム』(年度後期　木，23:15)，韓国ドラマ『太陽を抱く月』(12年度より継続～６月　日，21:00),『馬医』(７月～　日，21:00) を放送した。

また，関連特番として『太陽を抱く月～総集編』(6.23, 21:00),『馬医～放送直前スペシャル』(6.30, 21:00),『魔法の国のミステリー「ワンス・アポン・ア・タイム」の秘密』(9.12，23:15) などを放送した。

『刑事コロンボ～ノーカット・ハイビジョンリマスター版』(12年度より継続　土，15:30ほか随時) や『シャーロック･ホームズの冒険～ハイビジョンリマスター版』(10.6～日，0:30ほか随時) を放送した。

アニメでは，シリーズアニメとして『フランダースの犬』(月，18:30),『トムとジェリー』(火，18:30),『アルプスの少女ハイジ』『あらいぐまラスカル』(水，18:30),『楽しいムーミン一家』(木，18:30) を放送。また，特集として『ムーミン・パペットアニメーション』(不定期),『手塚治虫×石ノ森章太郎～TV作品 初回・最終回大集合！』(7.6～15),『マダガスカル』(12.22),『マダガスカル２』(12.29) などを放送した。

国際共同制作

NHKは80年から，継続的に海外の放送局や制作会社，配給会社と国際共同制作を行っている。事務局は知財展開センター企画推進部に置いている。

国際共同制作は大型番組を制作するうえで今や世界的に常識となっている。この背景には，テレビ番組市場を巡る環境が厳しさを増していることが要因として挙げられる。インターネットとの競合や多チャンネル化で良質なソフトへの需要が高まる中，国際間で制作費を分担して高品質の番組を確保する動きが活発化しているといえる。

13年度に放送した国際共同制作番組は30タイトル，45本であった。

13年12月に放送された『NHKスペシャル』「和食　千年の味のミステリー」は，国内制作会社のプロダクション・エイシアとNHK，フランスの制作会社ポアン・ド・ジュールが共同制作し，フランス・ドイツの芸術・教養チャンネルアルテでも放送される予定。ダイナミックな自然と共生する暮らしの中で和食の「だし」が育まれた歴史が

美しい映像と人々の暮らしの中で力強く語られる。

『ETV特集』「よみがえる色彩　激動の20世紀アーカイブ映像の可能性」では，フランステレビジョンディストリビューションとの共同制作により20世紀初めのパリが色彩再現によって見事に生き生きとよみがえり，ヨーロッパで進む「アーカイブフィルムのカラー化」の背景と意味に迫った。現在，NHKではフランスの制作会社と共同作業で「東京」のアーカイブフィルムを色彩再現するプロジェクトも進んでおり，14年度以降，ドキュメンタリーとして放送される予定である。

その他13年度に放送した主な国際共同制作番組

○ドキュメンタリー

『NHKスペシャル』「深海の巨大生物　謎の海底サメ王国」:ディスカバリー（米）／ZDF（独）／アルテ（仏）／NHKエンタープライズ。国際共同制作シリーズ『スペースシップアースの未来』:プリミティブ・エンターテイメント（加）／SO－NET（日）／NHKエンタープライズ。『BS世界のドキュメンタリー』「“アメリカン･ゲットー”麻薬戦争と差別の連鎖」:シャーロット・ストリート・フィルムズ（英）。

○音楽ほか

『プレミアムシアター』「N響　イン　ザルツブルク＆ザルツブルク音楽祭2013　交響曲　第８番　変ホ長調“一千人の交響曲”」:ユニテル（独）。

放送番組の国際交流

１．番組交換

NHKは，海外の放送事業者との番組交換を，文化交流の促進や放送を充実させる目的で，協力協定や覚書に基づいて積極的に行っている。13年度も，ラジオ番組の提供と受け入れが行われた。

（１）ラジオ番組の提供

「第82回日本音楽コンクール」（全６部門），「2011年度武満徹作曲賞本選演奏会」，ジャズ番組「セッション」（全26本）をEBU正会員および準会員に提供した。18か国21放送機関に対し72件，計80時間36分の音源を提供した。

（２）ラジオ番組の受け入れ

「シュヴェチンゲン音楽祭」「プラハの春音楽祭」「バイロイト音楽祭」「ワルシャワの秋国際現代音楽祭」「ユトレヒト古楽フェスティバル」などの音楽フェスティバルや，優れた演奏家による単発の公演音源などを受け入れた。オペラは「ウィーン国立歌劇場（オーストリア）」「レージョ劇場（イタリア）」の公演をはじめ，「シカゴ･リリックオペラ（米国）」「モラヴィア・シレジア国立劇場（チェコ）」など紹介される機会の少ない歌劇場の音源まで幅広く受け入れを行い，多彩な放送を展開した。25か国41放送機関から132件，計221時間01分の音源を受け入れた。

２．外国放送事業者への取材協力

NHKは，外国放送機関との相互協力の一環として，取材制作協力を積極的に行っている。

協力協定，ニュース取材への協力，海外総支局との関係等を考慮し，依頼に応じて編集・方式変換・衛星伝送や，カメラ，スタジオ，中継車など設備・機材の貸し出し，要員の協力・あっせんを行っている。

13年度の取材協力は，46か国・50放送機関に対して，延べ513件であった。

（１）時事リポート

13年５月31日から６月３日にかけて横鼻で開かれたTICAD・第５回アフリカ開発会議では，参加国の放送機関に会議の映像のほか，日本を紹介するさまざまな映像も提供した。また，12月に東京で開かれた日本ASEAN首脳会議では，共同議長国であるブルネイの公共放送RTBに取材拠点を提供し，RTBは連日，会議のもようや要人インタビューなどを伝送した。

（２）スポーツ

スポーツ関係では，13年11月に東京仙台で開催された「NHK杯国際フィギュアスケート競技大会」に際し，アメリカNBCやカナダCBCなどにホスト映像の配信や伝送を実施。12月に福岡で開かれたフィギュアスケートのグランプリファイナルでも，福岡放送局経由でドイツARDに伝送を行った。

「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール

「日本賞」は1965年の創設から2007年まで，教育番組の国際コンクールとして，世界の教育番組の質の向上および国際理解と協力の増進に貢献してきた。各国の制作者が交流し議論する場や，教育番組に関する最新情報を交換する機会として大きな役割を果たし，その結果，いわゆるメディア先進国ではない国や地域からも多くの参加を得ている。08年の第35回からは名称を“「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール”と改め，募集の対

象を「音と映像を用いた教育コンテンツ」に拡大した。

これは，インターネットをはじめとする情報技術の急速な進展やデジタル放送の開始など，著しい変化を遂げる教育メディアのデジタル化に対応し，コンクールの質を高めることが狙いである。

11年の第38回では，コンテンツ部門に「イノベイティブ・メディア カテゴリー」を新設。既存の対象年齢別カテゴリーの枠に収まらない革新的なメディア活用に挑む作品を顕彰することとした。また，特別賞は「国際交流基金理事長賞」「ユニセフ賞」に加えて，テレビを通じてその国・地域の教育に継続的に貢献する作品に対して「前田賞」を贈ることとした。

13年の第40回コンクールは，「NHK文化祭」の一環として10月17日から24日の８日間，東京・渋谷のNHK放送センターで行われた。応募は57の国と地域の208機関から，コンテンツ部門に299本，企画部門に32本，合計で331本となった。

審査は，日本賞事務局が委嘱した世界10の国と地域の12人の審査委員によって厳正かつ公平に行われた。

12年の第39回からスタートしたIPCEM（イプセム：教育コンテンツ世界制作者会議）も，内容をさらに充実させ，世界のコンテンツ制作者や研究者による最先端情報と意見の交換が精力的に行われた。

最終日を飾る「授賞式」は101スタジオで行われた。審査委員，受賞者，大使館関係者などが出席，NHKの井上二郎アナとモデルの知花くららさんの司会で，活気あふれる雰囲気の中で各賞が授与された。

「グランプリ日本賞」は，イタリアのゼニット映像制作ほか制作のテレビ番組を核としたクロスメディア作品『カルチャーショック』が受賞した。（⇒p.656）

関連番組として，『第40回日本賞授賞式～輝け！教育コンテンツ世界一』（Eテレ，11.2），『2013年日本賞presents　世界のとっておきテレビ』（Eテレ，12.1）でイベントと受賞作品の概要を紹介したほか，『まるごと紹介！2013年日本賞受賞作品』（Eテレ，12.30）と題して各カテゴリーの最優秀作をノーカットの日本語版で放送した。

詳細は，http://www.nhk.or.jp/jp-prize/

NHK文化祭

00年以来「教育番組の祭典」として親しまれてきた「教育フェア」が，10年度からは若者や大人も対象にした多様な教育文化的サービスを体験するイベント「NHK文化祭」に衣がえした。制作者が視聴者の反応や要望に直接触れ，コンテンツの新規開発を促進するイベントを目指している。

（１）「たいけん広場2013」

会館公開イベントの中核「NHK文化祭たいけん広場2013」は，11月２日（土），３日（日），４日（月・振替休日）の３日間行われた。制作および事業，関連会社等現場から企画を募集して実施。屋内・屋外・ふれあいホール・スタジオパークが一体となり，「おどろく，つながる，元気の“わっ”」を合言葉に来場者が一体感や参加感を楽しめるイベントを行った。あいにくの不順な天候にもかかわらず，３日間の総入場者数は５万6,424人を記録した。

前回と同様，英語番組などでおなじみの「チャロ」がイベント全体のキャラクターとして登場し，無邪気な表情やしぐさは，性別・年齢を問わず好評だった。

また，「ふるさとの食にっぽんの食東京フェスティバル」，「おかあさんといっしょファミリーコンサート」（有料チャリティー・イベント），スタジオパーク無料公開，チャロ食堂（５階食堂の一般開放）などのイベントも同時開催した。

（２）「アジアプロデューサー会議」

10月22～27日，NHKほかタイ・マレーシア・ブルネイ・モンゴル・ベトナム・ブータン・カンボジア・インドネシアの９放送局のプロデューサー計12人が集い，第３回「ABUデジスタ・ティーンズ」に向けて各国で開催された作品制作ワークショップの報告や，イベント，番組制作などについて議論した。また，第４回の作品制作のテーマを「HAPPINESS」に決定，同時にアジアの映像教育やメディア教育の在り方などについても語り合った。

関連番組として『第３回ABUデジスタ・ティーンズ』（Eテレ，12.29）を放送した。NHKのほか，RTM（マレーシア）・NBT（タイ）・VTV（ベトナム）・RTB（ブルネイ）・MNB（モンゴル）を通して選ばれた各国代表ティーンズがNHKスタジオに大集結し，「Home」をテーマに制作した映像作品とそのメイキングを紹介。アジア各国からの留学生も参加し，国際交流のもようを楽しく伝えた。

（３）関連番組編成

「日本賞」関連では，授賞式のもようを11月２日に放送したほか，世界の教育コンテンツの魅力

を紹介する番組や日本賞各賞の受賞作を年末年始を中心に特集編成した。

「たいけん広場」関連では，11月２日に『土曜スタジオパーク』（G）と『きょうの料理クッキングコンテスト』（Eテレ）で会場から生中継した。『にほんごであそぼ』（Eテレ）や『カリスmama』『ワラッチャオ！』（BSP）の公開収録をふれあいホールで実施，定時番組の枠内で放送した。さらに『ノージーのひらめき工房』（Eテレ）と『銀河銭湯パンタくん』（Eテレ）では，会場でのイベントの様子を撮影し，その盛り上がりを定時番組の中で紹介した。

放送番組コンクール

Ⅰ．国際コンクール

13年度は，19のコンクールで延べ42の番組等が受賞した。

アジア・テレビ賞では，『NHKスペシャル』「世界初撮影！深海の超巨大イカ」が，単発ドキュメンタリー部門で最優秀賞を受賞した。

韓国EBS国際ドキュメンタリーフェスティバルでは，『BS世界のドキュメンタリー』「失われた町で」がユニセフ賞を受賞した。

アメリカ国際フィルム・ビデオ祭では『NHKスペシャル』「クニ子おばばと不思議の森」が環境，エコロジー部門でゴールド・カメラ賞を受賞した。

日本賞ではNHKクリエイティブ・ライブラリーがイノベイティブメディア カテゴリーの最優秀賞を，『釜石の“奇跡”～子どもたちが語る3.11』が前田賞（特別賞）を受賞した。

このほかシカゴ国際映画祭テレビ賞で『釜石の“奇跡”～子どもたちが語る3.11』が教育番組部門金賞を受賞した。

Ⅱ．国内コンクール

13年度は，37のコンクールで延べ119の番組等が受賞した。

放送文化基金賞では，テレビドキュメンタリー番組部門で，『NHKスペシャル』「メルトダウン 原子炉“冷却”の死角」が最優秀賞にあたる本賞を受賞した。同じくテレビドキュメンタリー番組部門で『NHKスペシャル』「黒い雨～活（い）かされなかった被爆者調査」が優秀賞を受賞した。また，テレビドラマ番組部門では，テレビ60年記念ドラマ『メイドインジャパン』が優秀賞を受賞。さらにテレビエンターテインメント番組部門では『NHKスペシャル』「釜石の“奇跡”～いのちを守る特別授業」が本賞を受賞した。

文化庁芸術祭では，テレビ・ドラマ部門で『特集ドラマ～ラジオ』が大賞を受賞した。ラジオ部門ドラマの部で『FMシアター』「2233歳」が大賞を受賞した。

「地方の時代」映像祭では，『戦後史証言プロジェクト　日本人は何をめざしてきたのか』「第２回水俣～戦後復興から公害へ」が放送局部門で選奨を受賞した。また，『金とく』「模索～原発ができなかった町で」が放送局部門の優秀賞を受賞した。

石橋湛山（たんざん）記念　早稲田ジャーナリズム大賞では『ETV特集』「永山則夫 100時間の告白～封印された精神鑑定の真実」が文化貢献部門の大賞を受賞した。

アナウンス

１．公共放送の顔として多彩な業務を展開

13年度，アナウンサーは，参議院選挙をはじめ，東京都議会議員選挙，都知事選挙の開票速報を担当。台風26号，27号，記録的な積雪となった関東大雪への対応など，正確で迅速な報道を最前線で支え，公共放送の使命達成に取り組んだ。

３年が経過した東日本大震災の関連番組には，全国各局のアナウンサーが関わり，テレビ，ラジオの特番キャスターや定時番組のリポート制作を通じて，被災地の現状を伝えた。

13年度最大のスポーツイベント「ソチ五輪」には，現地と国内を合わせて37人のアナウンサーが関わり，日本人選手の活躍をはじめ，世界トップレベルのアスリートが競い，躍動する姿を感動的に伝えた。

アナウンス室が制作するBSPの大型インタビュー番組『100年インタビュー』（89分）では，狂言師・野村万作，歌手・美輪明宏，京セラ名誉会長の稲盛和夫の３作を放送した。

14年３月現在，アナウンサーは総勢478人。内訳はアナウンス室127人，ラジオセンター・日本語センター・グローバルメディア・地域放送局351人。女性アナウンサーは全国で81人。

（１）報道

〔参議院議員選挙〕

７月の参議院選挙の開票速報は，テレビとラ

ジオを合わせて80人のアナウンサーが担当。大型タッチパネルを駆使した情報提示や，フルバーチャルセットの導入など，演出の高度化に対応し，的確に進行した。事前の選挙勉強会での研さんもコメントに厚みをもたらした。

〔都議会議員選挙・都知事選挙〕

６月の東京都議会議員選挙の開票速報では，報道局選挙プロジェクトとアナウンス室の選挙事務局が連携し，選挙データ，用語，表現について，緊密に情報共有する体制を構築。テレビ15人，ラジオ８人の担当アナウンサーが，常に最新の情報を共有しながら本番に臨み，有権者の関心に応えた。

２月の東京都知事選挙では，主要４候補にアナウンサーを配置。事前取材の蓄積を生かした的確なコメントで，陣営の思惑や手応え，当落の表情を迅速に伝えた。

〔緊急報道〕

９月，埼玉県と千葉県で相次いで竜巻が発生。４人のアナウンサーが現場に急行し，被害の規模や特徴，竜巻を目撃した住民の声など，現場の状況をリポートした。

同月，愛知県豊橋市付近に上陸した台風18号では，都内各所に４系統８人のアナウンサーを配置。30分に１回のペースで，風雨の変化や，交通機関への影響を伝えた。合わせてスマートフォンを使ったIP中継も実施。緊急報道に耐え得る有効なツールであることが分かった。

10月の台風26号，27号では，伊豆大島や八丈島にアナウンサーを派遣するとともに，首都圏の駅地下ホームや移動する車中からIP中継を実施。従来，中継が難しかった場所からも迅速に中継リポートした。

14年２月の関東大雪では，各地にアナウンサーを分厚く配置。南関東の横浜局，千葉局，さいたま局にも応援要員を送った。特に，千葉で観測史上最深の33cm，東京・大手町で27cmなど，記録的な積雪となった８日から９日にかけての大雪では，都内を含め７系統の中継ポイントに，延べ18人のアナウンサーを配置。８日午前７時から９日午前０時過ぎまで，計53回の中継に対応した。

〔ラジオ機能の強化〕

５月，ラジオセンターと合同で災害放送訓練を実施。テレビ映像を実況する役割を新設し，衛星携帯電話を使った中継リポートを試みるなど，音声波の災害放送の新たな可能性を探った。

９月，埼玉県と千葉県で相次いで発生した竜巻は，現場上空に急行したヘリコプターからの中継映像で，初めて被害状況が明らかになった。まだ原稿化されていない被害状況を迅速に伝えるため，ラジオスタジオにテレビを持ち込み，ヘリコプターによる被害現場の中継映像をアナウンサーが即時描写。ラジオの緊急報道における新しい役割として，有効性が確かめられた。

（２）一般番組

13年度は，通常番組のほか，夏と年末年始の特番を含め，900近い番組に対応。番組ごとの視聴者層を意識したうえで，若手，中堅，ベテランの能力と個性を生かす形で起用した。

夏の総合では，戦争と平和を考える番組や，家族で楽しめる番組など，27の特集番組に33人のアナウンサーを配置。『クイズ面白ゼミナール　R（リターンズ）』には，中堅の徳永圭一アナウンサーを起用。

Eテレは，通常番組の特番化など，９番組に10人。BSPは，土曜夜間の大型番組や，テレビ60周年関連番組など，10番組に11人のアナウンサーを配置。それぞれ，波の特性や視聴者層，番組の狙いを踏まえ，中堅や若手の抜てきなど，戦略的な起用を行った。

年末年始の総合は，定時特集も含め41番組，Eテレは22番組，BS1は４番組，BSPは17番組にアナウンサーを配置。能力と適性，育成を考慮しながら，最適な人選を進めた。

『紅白歌合戦』の総合司会には，２年連続で有働由美子アナウンサーを起用。サポート役としてステージ進行に習熟した小田切千アナウンサーを配置。芸能番組での蓄積を生かしたサポートで，的確な司会進行の実現に貢献した。

（３）スポーツ中継

４月のMLB開幕戦シリーズ，PGA，コンフェデ杯にアナウンサーを現地派遣。現場の臨場感を大切にした放送は，視聴者にスポーツ放送の醍醐味を味わってもらう良質なソフトとなった。

９月，2020年の五輪開催地が東京に決定。前夜からの特番対応や中継対応のため，テレビとラジオを合わせて18人のアナウンサーを配置。五輪決定の意義と課題，各地からの表情を長時間にわたって詳報した。テレビのキャスターには，五輪事情に精通した内山俊哉アナウンサーと廣瀬智美アナウンサーを起用。臨機応変な進行で歴史的な決定を伝えた。

10月，全日本ソフトテニス選手権（茨城）では，『ニュースウオッチ９』の廣瀬智美アナウンサーが実況を担当。スポーツ担当の女性アナウンサーの新たな展開に道を開いた。

14年２月，ソチ五輪には，実況要員をはじめ，総勢37人のアナウンサーを現地や東京のスタジオに配置。日本人選手の活躍のみならず，世界トップレベルのアスリートが競い，躍動する姿を，臨場感あふれる実況と魅力的なプレゼンテーションで伝えた。キャスターの柱には経験豊富な工藤三郎アナウンサーを起用。メダルを逃したジャンプの高梨沙羅選手への「よく頑張りましたね」というインタビューには，多くの視聴者から称賛の声が寄せられ，２月のギャラクシー賞月間賞を受賞した。20年の東京五輪を意識して起用した若手の実況アナウンサーは，急な中継業務の追加にも的確に対応するなど，将来を見据えた人材育成が進んでいる。

パラリンピックでは，福祉担当の山田賢治アナウンサーを現地に派遣。開会式中継やキャスターワークに日頃の蓄積が生きた。

２．アナウンス室制作番組

７年目を迎えた『100年インタビュー』は，BSPの特集番組として３本を制作した。狂言師・野村万作（聞き手:渡邊あゆみ)，歌手･美輪明宏（聞き手：石澤典夫)，経営者・稲盛和夫（聞き手：三宅民夫)。また，出演者が亡くなったことに伴う追悼番組として，陶芸家・十四代酒井田柿右衛門，漫画家・やなせたかしの２本を再放送した。

著名人のふるさとで，その原点や転機などについて話を聞く『ホリデーインタビュー』は，旬の作家や漫画家，評論家やタレントなどをゲストに12本を制作した。

総合『お元気ですか　日本列島』のことばコーナー「ことばの宝船」は，13年度から始まった新番組『情報まるごと』の「トクする日本語」にリニューアル。杉原満アナウンサーが“ニュースで使われることば”や“身近だけれど，よく知らないことば”など，暮らしに役立つ日本語を毎週月～水曜に５分サイズで解説した。

“耳で聞く短編小説”として，アナウンサーの朗読で幅広く文学作品の魅力を届けるR1『ラジオ文芸館』は，新作29本，アンコール21本を放送。朗読，スピーチ，敬語などのノウハウを分かりやすく紹介するR2『ことば力アップ』は，新作39本，アンコール13本を放送した。

さらに，発生から３年が経過し，東日本大震災の教訓を風化させないよう，被災地を支援する全国の動きを取り上げた３時間のラジオ特集『東日本大震災から３年～今つなぎたい　全国の絆Ⅱ』は，３月15日，４月５，６日の３日間に分けて，１時間ずつ放送した。被災地の岩手県陸前高田の復興の課題，福島からの県外避難者の現状，移住の決断を迫られる被災者と支える人々，産業や文化の支援や復興を担う若者たちの姿などを，札幌局，函館局，和歌山局，大阪局，神戸局，広島局，高知局，福岡局からのリポートで伝えた。

３．社会貢献への取り組み～お話の会・朗読ひろば

東日本大震災の被災地支援として12年度にスタートした「お話の会」は，14年１月，福島県いわき市の平第二小学校で実施した。古谷敏郎アナウンサーが単身現地に赴き，子どもたちに読み聞かせを行うなど，交流を深めた。

教育貢献活動「NHK朗読ひろば～アナウンサーが広げることばの世界」は７年目に入った。被災地支援の「お話の会」と開催地を仕分け，被災地以外の４都府県にある小学校にアナウンサーが出向いた。スライド映像や効果音，音楽を加えたライブ感あふれる朗読の他，子どもたちが参加するコーナーも設けて，言葉の魅力を多彩に伝えた。

・５月24日　徳島県吉野川市立知恵島小学校
・６月18日　津市津田学園小学校
・10月９日　大阪市立滝川小学校
・11月19日　葛飾区立東柴又小学校

映像デザイン

映像デザイン部は，番組やイベントなどのビジュアルの根幹を担い，クオリティーの高いデザインを制作側に提供することで，より豊かなコンテンツの創造に寄与した。また，さまざまなコンテンツに対応できる幅広いノウハウの蓄積と積極的な提案により，ニュース・緊急報道においても貢献度を高めた。さらに，12～14年度デザインセンター事業計画に基づき，NHKブランド力強化への貢献，業務の高度化への対応，放送資産の活用など，全局的な視点に立った取り組みも展開した。

１．重点事項

（１）地域支援

地域局支援としてのセット改修は，13年度で３回目となり，九州・沖縄地方の４局で実施した。これまで実施した東北地方，中部地方，中国地方での実績を踏襲し，各地域局の個性や特徴を生かし，東京のニュースセンターや各拠点局のニューススタジオとのトータル感を提供することで，視聴者にNHKブランドをより強く意識してもらう

ことを目的とした。

12年度から実施している「おきあがれ！コボシくん」ワークショップ（何度倒れても起き上がる福島県の縁起物「起き上がり小法師」に参加者がオリジナルの絵を描く）は，地域支援，震災復興支援に加え，13年度は全国のアナウンサーがコボシくんの制作を行い会場に展示するとともに，各局の番組PRとして利用する形へのリニューアルを行った。ホームページも新たな形に対応する改修を行い，アナウンサーをはじめ多くの国内外著名人制作の「コボシくん」を随時追加掲載し，内容を厚くするとともに復興の支援を継続する取り組みとした。

（２）コーポレートデザイン

『連続テレビ小説』「あまちゃん」を中心にPRデザインをコーディネートした。また，番組の２次展開としてCD･DVDパッケージ･グッズ･書籍･ウェブ・展示など，番組関連サービスへのデザインを大規模に展開した。

「渋谷deどーも」「NHK文化祭」などのイベントデザインや「ハイブリッドキャスト」「ソチ五輪」などトータルデザインを行い，デザインによる質の向上に寄与した。また，「NHK文化祭」期間中に511スタジオを会場とし，「テレビ放送60周年　NHK＋民放　テレビ美術の世界」と題した展覧会を開催。在京民放５社とNHKの懐かしい番組がテレビ美術を切り口に勢ぞろいし，各社が切磋琢磨して作り続けるテレビの歴史を来場者に伝えた。

「ブランドセミナー」は，NHKブランドの自らの存在価値と意義について考えることを目的として全４回開催し，部局を越えて191人が参加した。同セミナーを通じて，BBCのロンドンオリンピック成功のカギを調査した報告を紹介し，局内で広く共有し見識を深めた。また，局内報「Network」のリニューアルを全面的にサポートし，効果的な情報発信をデザインの一新によってアピールした。

（３）デザインCGコーディネート窓口

10年度に設置したデザインCGコーディネート窓口で，局内外の発注コーディネートやアドバイス，そして局内リソースの１つであるペイントシステムの管理を行った。13年度は震災関連番組のCG制作は減少したが，ソチオリンピック，アイソン彗星関連の番組，ドラマ番組などに対応した。また，NHK内で行われるCG関連業務のコストや品質に関する情報を一元的に集約，蓄積，分析評価する機能を充実させるため，さらに体制を強化し，データ分析の精度も高めた。

（４）共同研究

映像デザイン部と昭和女子大学および平井聖特任教授の三者で08年より「江戸城・本丸御殿」を推進している。復元図面作業では，表･大広間，松之廊下，白書院，黒書院。中奥･御座之間，休息之間。大奥･御鈴廊下，対面所などの主要御殿とその周辺建物群のデジタル図面を作成し，それを基に３次元CG映像を制作。絢爛豪華な障壁画も合わせて作成し，３次元CG画像にマッピングした。これらの映像を活用した番組が制作され，14年１月『よみがえる江戸城』が放送された。番組への反響は大きく，幅広い年代層の視聴者を獲得した。番組放送直後に新発見された大奥古図面を同研究に反映させ，復元図面を修正補完し精度を高めていく。

（５）CS向上活動

NHKネットクラブと共催の，視聴者にスタジオで美術セットや大道具・小道具保管場所等テレビ美術の製作現場を見学してもらう「バックステージツアー」を13年度も２回開催した。また，NHKオンデマンド５周年を記念して，オンデマンド室とも同様の取り組みを行った。

毎年夏に行っている芸術系の大学生を対象とした「NHKデザインセッション」は，13年も各地から参加した多くの学生が渋谷に集結し盛況であった。

逆に，大学などに出向いてNHKやデザイナーの仕事を紹介する「出前授業」は福岡や神戸など東京以外まで範囲を広げ，計４回の開催となった。

２．番組制作における映像デザイン

（１）報道・情報番組

参議院選挙開票速報では，通常のNCスタジオとの違いを強く打ち出すためにモニターとセットを融合させ魅力的に変化を見せるビジュアルを展開した。

東京オリンピック招致に向けた特別番組でも同様にNCスタジオに特設セットを設け，東京招致の決定の瞬間まで視聴者を引き付けるビジュアルを提供した。

ソチ・オリンピックでは，「全力応援！」のキーワードをメインにおいて，オフィシャルデザインに頼らない独自のデザインでトータルな展開を行うことで，オリンピック放送のNHKの存在感を高めた。

（２）教育・文化福祉番組

イギリスの古典を学園ミステリーとしてアレン

ジした三谷幸喜脚本の人形劇『シャーロックホームズ』は，セットの表層部分にデジタルプリントと和紙のテイストを組み合わせて使用し，19世紀のロンドンを複雑で奥行きのある世界観で表現した。14年４月で開始20年目となる看板番組『ためしてガッテン』は３年ぶりにセットを全面更新。これまでの白を基調にしたデザインから，さわやかなパステルカラーとバラエティーらしい電飾を配した色彩豊かなビジュアルへ変更し，楽しさとにぎやかさを分かりやすく表現した。

Eテレ『いじめをノックアウト』は，“いじめ”という解決が難しい問題に取り組む番組で，教室をベースに座談会のようなレイアウトで親しみやすい空間をデザイン。「いじめを考えるキャンペーン」と連動し，行動宣言を全国の中学生に募集。多くの関心を集めた。

（３）ドラマ番組

『連続テレビ小説』「あまちゃん」では，岩手県久慈市の澄んだ空や青い海からの自然のすばらしさと，漁師町ならではのおおらかで活気のある人々の営みを，東京では芸能界やアイドルの周辺で起こるさまざまな非日常感を，現代と80年代の時代感を自在に往来できるデザイン設計のもと，緻密な美術表現を行った。また，劇中に登場したポスターやゆるキャラなど大量のデザインデータを２次利用しCDやDVD，グッズ，書籍，ウェブ，展示など大規模に展開し，熱心な番組ファンの満足度を上げるとともに，効果的な広報展開へと利用した。

『大河ドラマ』「軍師官兵衛」では，戦国時代の躍動感を大規模なオープンセットや，合戦シーンなど正統派の“大河ドラマ美術”を実践した。

『土曜ドラマ』「ご縁ハンター」「島の先生」「七つの会議」「実験刑事トトリ２」「足尾から来た女」「東京が戦場になった日」，『ドラマ10』「第二楽章」「ガラスの家」などは，挑戦的な美術表現に努めた。

『木曜時代劇』「あさきゆめみし」，『BS時代劇』「酔いどれ小籐次」などは，時代劇の継承発展に，『プレミアムドラマ』「かすていら」，ドラマ「1964東京オリンピック」「はじまりの歌」「天使とジャンプ」「希望の花」「生きたい　たすけたい」「下町ボブスレー」など，それぞれのテーマでの美術トライアルを行った。

次世代美術への対応として『正月時代劇』「桜ほうさら」は４K制作での美術表現の開発に取り組んだ。

（４）音楽・芸能番組

年末の『第64回NHK紅白歌合戦』はこれまで培ってきたLED装置による映像演出のノウハウをベースに，王道ともいえる伝統的なステージデザインの暖かみをプラス。「橋」を模した形状で人と場所を「つなぐ」というコンセプトを視覚的に表現し，LIVE＝生放送の魅力を伝える演出に大きく貢献した。

BSプレミアム特集番組『The Covers』は，大人向けの本格的なポップス番組として，小道具や質感を追求したトークセットで本物志向の雰囲気を打ち出し，30～40代の視聴者層にリーチするデザインを目指した。『第57回NHKニューイヤーオペラコンサート』では，花・香りをテーマにステージをデザイン。オペラ本来のトラディショナルな魅力を見つめ直し，華やかかつ鮮やかな色彩の表現に挑んだ。

震災３年を迎え３回目となった『震災から３年“明日へ”コンサート』は復興へ向けた音楽の力とアーティストの個性を発信する力強い空間をデザイン。金属と木のスリットで構成した巨大な半円状のオブジェで複雑な照明効果を得られる構造を設計。また，近年本流だった映像演出を減らし，デジタル表現に頼らないステージ本来の魅力を伝え好評を博した。

また，２年目となったコント番組『LIFE！』は定時化となり，コントセットにもドラマ同様の共通パーツ化を推進し，毎回の新規率を減らすだけでなく，フレキシブルな演出手法にもスピーディーに対応している。

３．デザイン計画

映像デザイン部の総合窓口機能と企画総務機能を持ち，予算管理など部の重要な業務に責任を持つ。映像デザイン部の討議と意思決定の場として計画会を定期的に開催。経営課題への取り組みから，NHKアートとの契約，質の高い番組制作への対応を行った。

美術用品の保管管理や美術セットの倉庫保管と運搬・廃棄の運用も行った。13年度は，『連続テレビ小説』「花子とアン」の収録が，外部の緑山スタジオで行われたため，計画的かつ効率的な倉庫・運搬の運用に努めた。また，西口タンク工事の影響が番組制作に支障の出ないよう適切な予算計画を策定し，現場での安全を第一とする効率運用にも，各関係部署と連携のもと行った。

さらに，今までNHKが膨大に保有してきた共通美術セット・美術用品等の整備更新の長期計画

を策定し予算申請を行った。これにより，一層の効率運用を組織的に行うことが可能となり，また，各番組の質と予算計画の向上に大きく貢献できることになる。

美術用品（建具・小道具・共通大道具など）の台帳デジタル化作業や，デザインデータのデータベース化は引き続き取り組みを続けている。

音響デザイン

音響デザイン部は，放送を音で支える専門家集団として，高い専門知識とスキルで放送サービスを充実させ，NHKが視聴者に約束する経営計画の実現に取り組んできた。13年度もNHKブランド力強化への貢献，独自のライブラリーミュージックの充実，22.2ch超高臨場感立体音響番組の試作など放送デザイン界の先導的役割を担った。

音響デザインを行った番組としては，震災復興のみならず音楽との高度な融合を遂げ社会現象化した『連続テレビ小説』「あまちゃん」，明るく室内楽的な劇伴音楽で魅了した「ごちそうさん」，会津の再生を力強く描いた『大河ドラマ』「八重の桜」，芸術祭大賞を受賞したラジオドラマ『FMシアター』「2233歳」などのドラマ作品に加え，深海のダイオウイカやサメ，３年目の震災報道，歴史的な伊勢と出雲の遷宮など，さまざまな内容の『NHKスペシャル』『クローズアップ現代』があり，楽曲制作を含めてトータルな設計で音響監督として番組演出の一翼を担ってきた。22.2ch音響作品では実験的なドラマ「コーラス」など全く新しい音響表現を追求した。

今後も「頼りにされる音の専門職集団」として，活気あふれる地方局発のドラマ制作対応も含め，熟練の専門性を発揮して，NHK番組全体の質的向上を支援していきたい。

１．番組制作関連

（１）東日本大震災関連番組

『NHKスペシャル』『クローズアップ現代』『ETV特集』『明日へ～支えあおう』や東北管内制作番組の音響デザインに，年間を通じ一丸となって取り組んだ。復興と被災者の心情，次なる災害への対策，原発関連など２～３年を経てさらに問題が複雑化する中，視聴者の関心を喚起しながらいかに的確にメッセージを伝えるか，いかに番組構造を支え際立たせられるか深く考え番組に向き合った。特に３月，震災３年の節目となる時期には総力を挙げ，番組の枠を超えたトータルデザインを意識し，各番組の役割を明確にすべく計算しながらそれぞれのサウンドデザインに携わった。

（２）『NHKスペシャル』

政治・経済・社会・文化・自然など多岐にわたる番組に高度な音響表現で対応した。

「病の起源」「神の数式」「MEGAQUAKEⅢ」などの大型シリーズ番組において，誰も見たことのない世界を可視化したVFX映像に対し，オリジナリティー豊かな音楽と想像力を駆使し創作したイメージ音を精密に組み合わせて鮮烈で魅力的な音響世界を生み出し，視聴者の興味を喚起して番組への理解を深めた。

「ドキュメント消費増税」「台風　連続襲来」等の緊急性の高い番組では，迅速にマンパワーを結集し確実な送出に向けたマネジメントを進めながら，番組の本質を浮き彫りにする音響アプローチを行った。

「“認知症800万人”時代」「シリーズ“ジャパン　ブランド”」等では時代の最先端の動きをビビッドに切り取り，番組構造を際立たせ問題点や提言を明確にする音響構成を実践した。

（３）報道・スポーツ番組

14年２月，ソチ冬季五輪開催。テーマ音楽の委嘱をはじめ早期からプロジェクトに参加し，大会に向けて音響面から盛り立てることに貢献した。本放送においてもVTR作成・生放送対応等の音響面からとマネジメント面双方で国際的なスポーツイベントを支えた。また，『NHKスペシャル』「シリーズ金メダルへの挑戦」「羽生結弦　金メダルへの道」や，「ソチ五輪総集編」等の関連番組においても競技の躍動感とアスリートの精神性を描きだす音響表現でスポーツの魅力を十二分に引き出した。

2020年の東京オリンピック招致関連番組でも，音の面から機運を高めることに貢献した。

報道番組では『クローズアップ現代』をはじめ自然災害や政治課題，国際情勢の変化など社会的な事象をタイムリーにキャッチして伝える番組において，最新の情報を分かりやすく提示するデザインを実践した。また，７月の参院選をはじめ選挙報道では選曲・音源準備を担当した。

（４）情報・教養・開発番組

72時間の定点観測のスタイルをとった『ドキュメント72時間』では，音楽によって明確な「視点」を加え，現代に生きる人の生き方を浮き彫りにする音響表現で番組にメッセージ性を付加した。そのほかレギュラー番組『プロフェッショナ

ル　仕事の流儀』『地球イチバン』『新日本風土記』『アスリートの魂』等でも番組のカラーを打ち出し，訴求力を高めるサウンドデザインに尽力した。

正月放送の『ザ・プレミアム～よみがえる江戸城』では映像デザイン部が重点的に注力した「江戸城のフルCG再現」に対応し，リアリティーのある効果音を駆使して江戸城の空気感を再現しながら，バラエティーあふれる音楽で番組を彩り，スケールの大きな知的エンターテインメントを演出した。

（５）ドラマ番組

“幕末のジャンヌ・ダルク”とも称される新島八重の生涯を描く『大河ドラマ～八重の桜』では，銃剣をはじめとしたリアルな戦闘音等の効果音表現と，中島ノブユキ作曲の硬軟織り交ぜた劇伴音楽で彩り，番組を盛りたてた。

『連続テレビ小説～あまちゃん』では劇伴曲のほか，劇中で使用される音楽のプロデュースにも注力。オリジナル・サウンドトラックCDが推定累計売上総数５万2,000枚を超えるヒットを記録したほか，「潮騒のメモリー」「暦の上ではディセンバー」など劇中歌としてプロデュースした楽曲も大ヒットとなった。

『特集ドラマ～生きたい　たすけたい』は，東日本大震災発生時に実際に起こった出来事やエピソードを再構成してドラマ化したもので，リアルな音と心象に通じる音を巧みに音響構成して，絶望の中から立ち上がる人々の勇気と絆（きずな）を描いた。『特集ドラマ～はじまりの歌』ではテーマとなる合唱曲「ふるさと」の録音，現場再生に細心の注意を払い，最も効果的に提示してドラマに深みを持たせた。

このほか『土曜ドラマ』『ドラマ10』『特集ドラマ』『木曜時代劇』『BS時代劇』『プレミアムドラマ』においても，それぞれの番組の特徴を生かした音響設計を行い，『テレビ60年記念ドラマ～メイドインジャパン』（第１回）は文化庁芸術祭優秀賞を受賞した。

また，地域発ドラマ『父の花、咲く春』（岐阜），『狸（たぬき）な家族』（徳島），『恐竜せんせい』（福井），『菜の花ラインに乗りかえて』（千葉），『田上トパーズ！』（滋賀），『私の父はチャンポンマン』（長崎），『木曽オリオン』（長野），『ちょっとは、ダラズに。』（鳥取），『そんじょそこら商店街』（大分），『ダルマさんが笑った。』（高知）に音響デザイナーを派遣。作曲コーディネート，ロケ収録，現地MAまで番組制作支援を行った。

オーディオドラマでは『FMシアター』『青春アドベンチャー』『新日曜名作座』『特集オーディオドラマ』において，それぞれの特徴を生かしたラジオならではの音響デザインを行い，『FMシアター～2233歳』は文化庁芸術祭大賞を，『特集オーディオドラマ～瑞穂のくに』は同優秀賞を受賞した。

（６）22.2ch超高臨場感立体音響

13年度は，８Kスーパーハイビジョンのコンテンツが多様化した。NHK放送技術研究所の吹き抜けの回廊を使って22.2chサラウンド音楽録音に挑戦した８Kドラマ「コーラス」，高臨場スポーツコンテンツ「ソチ五輪」「コンフェデレーションズカップサッカー」，22.2chサラウンドを全面に生かした紀行系コンテンツ「仁淀川」，初めてインタビュー映像を入れ込んだドキュメンタリーコンテンツの「相馬野馬追」など，今までのフィラー的要素から更に一歩進んだ表現方法が要求された。多種多彩なコンテンツに対応するために，番組で使用した22.2ch用ロケ音素材のストック体制を開始，関係各所にも呼びかけ，NHK全体で８K用の効果音ライブラリーの備蓄を促している。また，今後スポーツ等での22.2chサラウンドの生放送対応や，制作系のMA作業を軽減するために，ステレオから22.2chサラウンドへリアルタイムで変換する音楽アップコンバーターを提案，開発。14年度に試験運用を兼ねて番組で使用し，これらのコンテンツに対応できる人員も増強していく。今後とも，NHK全体の８K22.2chサラウンドの普及に向けて，スキルを保持し，新たな表現に挑戦，飛躍的に表現ジャンルが広がる８Kコンテンツに対して，総合的に対策を進めていく。

２．番組企画関連

1985年４月から放送が始まった『音の風景』は29年目を迎えた。日本の津々浦々，ときには海外にまで範囲を広げ，音の魅力を伝える音声波のミニ番組である。13年度は５分の通常版を40本制作した。13年度のナレーターは岩槻里子アナウンサー。新作と再放送を合わせ，FMで６枠，R1で１枠，R2で21枠の放送を行った。このうちR2・16:20～の枠は『音の風景セレクション』として365日，毎日違う内容を放送した。番組ホームページではサンプルとして番組の一部を試聴できるほか，番組内容や取材風景を写真や地図上で詳しく紹介している。

夏季特集番組として『音の風景スペシャル川』（60分）を制作。（本放送13.8.16・10:00・

FM／再放送9.9・7:25・FM)。川をテーマに，スタジオトークとロケ音源で構成した。新規に取材した音源や，過去に録りためた音源を使用して川のさまざまな音を紹介。フランス・ARTE RADIOから素材の提供を受け，パリ・セーヌ川の音も盛り込んだ。スタジオ出演はヒデ（ペナルティ)，中本賢，安田美沙子，岩槻里子アナウンサー。また，11年冬の特集から始めたインターネットとの連動をさらにブラッシュアップして踏襲した。これはロケ取材時のもようやスタジオ収録風景など延べ454枚の写真で構成したスライドショー(ストリーミング映像）を番組内容とリンクする形で作成。音の風景スペシャル特設ホームページ上で放送に合わせて同時配信し，音声波を楽しみながら視覚でも楽しめるという新しいラジオの楽しみ方を提示した。ホームページアクセス数は，本放送日1,762pv，再放送日1,829pv。

３．設備関連

建設計画で採択された，効果準備室SE２，４，５，７，８の大規模な整備が完了した。

また，ノンリニア化については891倉庫を改装し，倉庫機能とともに，さまざまな映像変換を行えるサーバー室を兼ねた準備室を整備した。NHKのノンリニア体制の状況を見つつ今後も整備を継続する。

４．サウンドステーション・ライブラリー

「季節の地域シリーズ」の録音を13年度も継続。日本のさまざまな地域の音を集めるという目的のほかに，「番組に即必要な音を定点で季節ごとに録音する」という目的も兼ねて，『大河ドラマ～軍師官兵衛』の舞台の１つとなっている関西の滋賀周辺，『連続テレビ小説～花子とアン』の主な舞台でもある山梨の定点録音を敢行した。季節ごとの地域色豊かな音を収録するとともに，旬な音を番組で即時に利用できるライブラリーの効率的運用を狙った。

11月には時代劇に使用する殺陣（たて）音を新規に作成するプロジェクトを敢行。肉や野菜類，建築用鉄筋やレール，工具等を使用して刀剣類の効果音を作成した。「軍師官兵衛」等『大河ドラマ』での使用をはじめ，今後の時代劇で使用していく。

また，14年度ワールドカップや今後のオリンピック放送を見据え，サッカーアクション音を外部委託で録音，スポーツ系の新規ライブラリーを拡充した。

５．事業計画関連

（１）ミュージックライブラリー

オープンから２年を迎えた「NHKミュージックライブラリー」は，14年３月には登録楽曲数2,720曲へ成長した。「ラジオ第２放送の完全ライブラリー化」を目標に行った番組単位の楽曲委嘱では，語学など講座番組を中心に21番組のライブラリー化を実現した。また，12年度より継続して行っている趣味実用番組，13年度新たに取り組みを開始した自然番組をそれぞれターゲットとした委嘱では318曲の楽曲を制作し，運用されている。ベーシックライブラリーは13年度85曲を制作。『NHKスペシャル』と連動した楽曲委嘱と合わせて，番組のインターネット配信や国際展開力の強化へとつなげた。また，14年２月には利用者の拡大と利便性の向上を目的に外部効果担当者もライブラリーが利用できるようシステム改修を行った。ユーザーも736人に広がり，間接費削減に向けた取り組みを加速させている。

（２）にっぽん野鳥暦

効果音考証資料「日本動物暦」を発展させた番組制作支援のためのウェブデータベース「にっぽん野鳥暦」。システム開発２年目は，音響デザイナー向けとし，47都道府県の野鳥分布，画像・音声データ等に加えて，江戸期の分布データも充実させ完成させた。

補完放送

Ⅰ．データ放送

2000年12月１日のBSデジタル放送の開始とともに，デジタル放送ならではの新しいサービスとしてスタートしたNHKのデータ放送は，「生活をより便利で豊かにするサービス」「緊急時に役立つサービス」を基本に放送を行っている。

03年12月１日に東京・大阪・名古屋で開始された地上波データ放送は，06年12月１日までに全国の都道府県庁所在地とその周辺で放送がスタートした。07年10月１日をもって，NHKの全放送局が独自のデータ放送を送出するようになった。

データ放送は，映像･音声による通常の番組（本線番組）と連動しない「独立型」と，本線番組と関連した内容を同時に放送する「連動型」に分けられる。さらに，長期間定時的に編成する「定時」，一定期間編成する「特集」，地震・津波発生時や気象警報発令時などに随時編成する「随時」に分

類される。また，「連動型」の一形態として，リモコンを使ってアンケートやクイズに参加できる「双方向型」がある。

１．地上データ放送

総合テレビでは，データ放送を地域サービスの柱としており，地域と全国の『ニュース』『気象情報』とともに，独立型データ放送で暮らしに役立つ地域情報や生活情報を放送した。また，防災や生活に役立つ情報として『台風情報』や『大雨情報』『地震・津波情報』そして13年８月30日から運用が開始された『特別警報』等を随時放送した。

また，データ放送とインターネットに同時に情報発信できる「災害情報入力システム」の運用を13年６月に開始。同システムと自治体の避難情報等を伝える「公共情報コモンズ」との連携を推進している。

特集番組では，『第64回NHK紅白歌合戦』や『QB47』『双方向クイズ　天下統一』等で視聴者参加の双方向型データ放送を実施した。

オリンピック・ソチ大会においては，全ての日本選手の競技公式結果と途中経過等を伝えた一方，「スタンプラリー」や「みんなで選ぶベストシーン」の視聴者参加型コンテンツも実施した。

〔定時番組の概要〕

（１）総合テレビジョン

○独立型

・『ニュース』（地域および全国）
　各地域の地域向けニュースと全国ニュース。

・『気象情報』
　３時間ごとの天気，週間天気，気象の現況など。

・『地域情報』
　各地域放送局が，地域情報，防災情報，生活情報等を提供する，きめ細かな地域向けサービス。

○連動型

・『大河ドラマ』『連続テレビ小説』

○双方向型

・『あさイチ～スゴ技Q』

（２）Eテレ

○独立型

・『アニメ　ファイ・ブレイン３』『アニメ　ログ・ホライズン』
　番組紹介のほか，視聴時間に応じてアニメマイルがたまり，データ放送独自の特典映像などを見て，パズルで遊ぶことができた。

○連動型

・『グレーテルのかまど』『アニメ　ファイ・ブレイン３』『アニメ　ログ・ホライズン』

（３）ワンセグサービス

06年４月から地上デジタル放送でワンセグサービスを開始し，08年４月からは地域向けサービスを全国の放送局で開始した。データ放送は，総合テレビでは『ニュース』『気象情報』のほか，『プロ野球』『Jリーグ』『大リーグ』などのスポーツ情報や，『大河ドラマ』などの番組関連情報を携帯電話の通信機能を生かして提供した。また，緊急時の『地震・津波情報』などを随時放送した。

Eテレでは，一部の時間帯でワンセグ独自サービス『NHKワンセグ２』を編成し，多様な番組を放送するとともに連動型データ放送を行った。

２．BSデータ放送

BS1の独立型サービスとしては，『ニュース』『気象情報』『スポーツ情報』『円と株～経済情報』などの定時サービスのほか，防災や生活に役立つ情報として『台風情報』『大雨情報』『地震・津波情報』を随時放送した。

BSプレミアムでは，独立型サービスとして『BSプレミアム番組情報』を，また連動型サービスとして『大河ドラマ』や『連続テレビ小説』『世界ふれあい街歩き』などを放送した。また，ドラマやこども番組を見るとマイルがたまり，PCの壁紙などの特典がある「BSマイル」のサービスを実施した。

〔定時番組の概要〕

（１）BS1

○独立型

・『ニュース』（全国）
　24時間いつでも見ることのできる最新の全国ニュース。

・『気象情報』
　「市区町村別の天気」や「週間予報」など，日常生活や防災に役立つ気象情報。

・『スポーツ情報』
　プロ野球，Jリーグ，大リーグなどの途中経過・結果速報など。

・『円と株～経済情報』
　株価と為替を中心とした経済動向の速報サービス。

（２）BSプレミアム

○独立型

・『BS番組情報』での番組紹介や，『大河ドラマ』など個別番組の情報を提供した。

○連動型
・『大河ドラマ』『連続テレビ小説』『世界ふれあい街歩き』など。

Ⅱ．字幕放送

テレビ音声を文字で表示する「字幕放送」などの補完放送を実施している。

字幕放送は，07年秋に総務省が策定した「視聴覚障害者向け放送普及行政の指針」（08～17年度・以下“新指針”とする）の趣旨を踏まえ，NHK独自の「字幕拡充計画」を基に，計画的かつ段階的に拡充を図っている。公共放送の重要な役割として，バリアフリー放送＝“人にやさしい放送”の充実を図り，情報保障の推進に積極的に取り組んでいる。

13年度は，総合，Eテレ，BS1，BSプレミアムを合わせて，249番組・週264時間39分（定時番組・４月期改定）に字幕を付与した。

各波の週平均の放送時間は以下のとおり。

総合　113時間13分
（対12年度比較　+10時間34分）
Eテレ　71時間59分
（対12年度比較　+10時間40分）
BS1　９時間03分
（対12年度比較　＋３時間40分）
BSプレミアム　70時間24分
（対12年度比較　+16時間43分）

完プロ（収録）番組は，定時番組以外は夏，冬の特集編成，祝日編成を中心に字幕放送を実施した。

生字幕放送は，定時番組『NHKのど自慢』（総合・日・12:15）を年度当初から開始した。

東日本大震災から３年関連番組では，『震災から３年　特集　明日へ～支えあおう』（総合・3.9），『震災から３年“明日へ”コンサート』（総合・3.10），『東北発☆未来塾　生放送スペシャル』（Eテレ・3.9）などで生字幕放送を実施した。

スポーツ中継では，『第85回選抜高校野球大会～準決勝』（Eテレ・4.2），『第67回全日本体操選手権』（総合・5.12），『ウィンブルドン2013～女子シングルス・決勝』（総合・7.6），『ウィンブルドン2013～男子シングルス・決勝』（総合・7.7），『第95回全国高校野球選手権大会～準決勝』（総合・Eテレ・8.21），『第61回全日本剣道選手権』（総合・11.3），『女子第25回全国高校駅伝』（総合・12.22），『男子第64回全国高校駅伝』（総合・12.22），『第93回天皇杯全日本サッカー選手権～準決勝』（総合・12.29），『第50回全国大学ラグビー選手権～準決勝』（総合・1.2），『第32回全国都道府県対抗女子駅伝』（総合・1.12），『第19回全国都道府県対抗男子駅伝』（総合・1.19），『第55回NHK杯全日本ジャンプ』（総合・2.2），『第51回ラグビー日本選手権～準決勝』（Eテレ・3.1）で初めて生字幕放送を実施した。このほか，『ソチオリンピック』（総合・2.8ほか）は，総合テレビのすべてとEテレの一部のオリンピック放送に字幕を付与し，大会期間中合計で165時間44分に上った。『ソチパラリンピック』（総合・Eテレ・3.8ほか）でも，期間中のすべての関連番組に生字幕付与を行った。このほか，『大相撲』（６場所），『プロ野球』（13試合），『MLBアメリカ大リーグ』（２試合），『Jリーグ』（６試合），『第89回日本水泳選手権』（総合・4.13～14），『日本ゴルフツアー選手権』（総合・6.22～23），『第13回全国障害者スポーツ大会　東京大会～開会式』（Eテレ・10.12），『2013 NHK杯フィギュア』（総合・11.8～10），『第69回びわ湖毎日マラソン』（総合・3.2）などに付与した。

特集番組では，『しあわせニュース』（総合・２本），『平成25年　広島平和記念式典』（8.6），『平成25年　長崎平和祈念式典』（8.9），『第45回　思い出のメロディー』（総合・8.10），『いじめをノックアウトスペシャル』（Eテレ・9.7），『わが心の大阪メロディー』（総合・10.29），『きょうの料理クッキングコンテスト2013』（Eテレ・11.2），『第64回NHK紅白歌合戦』（総合・12.31），『もうすぐ「軍師官兵衛」生放送カウントダウンスペシャル』（総合・1.5），『NHKのど自慢チャンピオン大会2014』（総合・3.1）などに付与した。

Ⅲ．その他の補完放送

このほかの補完放送には，音声多重を使った「ステレオ放送」「２か国語放送」「解説放送」がある。「解説放送」は主に視覚障害者のためのサービスである。

「２か国語放送」と「解説放送」は総合，Eテレ，BS1，BSプレミアムで実施した。